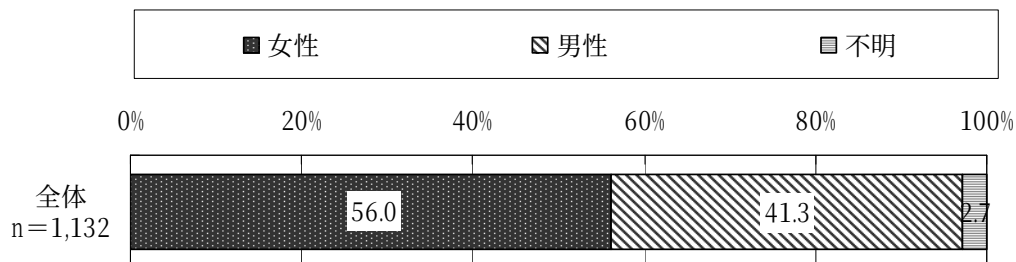
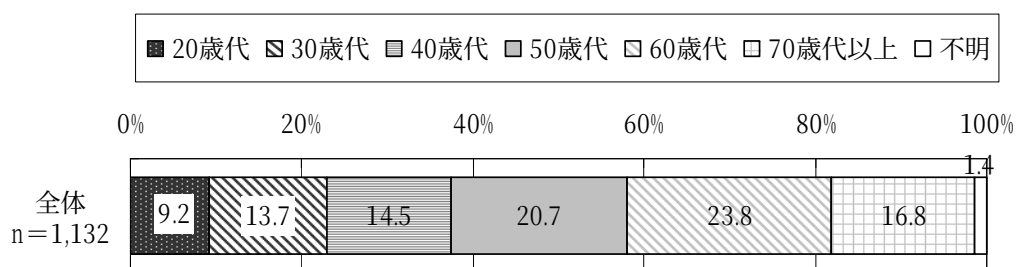


■ 回答者の属性

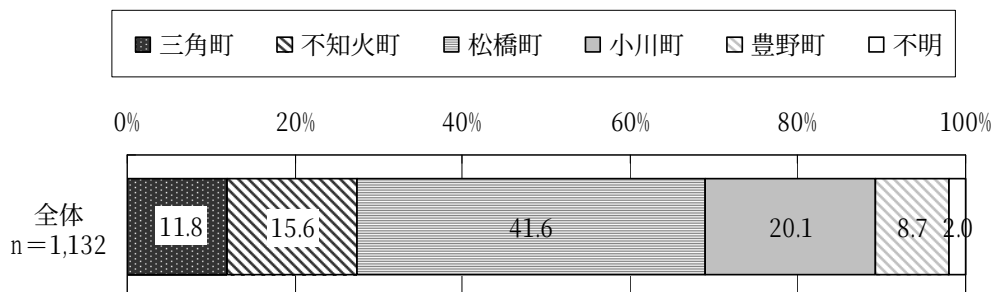
(1) 性別



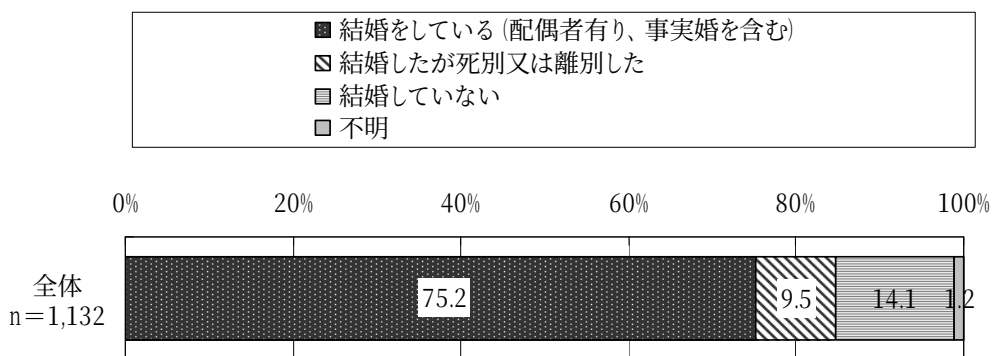
(2) 年齢



(3) 居住地区

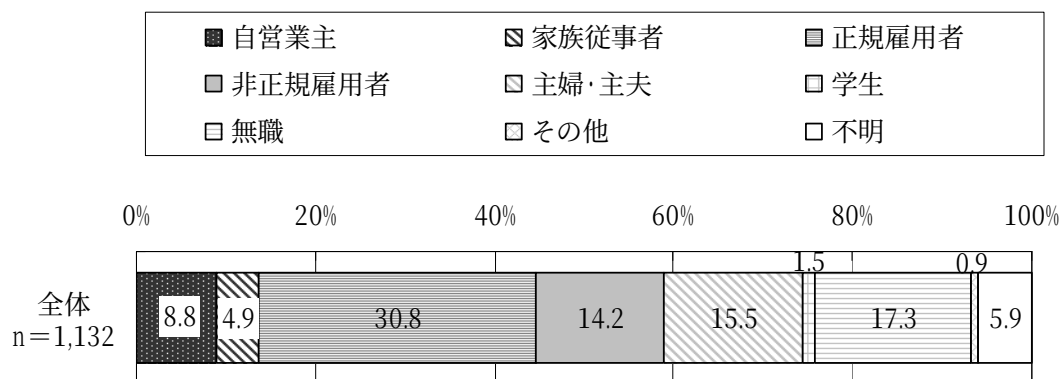


(4) 婚姻の有無

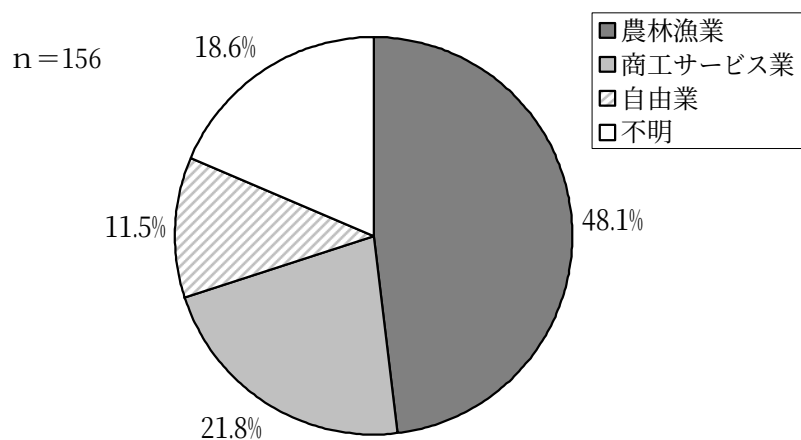


(5) 職業

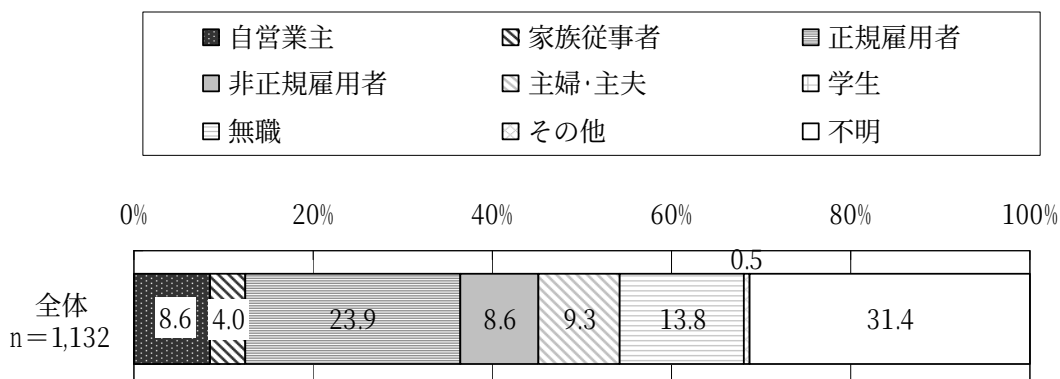
①本人



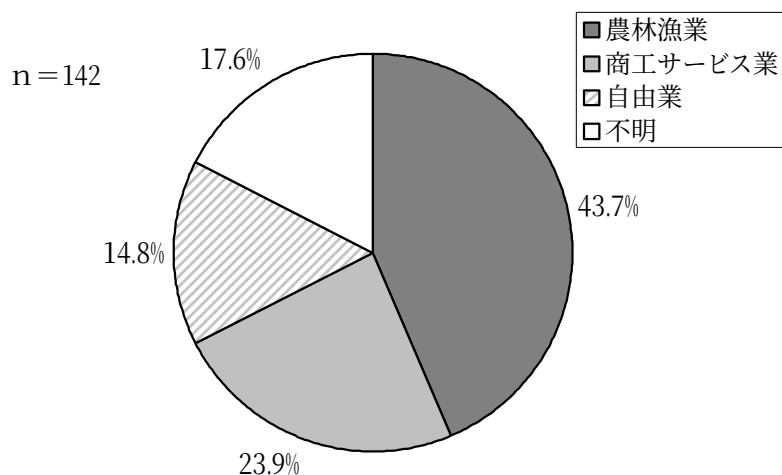
②自営業の種類（本人）



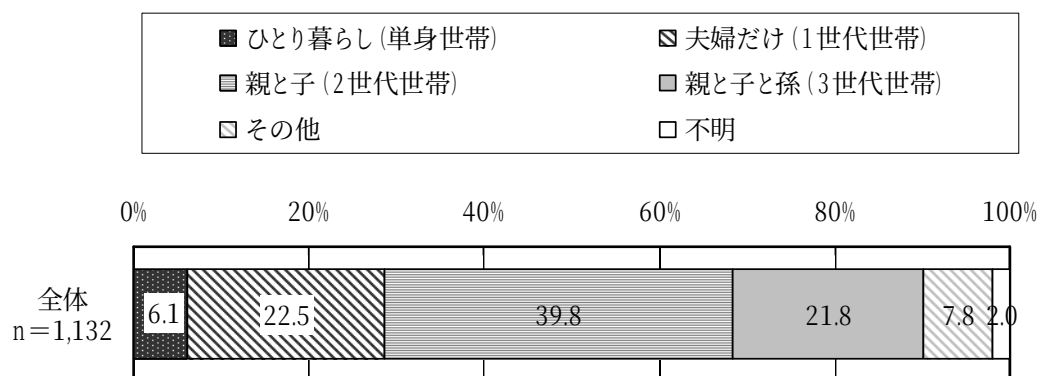
③配偶者



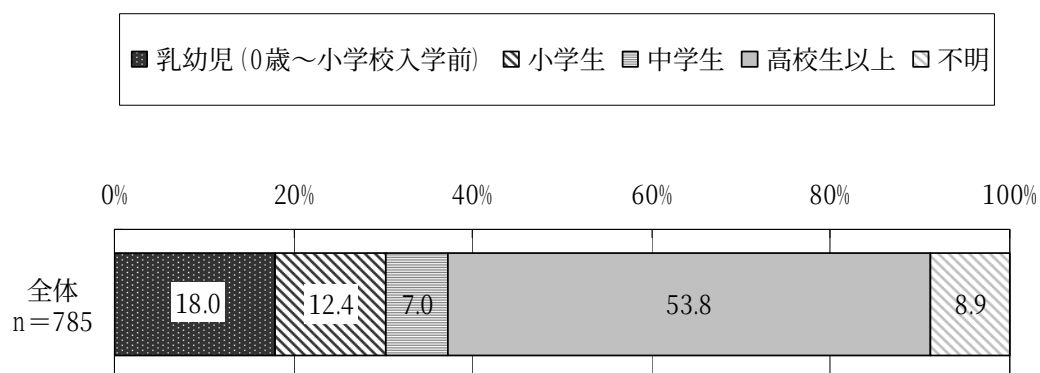
④自営業の種類（配偶者）



(6) 家族構成

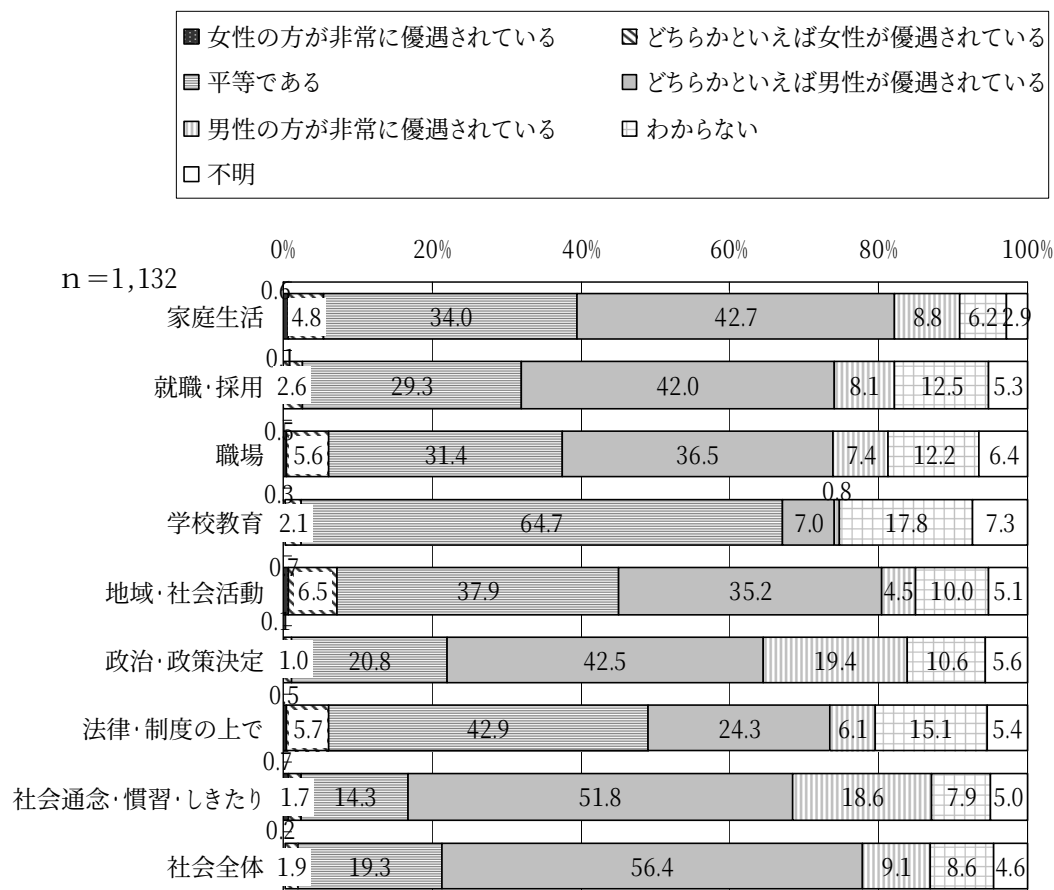


(7) 世帯最年少者の年齢



1. 男女平等について

問2 あなたは、次に掲げる(1)～(9)までの分野で、男性と女性は平等だと思いますか。それぞれの分野について、あてはまるものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)



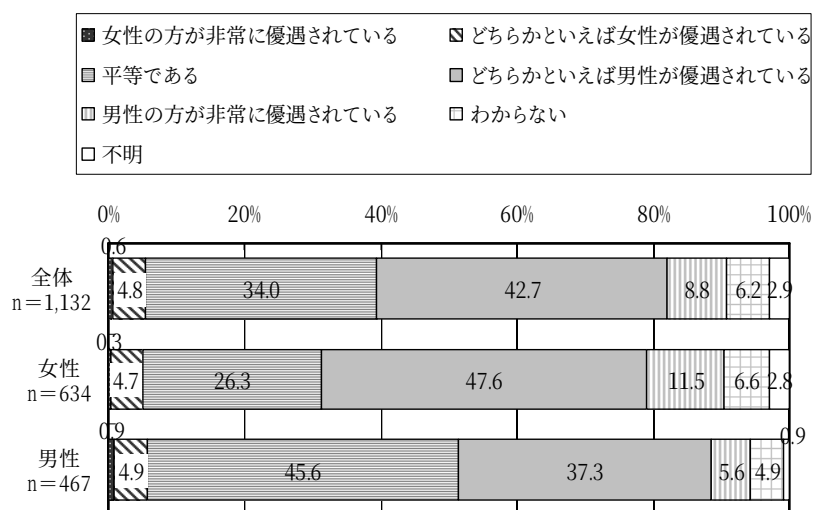
男女の平等について、「家庭生活」「就職・採用」「職場」「学校教育の場」「地域・社会活動」「政治・施策決定の場」「法律や制度」「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体」の9つの分野をとおして傾向をみた。

「平等である」との回答が最も多い項目は、「学校教育の場」(64.7%)、「法律・制度」(42.9%)となっており、それ以外の分野ではすべて『男性優遇感』(「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計)が高い割合を占めている。特に「社会通念・慣習・しきたり」(70.4%)では『男性優遇感』が7割以上と高い割合を占めている。

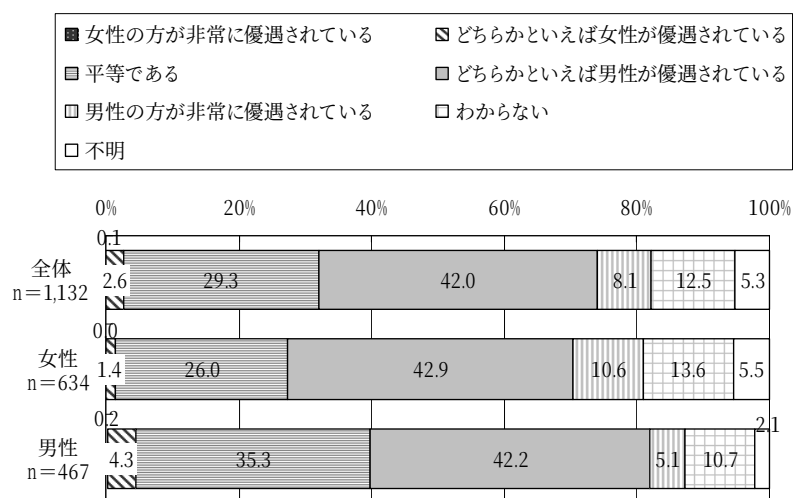
【性別】

性別にみると、男性はいずれの分野でも「平等である」と考える人の割合が女性に比べて高い。特に「法律・制度」では、その差が14.1ポイント(女性37.7%、男性51.8%)と大きくなっている。

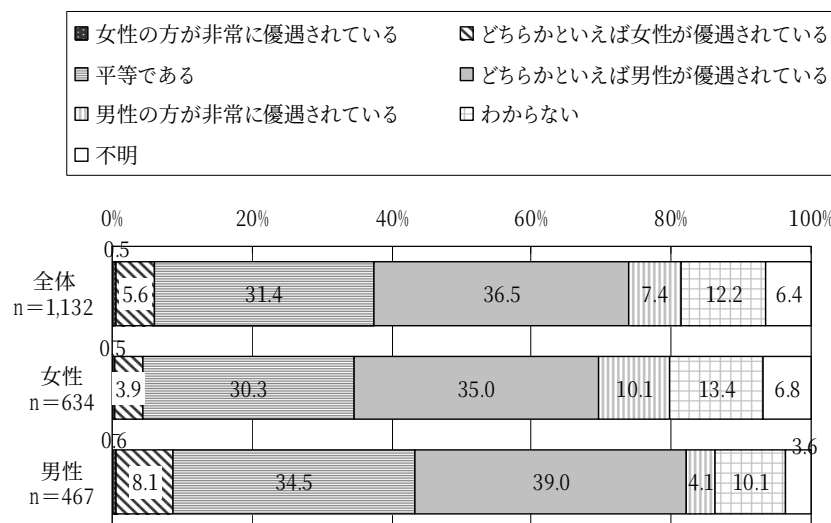
○家庭生活



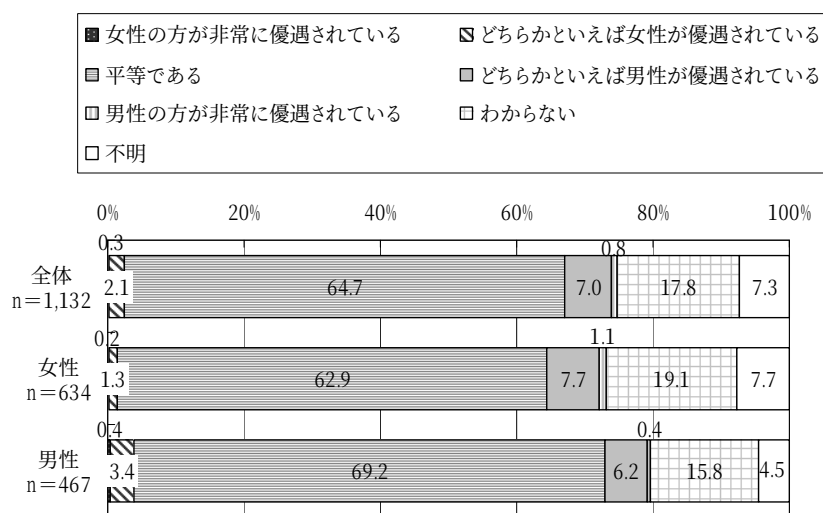
○就職・採用



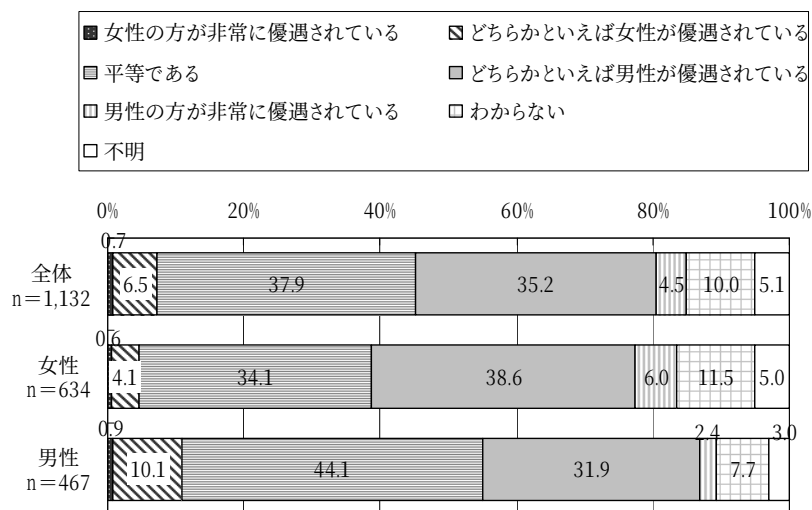
○職場



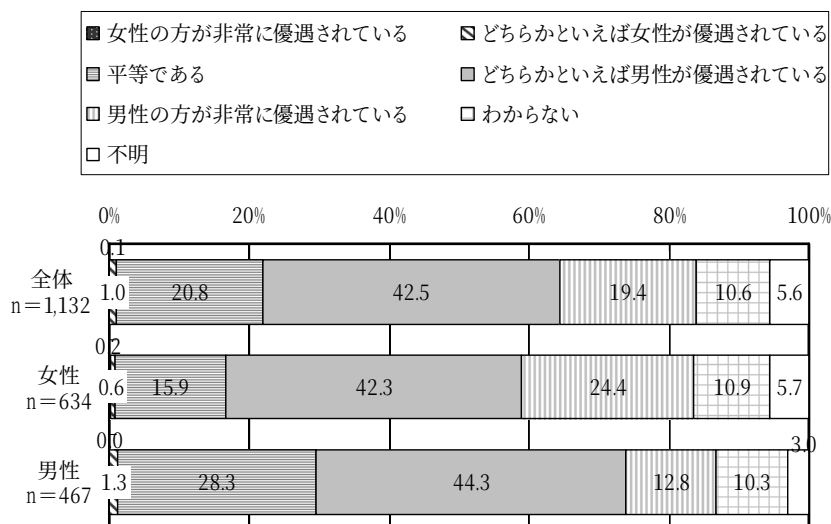
○学校教育



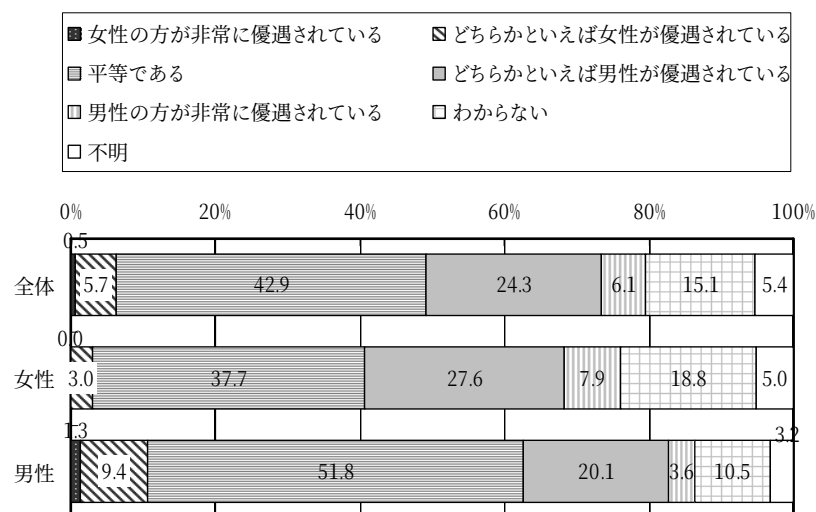
○地域・社会活動



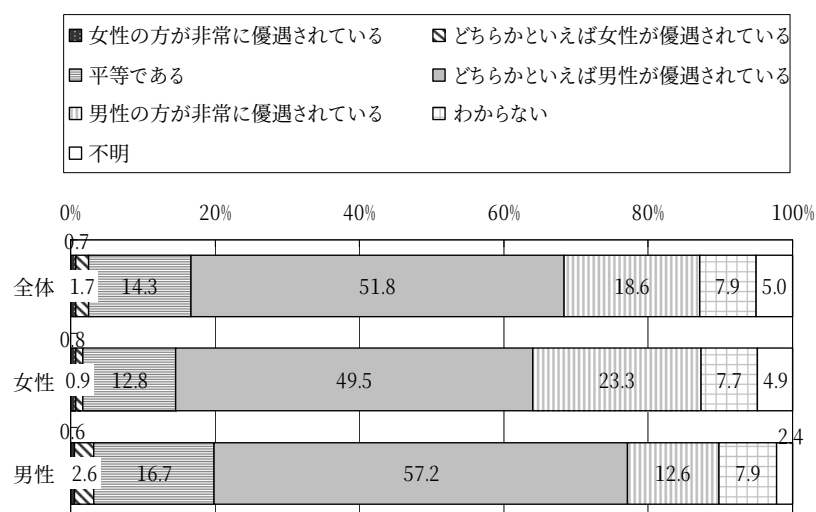
○政治・政策決定



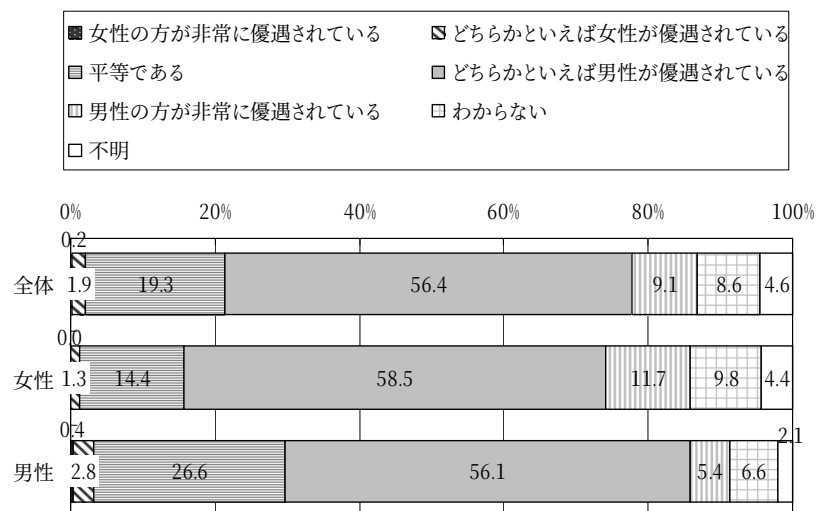
○法律・制度のうえで



○社会通念・慣習・しきたり

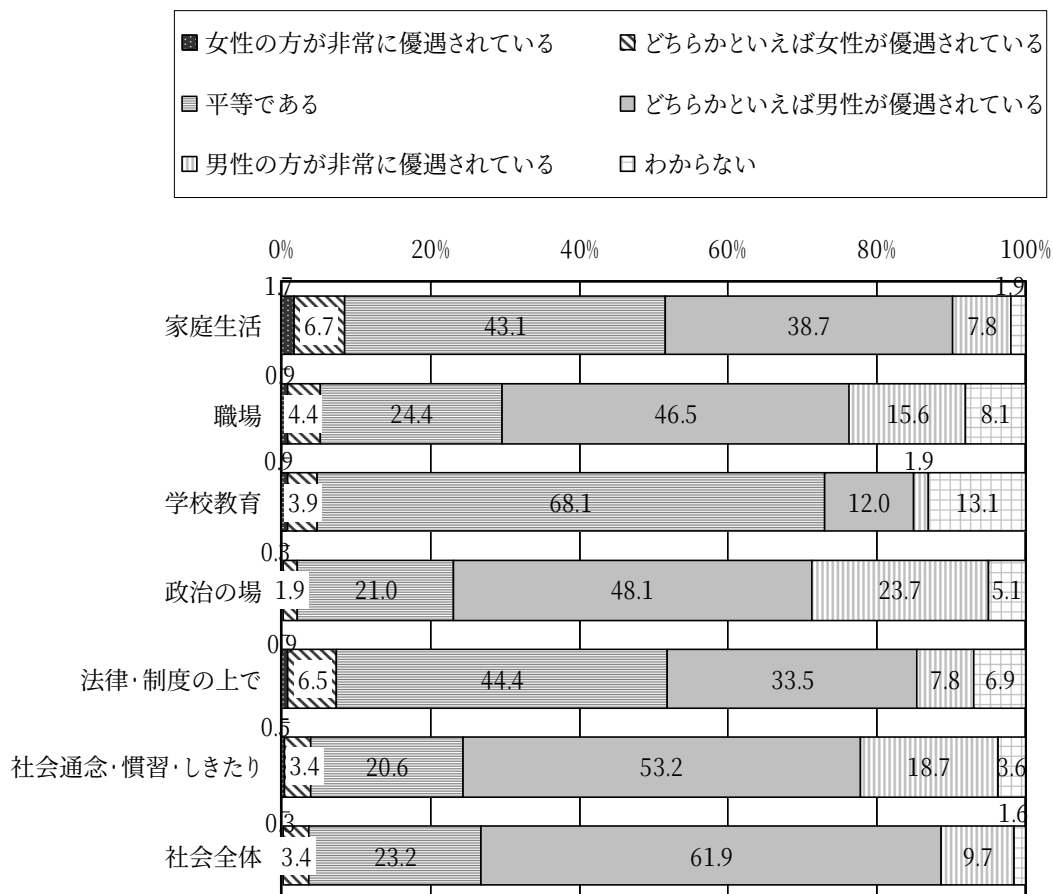


○社会全体



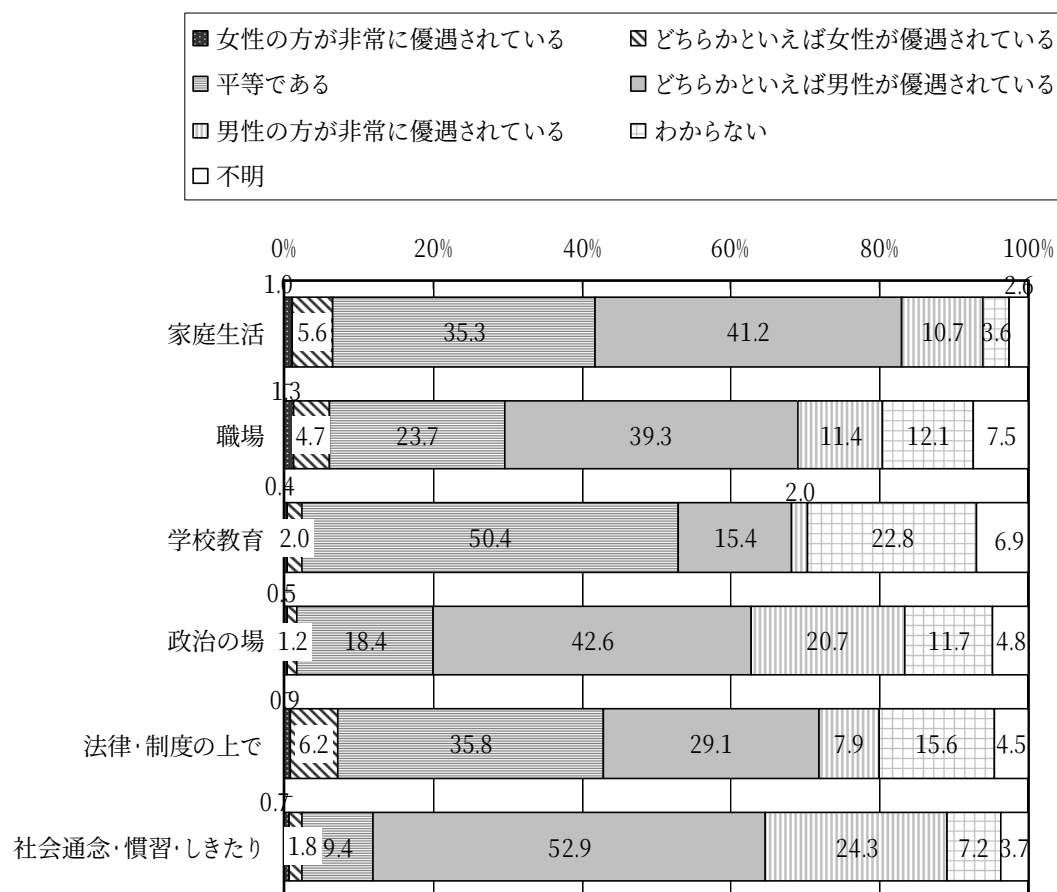
【国・県調査との比較】

○内閣府男女共同参画に関する世論調査（平成 21 年度）



学校教育、法律・制度のうえでのみ平等の割合が高く、このほかではいずれも男性の優遇感が強くなっている傾向は本市と同じであるが、このほか家庭生活、社会通念・慣習・しきたりにおいては、本市に比べ「平等である」の割合が高く、職場、法律・制度の上で、政治の場、社会全体では、国の方で男性優遇感が強くなっている。

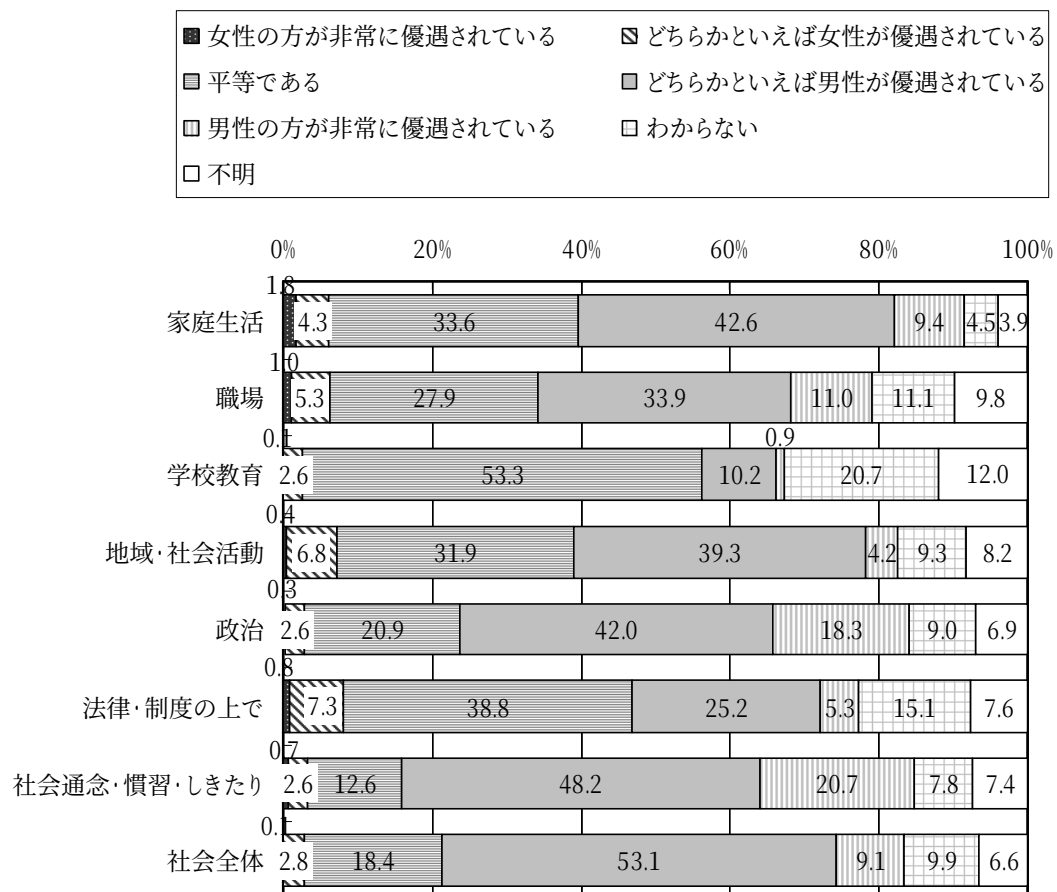
○平成21年度 男女共同参画に関する県民意識調査（熊本県）



県の結果との比較では、家庭生活では本市とほぼ同じ傾向にあり、職場、学校教育、法律・制度のうえで、社会全体では、本市のほうで「平等である」の割合が高い。

【前回調査との比較】

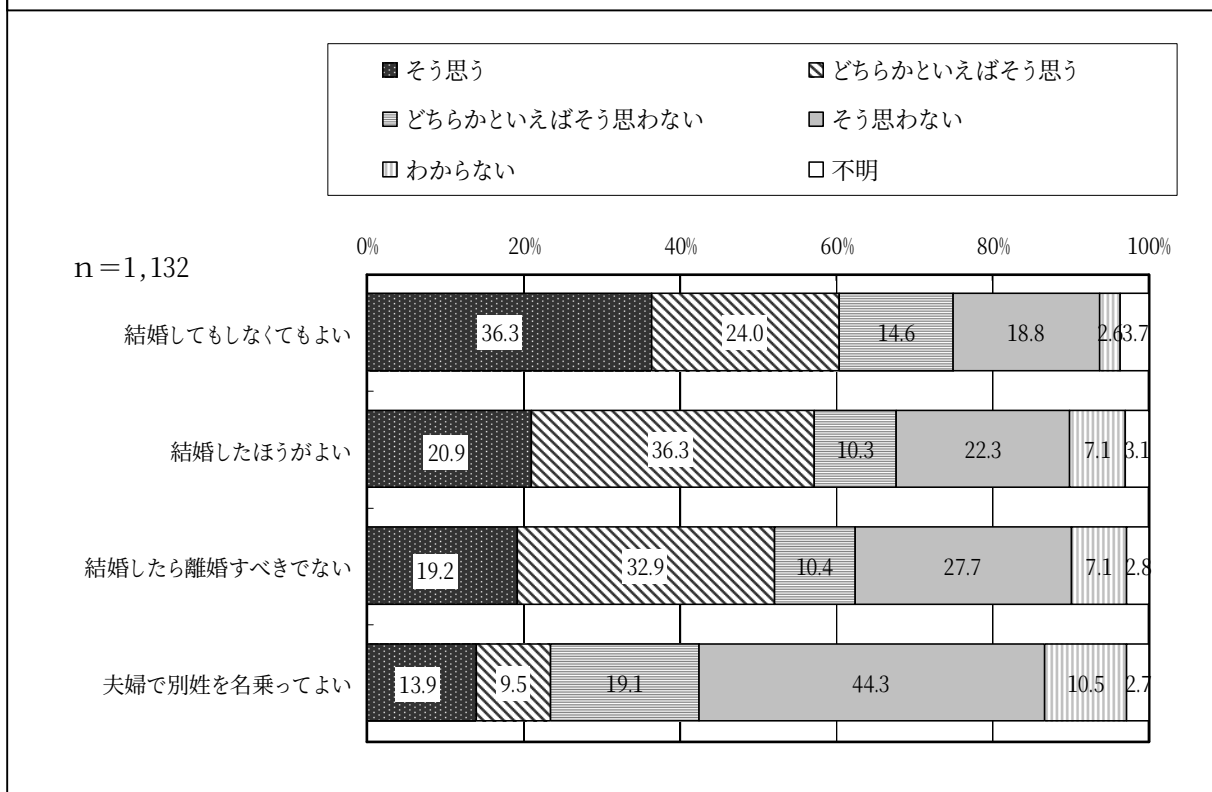
○平成17年度宇城市男女共同参画市民意識調査



「平等である」との回答が最も多い項目は、「学校教育の場」、「法律・制度」であり、それ以外の分野ではすべて『男性優遇感』（「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が高い割合を占めている。特に「社会通念・慣習・しきたり」では『男性優遇感』が7割近くを占めている。これは、今回の調査とほぼ同じ傾向である。

2. 結婚観について

問3 次に掲げる(1)～(4)の分野で、あなたの考えに近いものを1つずつ選んでください。
(○はそれぞれ1つずつ)



結婚に関する4つの考え方についての意見を質問した。この結果、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよい」という考え方については、「そう思う」(36.3%)との回答が最も多く、『賛成派』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)が60.3%と過半数を占めている。

「精神的にも経済的にも安定するから、結婚した方がよい」についても、『賛成派』が57.2%と高い割合を占めている。また、「結婚したら離婚すべきでない」という考え方も、『賛成派』が52.1%を占める。

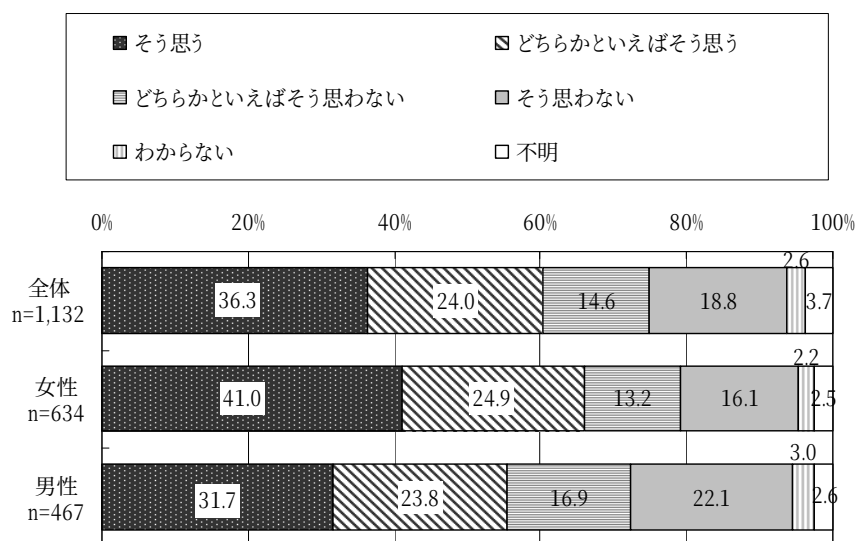
一方、「夫婦が別々の姓(別姓)を名乗ってよい」という考えについては、「そう思わない」(44.3%)との回答が最も多く、『反対派』(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)が63.4%を占める。

【性別】

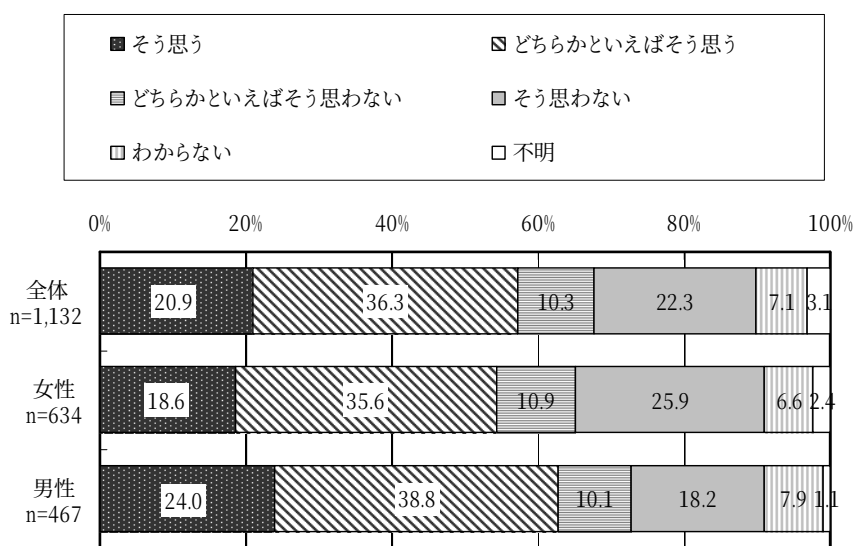
性別にみても全体と同じような傾向にあるが、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよい」では男性に比べ女性の『賛成派』の割合が高く、「精神的にも経済的にも安定するから、結婚した方がよい」「結婚したら離婚すべきでない」という考え方については、男性の割合が高くなっている。

また、「夫婦が別々の姓（別姓）を名乗ってよい」という考えについては、男性の『反対派』の割合が高くなっている。

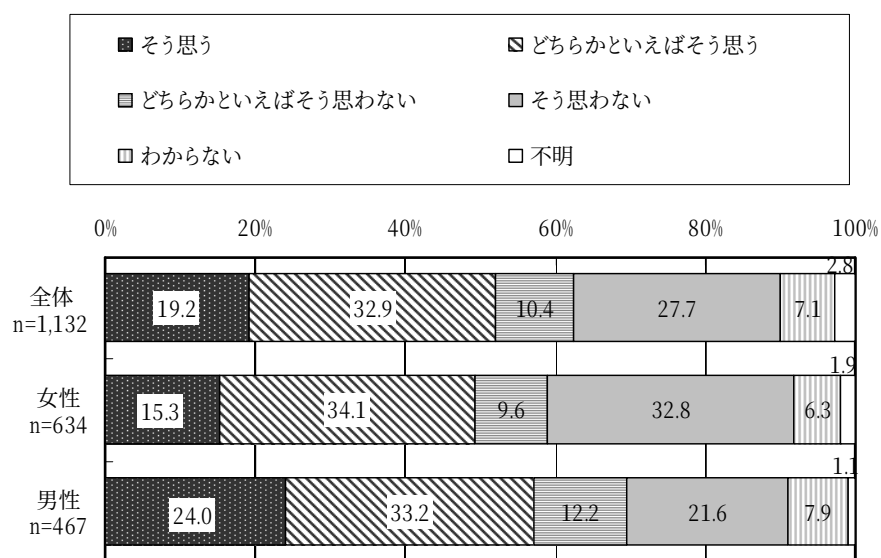
○結婚は個人の自由であるから、結婚しても結婚しなくてもどちらでもよい



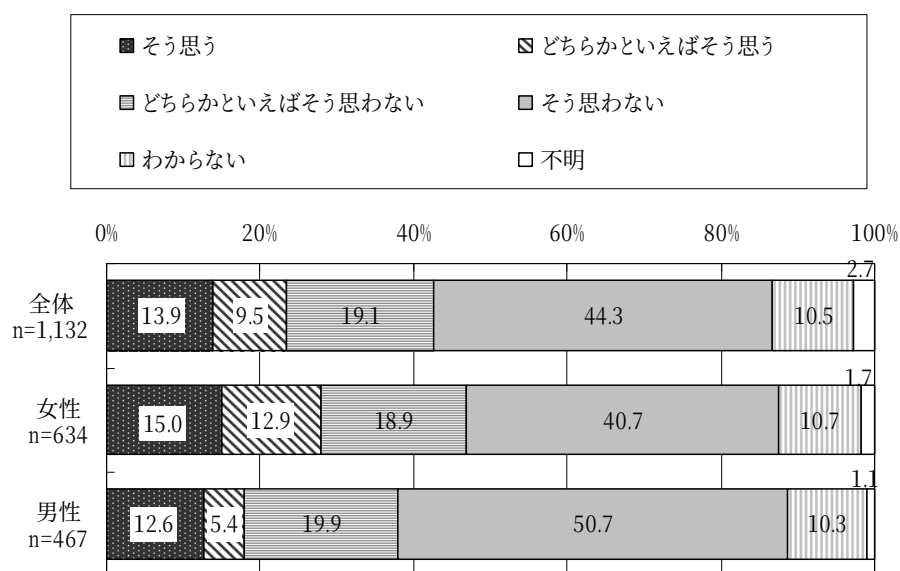
○精神的にも経済的にも安定するから、結婚した方がよい



○結婚したら、離婚すべきでない



○夫婦が別々の姓（別姓）を名乗ってよい



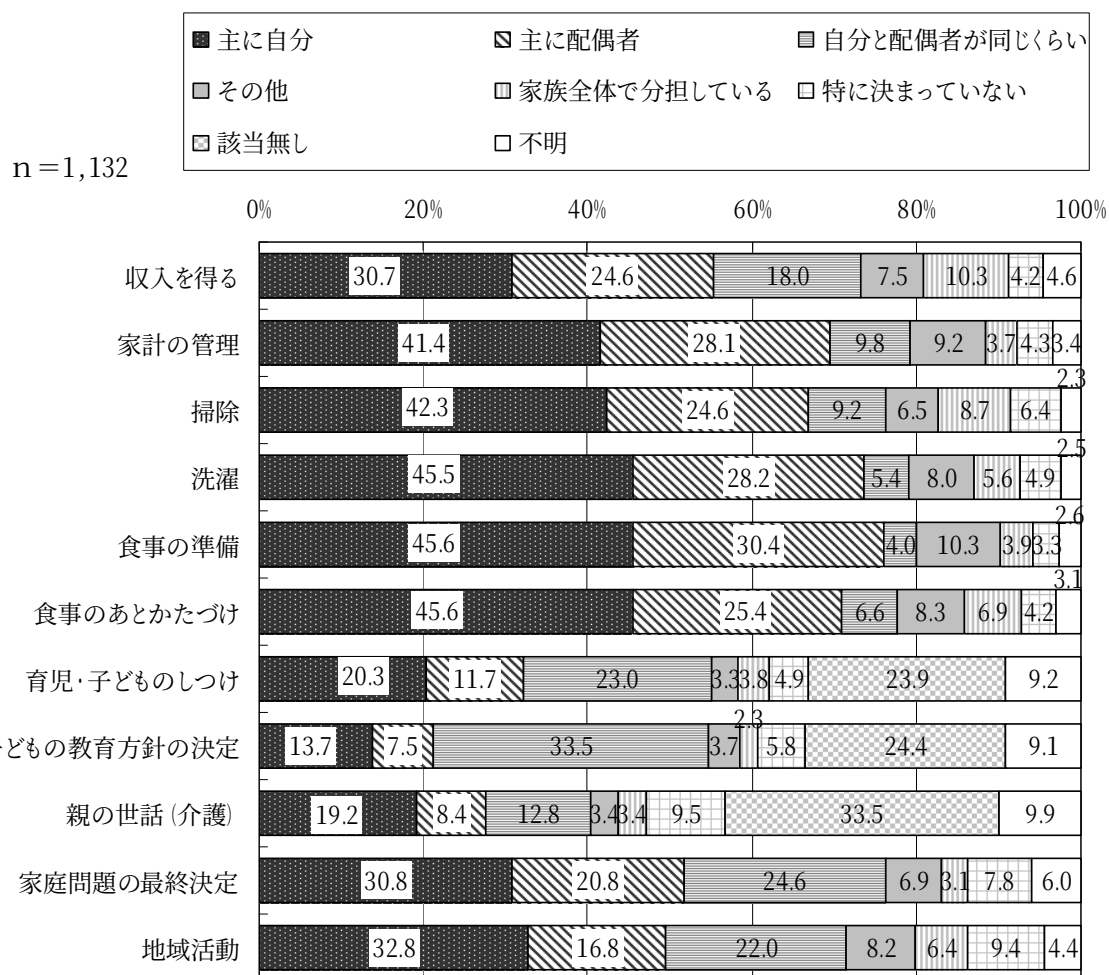
3. 家庭生活全般について

(1) 家庭での役割分担

問4 あなたのご家庭では、次に掲げるようなことは、主にどなたの役割ですか。

(1)～(11)までのそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。

(○はそれぞれ1つずつ)

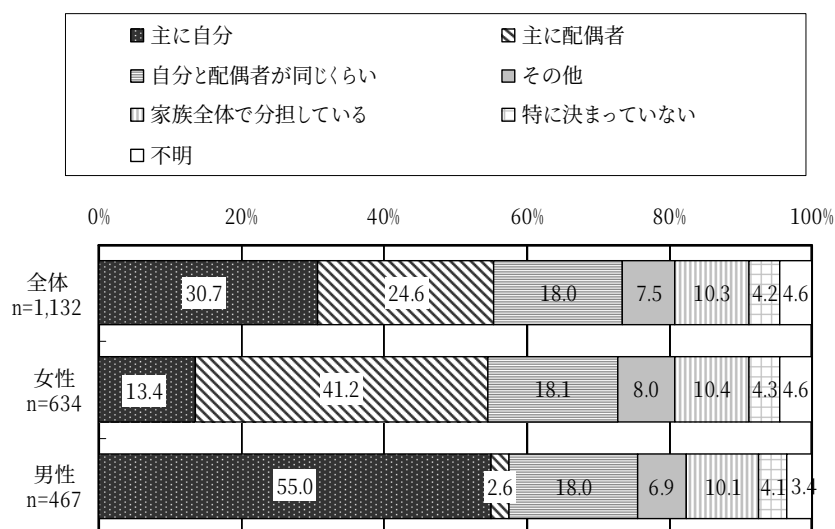


【性別】

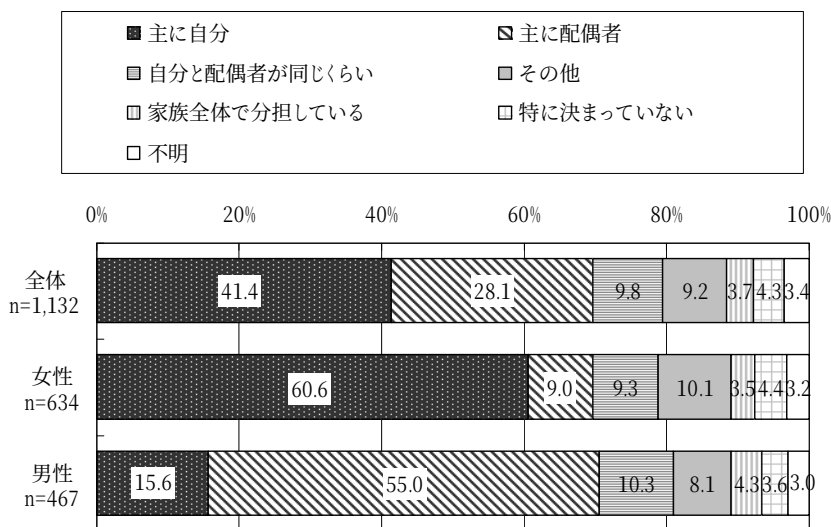
性別にみると、『家計を支えるための収入を得る』では、男性の場合「主に自分が」(55.0%)、女性では「主に配偶者」(41.2%)の割合が高いが、『家計の管理』『掃除』『洗濯』『食事の準備』『食事のあとかたづけ』などの家事は、男性の場合「主に配偶者」、女性の場合「主に自分」との回答が最も多く、これらの役割は、女性が中心となって担っていることがわかる。また、同様に『育児、子どものしつけ』『親の世話(介護)』についても、女性への依存が高い傾向がみられる。

一方、『子どもの教育方針の決定』については、男女ともに「自分と配偶者が同じくらい」との回答が多くなっており、『家庭の問題における最終的な決定』については、女性では「主に配偶者」、男性では「主に自分」の割合が高く、男性が中心となっていることがわかる。

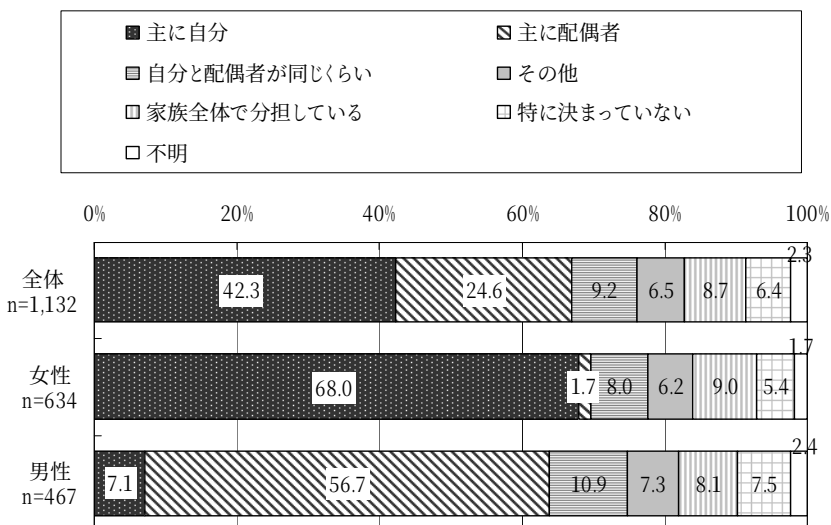
○家計を支えるための収入を得る



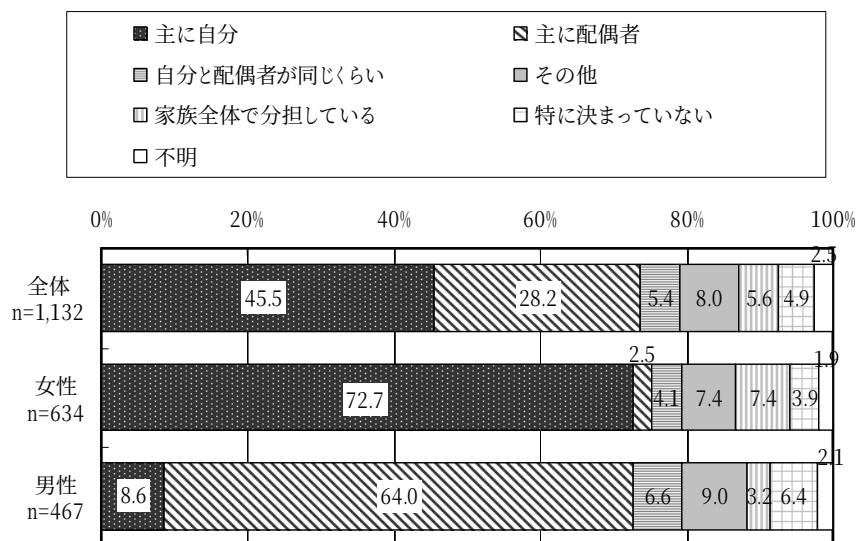
○家計の管理



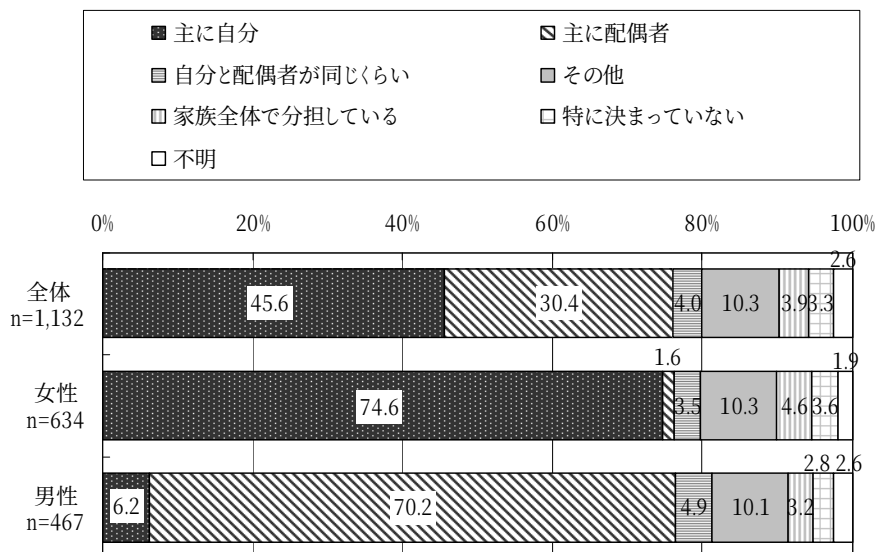
○掃除



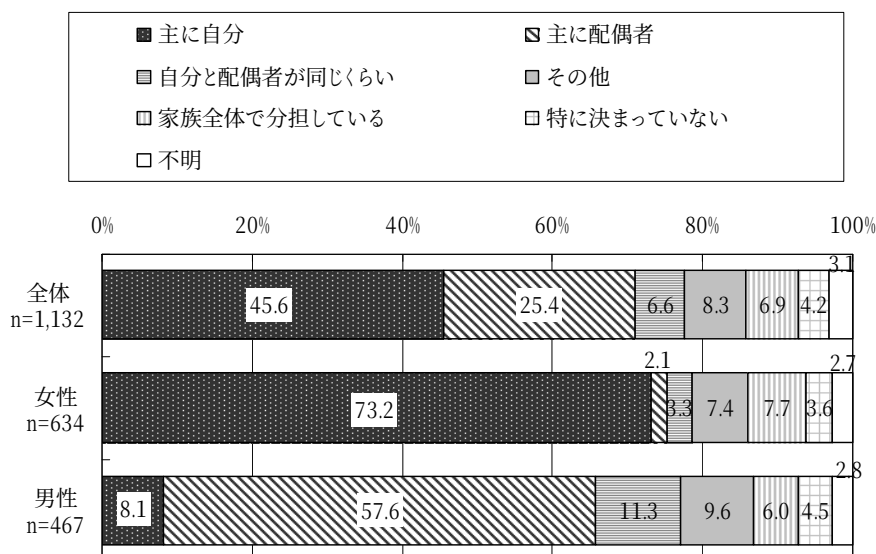
○洗濯



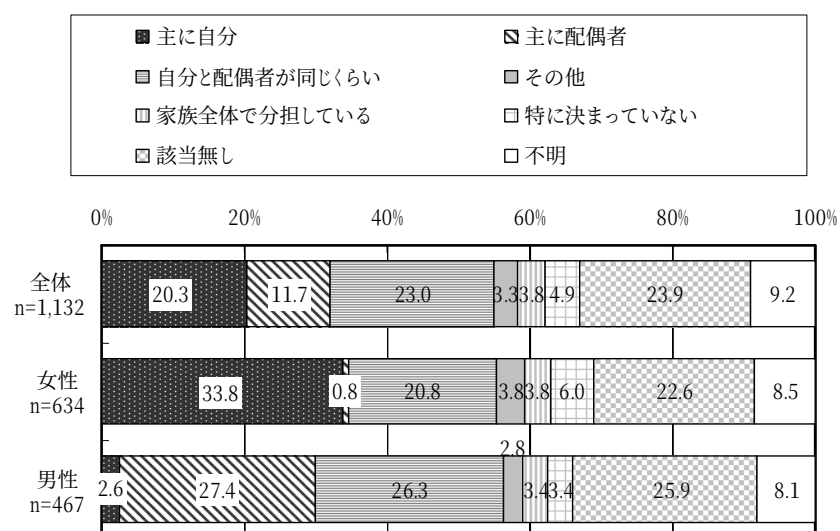
○食事の準備



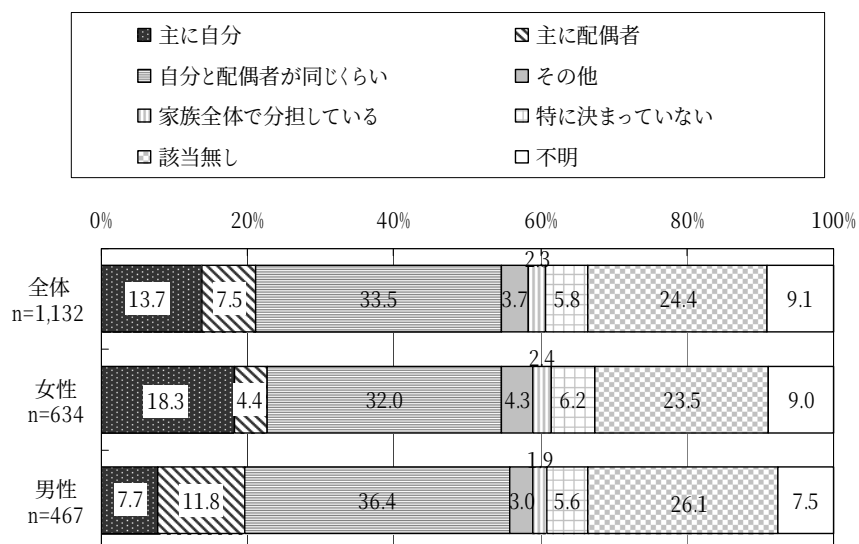
○食事のあとかたづけ



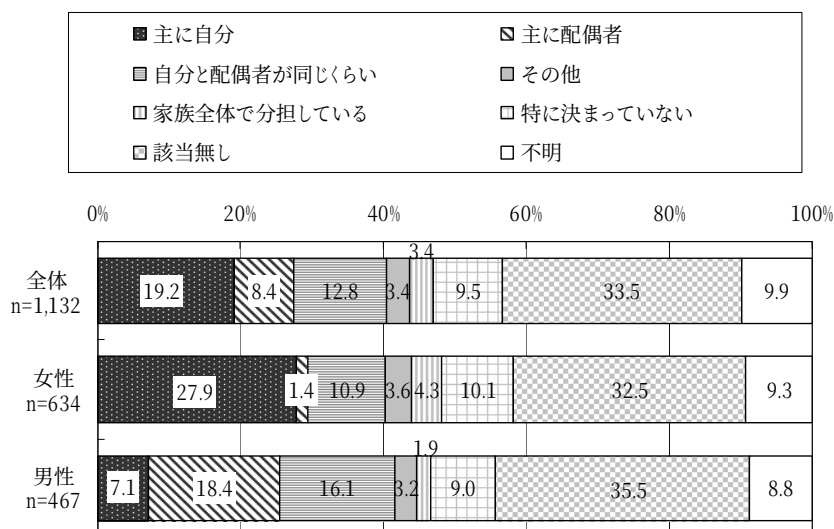
○育児、子どものしつけ



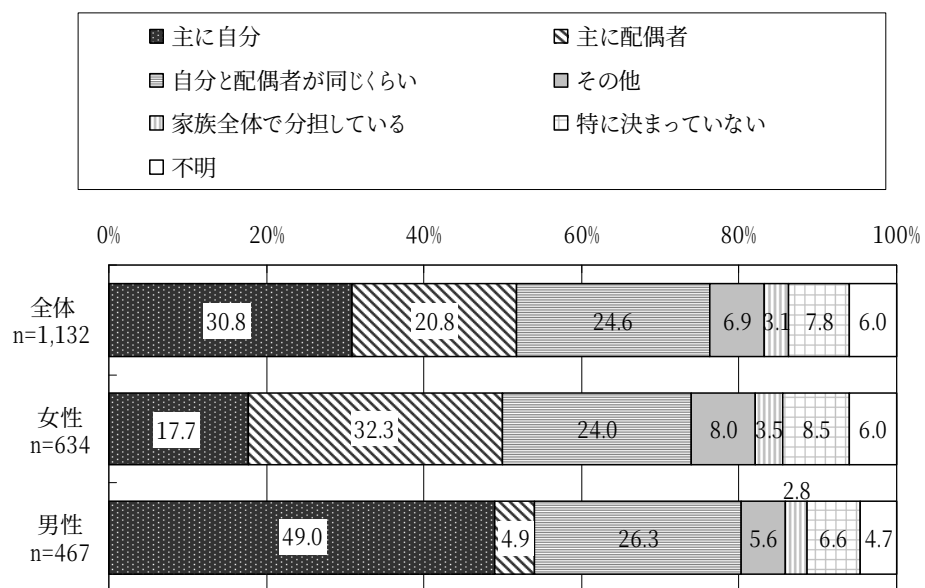
○子どもの教育方針の決定



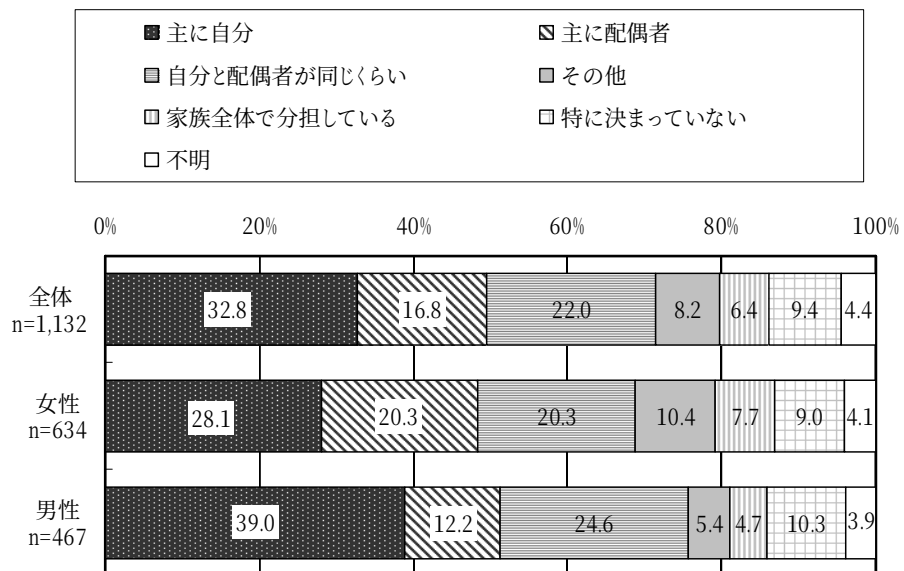
○親の世話（介護）



○家庭の問題における最終的な決定

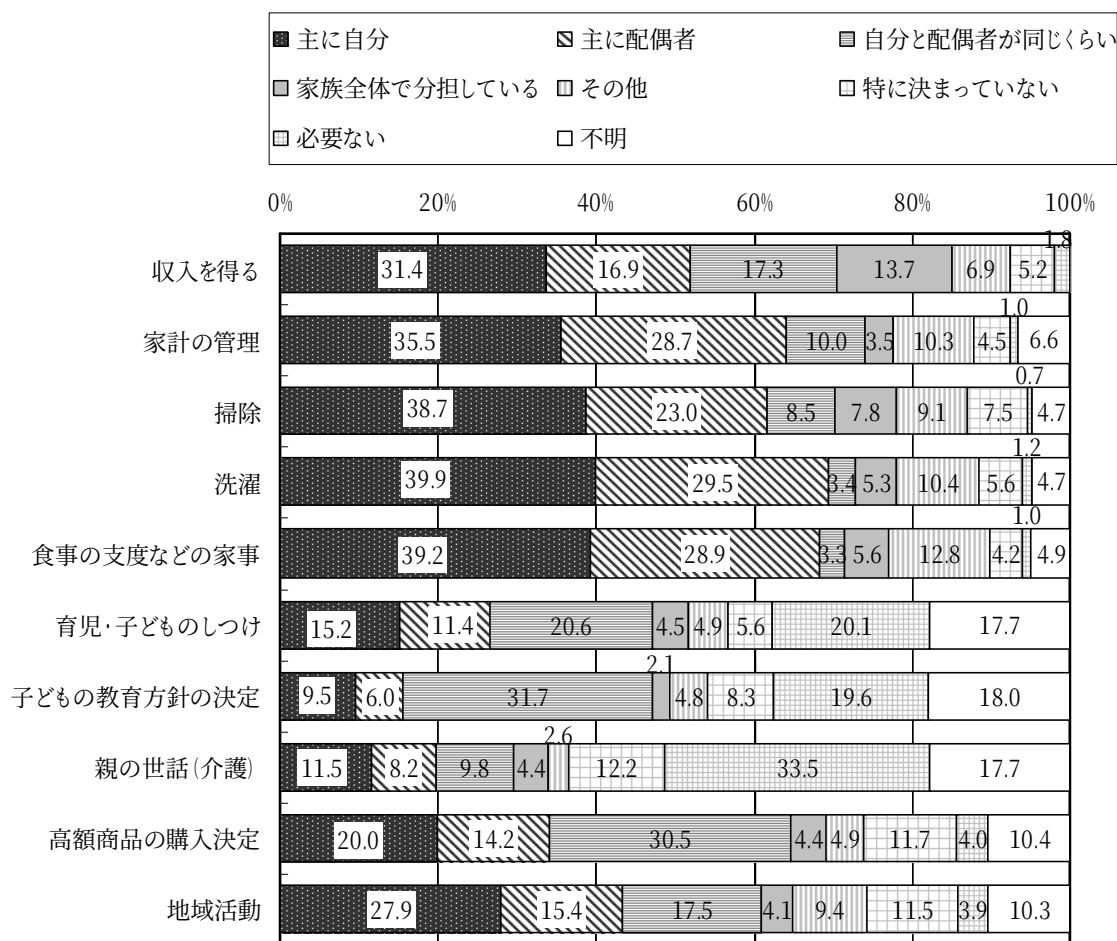


○地区の行事などの地域活動



【前回調査との比較】

○平成17年度宇城市男女共同参画市民意識調査

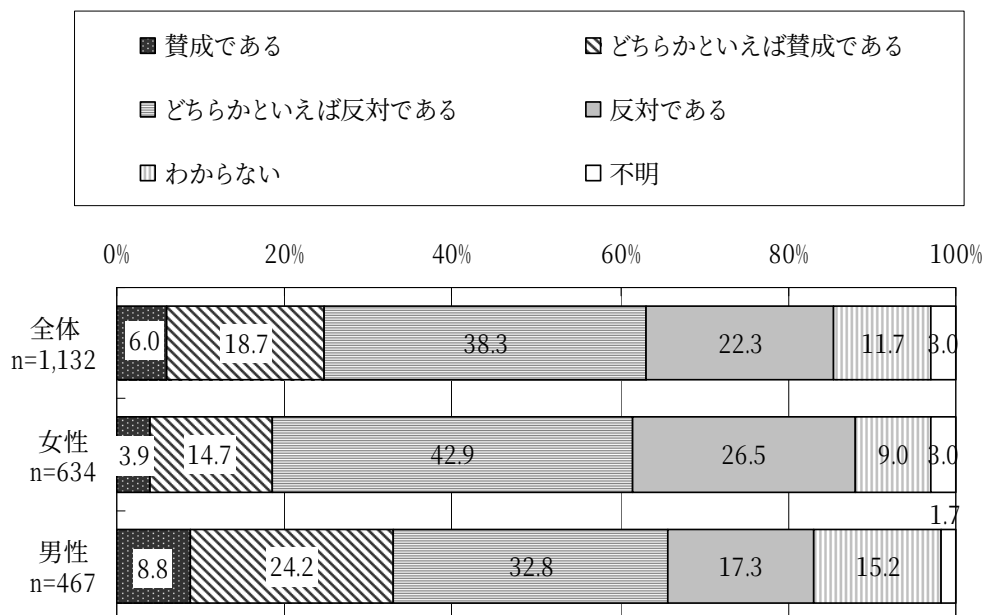


今回の調査とは一部選択肢が異なっているが、全体の傾向はほぼ同じである。

「高額商品の購入決定」（今回調査では「家庭問題の最終決定」）については、選択肢が異なるためか、今回「自分と配偶者が同じくらい」の割合が低くなっている。

(2) 性別による固定的役割分担の考え方について

問5 あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。(〇は1つ)



全体では「どちらかといえば反対である」が38.3%、次いで「反対である」(22.3%)が続き、『賛成派』は24.7%、『反対派』は60.6%と過半数を占めている。

性別にみると、男女いずれも『反対派』(女性69.4%、男性50.1%)が多くなっているが、男性に比べ女性でその割合が高くなっている。

【性・年代別】

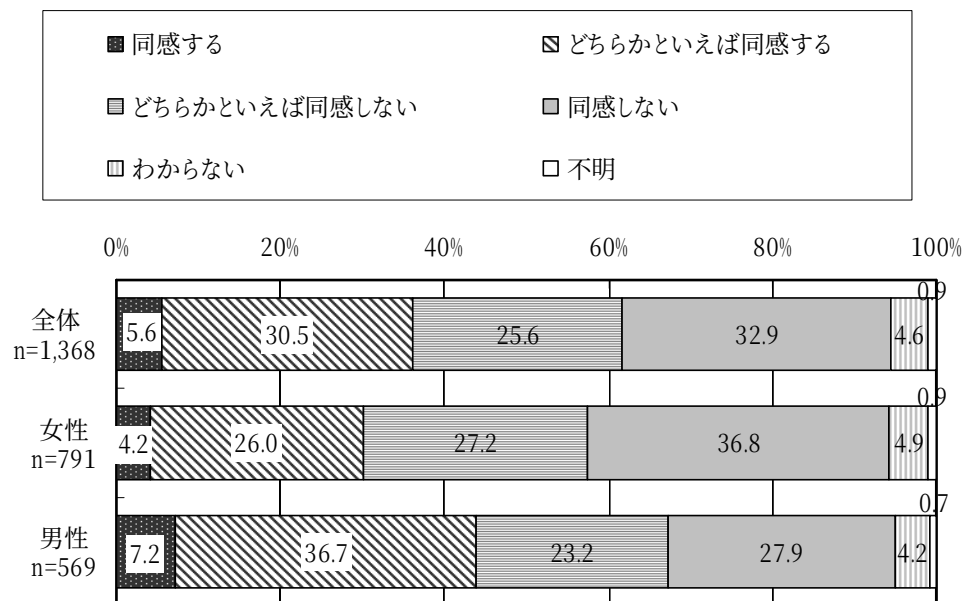
性・年代別にみると、男女いずれの年代でも『反対』派が多いが、50歳代以上の年齢層では、他に比べ、ややその割合が低くなっている。また全体に、『反対』派の割合は男性に比べ女性で高くなっている。

(%)

		合計	問5 固定的な役割分担について					
			賛成である	どちらかとい えば賛成 である	どちらかとい えば反対 である	反対である	わからない	不明
性・年代別	全体	1,132	6.0	18.7	38.3	22.3	11.7	3.0
	女性	634	3.9	14.7	42.9	26.5	9.0	3.0
	女性-20歳代	63	1.6	6.3	41.3	38.1	11.1	1.6
	女性-30歳代	90	2.2	7.8	40.0	37.8	12.2	0.0
	女性-40歳代	95	1.1	11.6	45.3	33.7	6.3	2.1
	女性-50歳代	137	2.9	13.1	45.3	32.8	3.6	2.2
	女性-60歳代	148	5.4	20.3	47.3	16.2	8.1	2.7
	女性-70歳代以上	98	8.2	23.5	34.7	9.2	16.3	8.2
	男性	467	8.8	24.2	32.8	17.3	15.2	1.7
	男性-20歳代	40	5.0	17.5	42.5	17.5	17.5	0.0
	男性-30歳代	63	7.9	23.8	25.4	14.3	27.0	1.6
	男性-40歳代	69	7.2	18.8	34.8	20.3	18.8	0.0
	男性-50歳代	95	5.3	22.1	37.9	23.2	9.5	2.1
男性-60歳代	116	11.2	28.4	31.9	18.1	7.8	2.6	
男性-70歳代以上	83	13.3	28.9	27.7	8.4	19.3	2.4	

【国・県調査との比較】

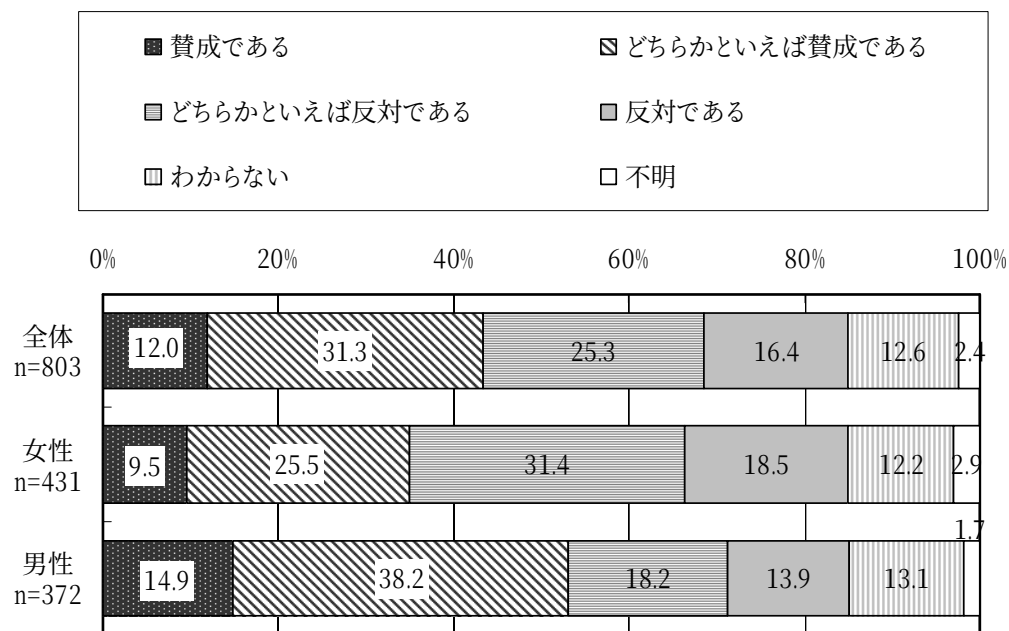
○平成21年度 男女共同参画に関する県民意識調査（熊本県）



男女いずれも『反対派』の割合が多いのは共通であるが、本市では男女ともに「どちらかといえば同意しない（反対である）」というやや消極的な反対意見が多かったのに対し、県の結果では、女性で積極的な反対意見が多く、男性では消極的ながら賛成する意見の割合が高くなっている。

【前回調査との比較】

○平成17年度宇城市男女共同参画市民意識調査



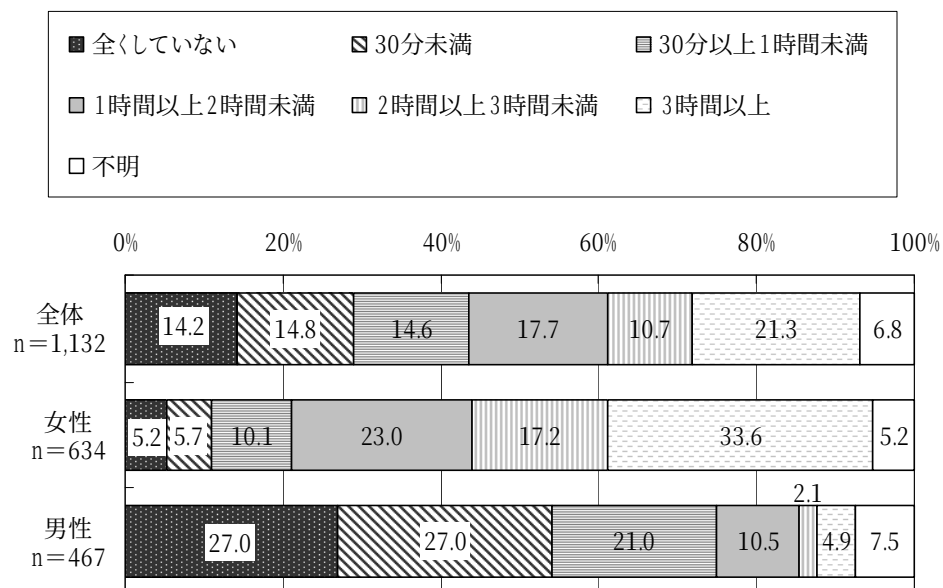
「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という考え方に対する意識をみると、「賛成である」が12.0%、「どちらかといえば賛成である」が31.3%で、これらを合計した『賛成派』が43.3%、『反対派』（「反対である」＋「どちらかといえば反対である」）は41.7%で、かなり拮抗している。

今回の調査では、『賛成派』は24.7%、『反対派』は60.6%と過半数を占めており、前回に比べ反対意見が多くなっている。

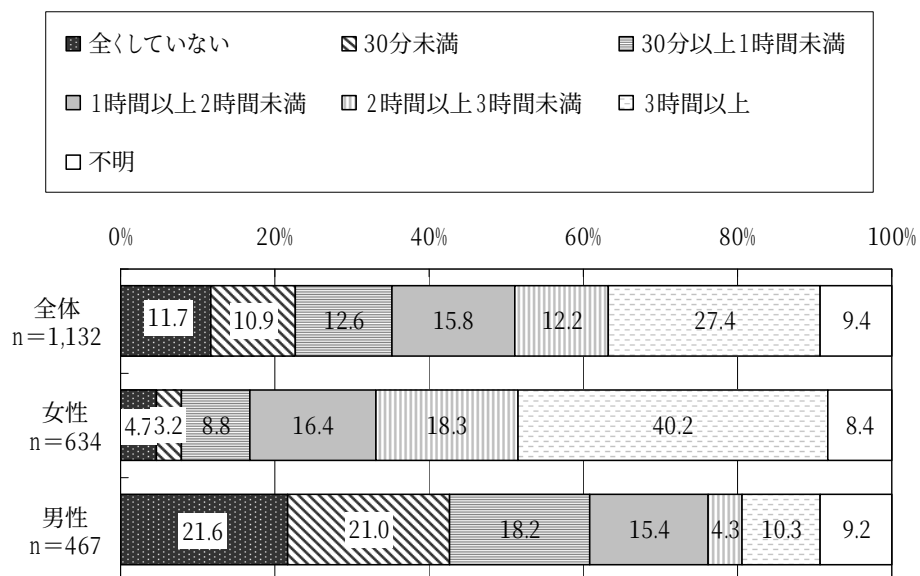
(3) 家事に費やす時間

問6 あなたが家事（育児・介護を含む）に費やす時間は1日どれくらいですか。次のA・Bについて、それぞれ当てはまるものを1つずつ選び、その番号（1～6）に○を付けてください。

【平日】



【休日】



家事・育児に費やす時間については、平日については全体で「3時間以上」(21.3%)が最も多く、次いで「1時間以上2時間未満」(17.7%)、「30分未満」(14.8%)、「30分以上1時間未満」(14.6%)が続いており、「全くしていない」は14.2%であった。

【性別】

性別にみると、女性は「3時間以上」(33.6%)が最も多いのに対し、男性では「全くしていない」「30分未満」がともに27.0%で最も高い割合を占めている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性はいずれの年代でも「3時間以上」との回答が最も多く(50歳代では「1時間以上2時間未満」も同率)、男性では、30歳代で「30分以上1時間未満」(30.2%)、40歳代で「30分未満」(40.6%)が最も多くなっているほかは、いずれも「全くしていない」との回答が最も多くなっている。

(%)

		合計	問6 A 平日の家事に費やす時間						
			全くして いない	30分未 満	30分以上1 時間未 満	1時間以上 2時間未 満	2時間以上 3時間未 満	3時間以上	不明
性・年代別	全体	1,132	14.2	14.8	14.6	17.7	10.7	21.3	6.8
	女性	634	5.2	5.7	10.1	23.0	17.2	33.6	5.2
	女性-20歳代	63	20.6	12.7	17.5	17.5	4.8	25.4	1.6
	女性-30歳代	90	1.1	15.6	7.8	17.8	15.6	42.2	0.0
	女性-40歳代	95	2.1	5.3	8.4	22.1	24.2	36.8	1.1
	女性-50歳代	137	2.2	1.5	11.7	30.7	20.4	30.7	2.9
	女性-60歳代	148	3.4	1.4	9.5	24.3	18.9	35.1	7.4
	女性-70歳代以上	98	9.2	5.1	8.2	20.4	13.3	28.6	15.3
	男性	467	27.0	27.0	21.0	10.5	2.1	4.9	7.5
	男性-20歳代	40	40.0	35.0	15.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	男性-30歳代	63	20.6	22.2	30.2	15.9	3.2	4.8	3.2
	男性-40歳代	69	21.7	40.6	23.2	8.7	0.0	4.3	1.4
	男性-50歳代	95	30.5	27.4	22.1	8.4	1.1	4.2	6.3
	男性-60歳代	116	29.3	24.1	15.5	12.9	3.4	6.9	7.8
	男性-70歳代以上	83	22.9	19.3	21.7	7.2	2.4	6.0	20.5

休日については、全体で「3時間以上」(27.4%)が最も多く、次いで「1時間以上2時間未満」(15.8%)、「30分以上1時間未満」(12.6%)「2時間以上3時間未満」(12.2%)、が続いており、「全くしていない」は11.7%であった。

【性別】

性別にみると、女性は「3時間以上」(40.2%)が最も多いのに対し、男性では「全くしていない」(21.6%)、次いで「30分未満」(21.0%)、「30分以上1時間未満」(18.2%)が続いており、女性に比べ短い時間となっている。

【性・年代別】

性・年代別では、女性はいずれの年代でも「3時間以上」との回答が最も多く、男性では、30歳代で「3時間以上」が最も多くなっているほかは、40歳代で「30分以上1時間未満」(23.2%)、50歳代で「30分未満」(23.2%)となっているほかは、いずれも「全くしていない」が多く、平日に比べるとやや多いものの、女性に比べ家事・育児に携わる時間が短くなっている。

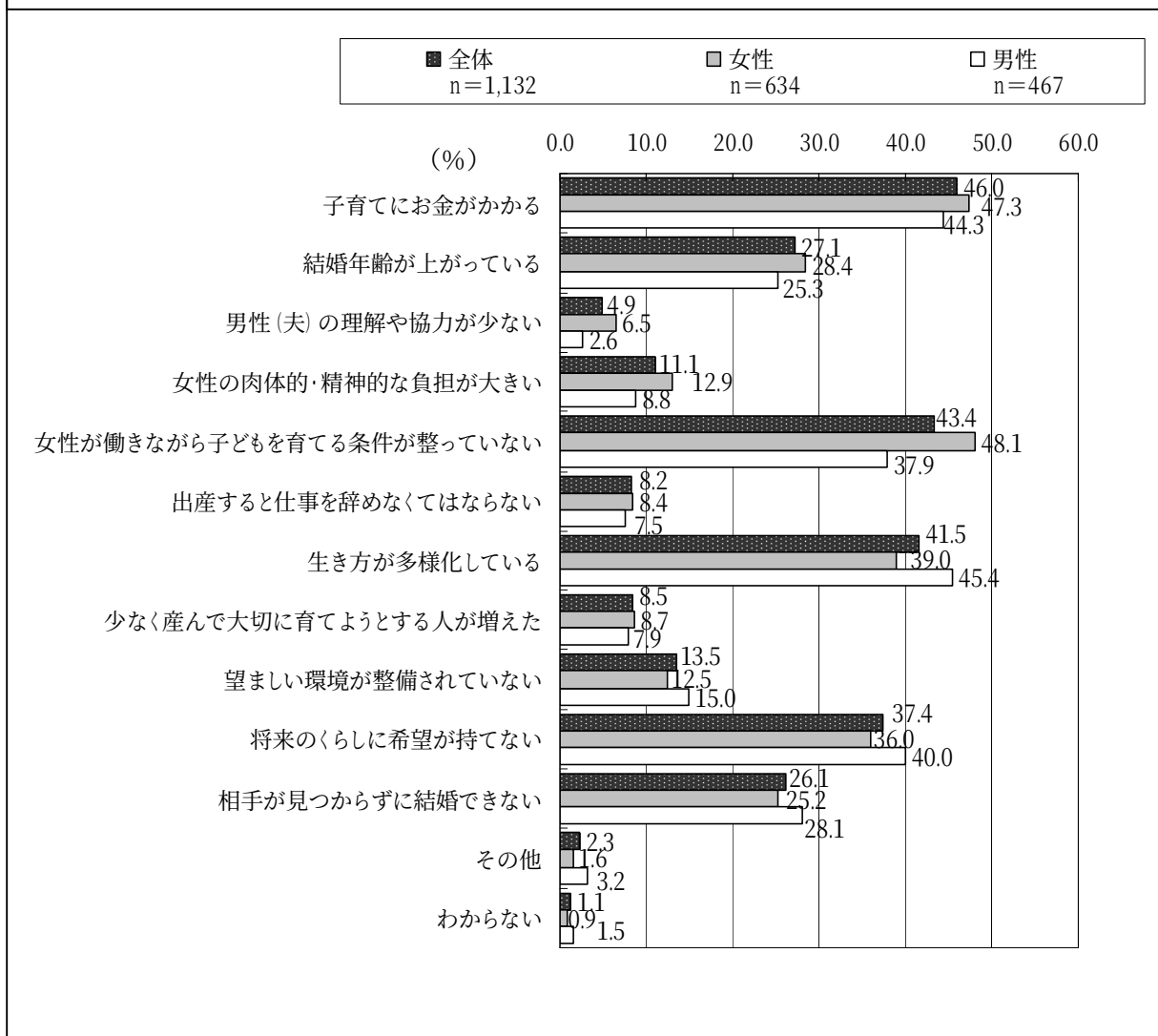
(%)

		合計	問6 B 休日の家事に費やす時間						
			全くして いない	30分未満	30分以上1 時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上	不明
性・年代別	全体	1,132	11.7	10.9	12.6	15.8	12.2	27.4	9.4
	女性	634	4.7	3.2	8.8	16.4	18.3	40.2	8.4
	女性-20歳代	63	15.9	7.9	15.9	17.5	12.7	27.0	3.2
	女性-30歳代	90	2.2	4.4	11.1	17.8	13.3	48.9	2.2
	女性-40歳代	95	2.1	4.2	6.3	10.5	18.9	52.6	5.3
	女性-50歳代	137	2.2	1.5	6.6	17.5	21.9	46.7	3.6
	女性-60歳代	148	3.4	0.7	8.1	17.6	23.0	36.5	10.8
	女性-70歳代以上	98	8.2	4.1	9.2	16.3	14.3	24.5	23.5
	男性	467	21.6	21.0	18.2	15.4	4.3	10.3	9.2
	男性-20歳代	40	40.0	30.0	5.0	17.5	2.5	5.0	0.0
	男性-30歳代	63	9.5	14.3	22.2	19.0	6.3	23.8	4.8
	男性-40歳代	69	17.4	20.3	23.2	15.9	5.8	15.9	1.4
	男性-50歳代	95	22.1	23.2	17.9	18.9	2.1	9.5	6.3
	男性-60歳代	116	24.1	24.1	17.2	14.7	6.0	5.2	8.6
男性-70歳代以上	83	21.7	15.7	19.3	8.4	2.4	4.8	27.7	

4. 子育て・教育について

(1) 子どもの数が減少傾向にある理由

問7 最近、子どもの数が減少傾向にありますか、その理由は何だと思いますか。(○は3つまで)



子どもの数が減少傾向にある理由としては、「子育てにお金がかかるから」(46.0%)が最も多く、次いで「女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないからから」(43.4%)、「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」(41.5%)、「雇用の不安など、将来の暮らしに希望が持てないから」(37.4%)、「結婚年齢が上がっているから」(27.1%)、「結婚を望んでも、相手が見つからずに結婚できない人が増えているから」(26.1%)が続いている。

【性別】

性別にみると、「女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないからから」では男性に比べ女性の割合が高く、男性では「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」の割合が高くなっている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では20歳代、30歳代及び50歳代で「女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」との回答が多く、40歳代、70歳代以上では「子育てにお金がかかるから」、60歳代では「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」との回答が多くなっている。男性では、20歳代で「子育てにお金がかかるから」と「雇用の不安など、将来のくらしに希望が持てないから」が47.5%で同率、70歳代以上でも「子育てにお金がかかるから」が最も多く、このほかでは、いずれも「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」との回答が多くなっている。

(%)

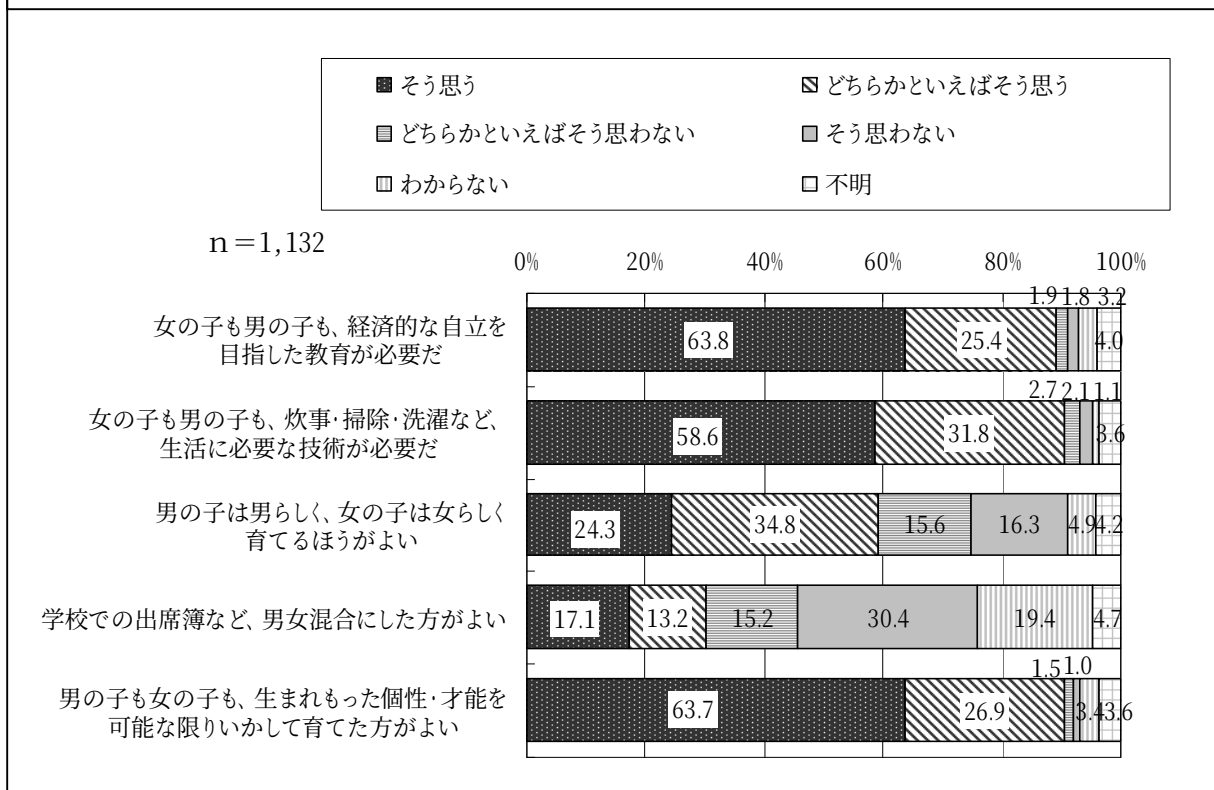
性・年代別	合計	問7 子ども数が減少している理由							
		子育てにお金がかかるから	結婚年齢が上がっているから	出産や育児に対する男性(夫)の理解や協力が少ないから	出産・育児には女性の肉体的・精神的な負担が大きいから	女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないから	出産すると仕事を辞めなくてはならないから	生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから	子どもを少なく産んで、大切に育てようとする人が増えたから
全体	1,132	46.0	27.1	4.9	11.1	43.4	8.2	41.5	8.5
女性	634	47.3	28.4	6.5	12.9	48.1	8.4	39.0	8.7
女性-20歳代	63	47.6	33.3	7.9	3.2	52.4	9.5	46.0	1.6
女性-30歳代	90	52.2	38.9	8.9	15.6	56.7	11.1	34.4	1.1
女性-40歳代	95	61.1	26.3	6.3	17.9	52.6	5.3	35.8	6.3
女性-50歳代	137	50.4	25.5	7.3	12.4	56.2	8.8	40.9	8.0
女性-60歳代	148	37.2	27.7	5.4	16.2	43.2	8.1	44.6	11.5
女性-70歳代以上	98	40.8	23.5	4.1	8.2	28.6	8.2	30.6	19.4
男性	467	44.3	25.3	2.6	8.8	37.9	7.5	45.4	7.9
男性-20歳代	40	47.5	27.5	2.5	10.0	37.5	15.0	32.5	5.0
男性-30歳代	63	50.8	27.0	0.0	7.9	25.4	9.5	55.6	6.3
男性-40歳代	69	58.0	20.3	4.3	14.5	33.3	5.8	52.2	5.8
男性-50歳代	95	47.4	27.4	3.2	7.4	43.2	4.2	48.4	8.4
男性-60歳代	116	32.8	23.3	3.4	9.5	44.0	6.9	47.4	6.9
男性-70歳代以上	83	38.6	26.5	1.2	4.8	37.3	7.2	32.5	13.3

性・年代別	合計	問8 子ども数が減少している理由					
		子育てに望ましい環境が整備されていないから	雇用の不安など、将来のくらしに希望が持てないから	結婚を望んでいても、相手が見つからずに結婚できない人が増えているから	その他	わからない	不明
全体	1,132	13.5	37.4	26.1	2.3	1.1	2.4
女性	634	12.5	36.0	25.2	1.6	0.9	1.9
女性-20歳代	63	15.9	38.1	25.4	1.6	0.0	0.0
女性-30歳代	90	15.6	30.0	15.6	4.4	0.0	0.0
女性-40歳代	95	10.5	44.2	16.8	0.0	0.0	0.0
女性-50歳代	137	10.9	46.0	19.0	1.5	0.7	0.0
女性-60歳代	148	12.2	33.8	35.1	1.4	0.7	2.0
女性-70歳代以上	98	11.2	20.4	36.7	1.0	4.1	9.2
男性	467	15.0	40.0	28.1	3.2	1.5	2.4
男性-20歳代	40	15.0	47.5	25.0	5.0	2.5	0.0
男性-30歳代	63	9.5	38.1	14.3	3.2	4.8	1.6
男性-40歳代	69	15.9	40.6	24.6	4.3	0.0	0.0
男性-50歳代	95	10.5	45.3	27.4	2.1	0.0	0.0
男性-60歳代	116	19.0	38.8	37.9	5.2	0.9	2.6
男性-70歳代以上	83	18.1	33.7	30.1	0.0	2.4	8.4

(2) 子どものしつけや教育について

問8 あなたは、子どものしつけや教育について、どのように思いますか。(1)～(5)のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください(○はそれぞれ1つずつ)。

※子どもがいない方、またすでに養育が終了している方も、仮に「子どもをもつとしたら」として、お答えください。



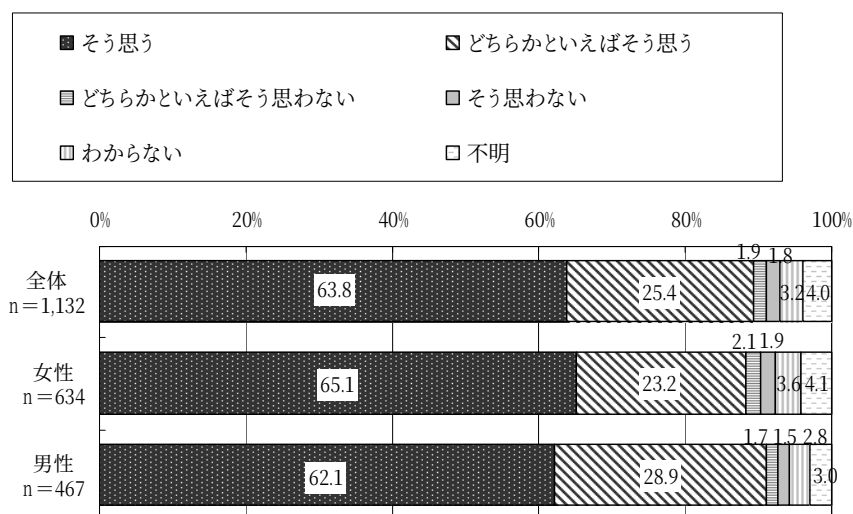
子どものしつけや教育に関する5項目の意識をみると、「女の子も男の子も、経済的な自立を目指した教育が必要」「女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術が必要」「男の子も女の子も、生まれもった個性・才能を可能な限りいかして育てた方がよい」に関しては8割以上が『肯定派』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）であり、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」についても『肯定派』が6割近くを占める。

一方、「学校での出席簿など、男女混合にした方がよい」は、『肯定派』が30.3%、『否定派』が45.6%と、否定派が上回っている。

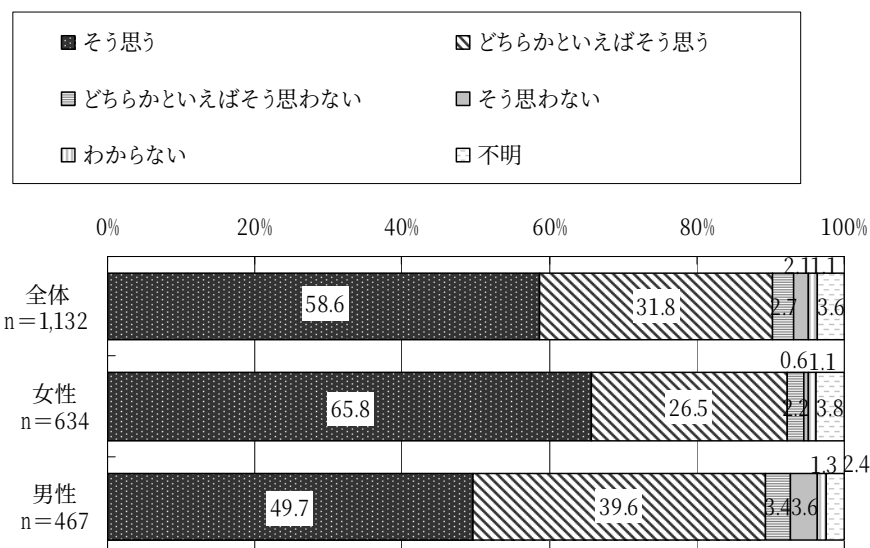
【性別】

性別にみると、ほぼ全体と同様の傾向にあるが、「女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術が必要」では、男性に比べ、女性の「そう思う」との回答割合が高くなっている（女性65.8%、男性49.7%）、一方、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」に関しては、男性の「そう思う」が32.3%と高く『肯定派』が65.9%を占めるが、女性は54.7%とやや低くなっている。また、「学校での出席簿など、男女混合にした方がよい」では、女性の『否定派』の割合が高くなっている。

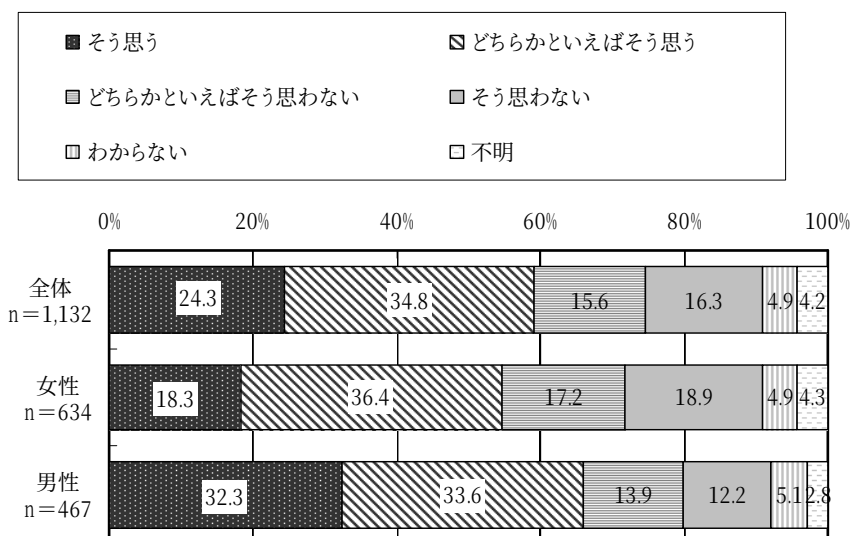
○女の子も男の子も、経済的な自立を目指した教育が必要だ



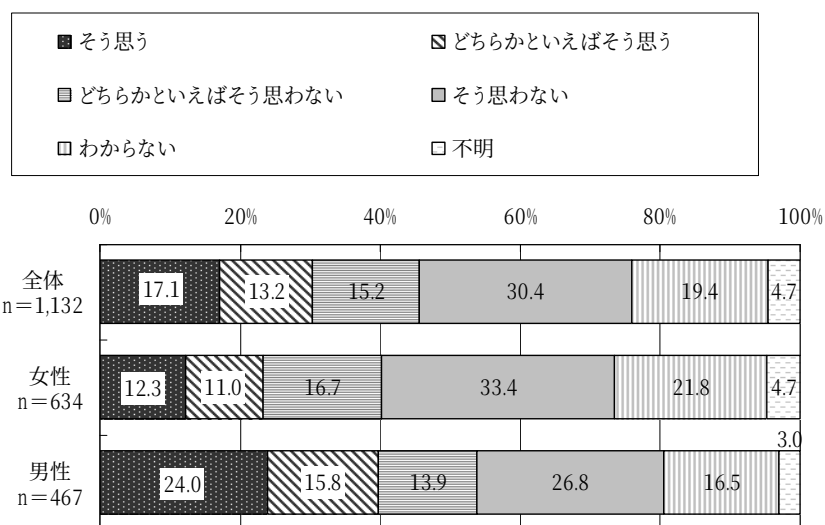
○女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術が必要だ



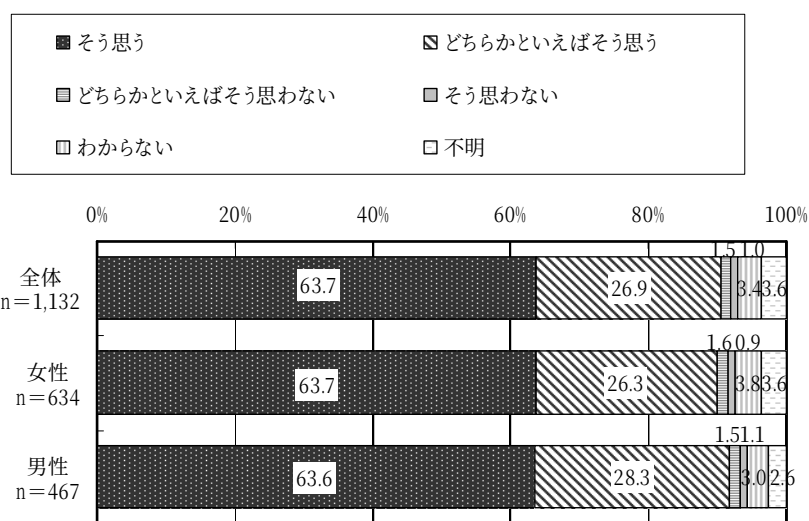
○男の子は男らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい



○学校の出席名簿など、男女混合にした方がよい



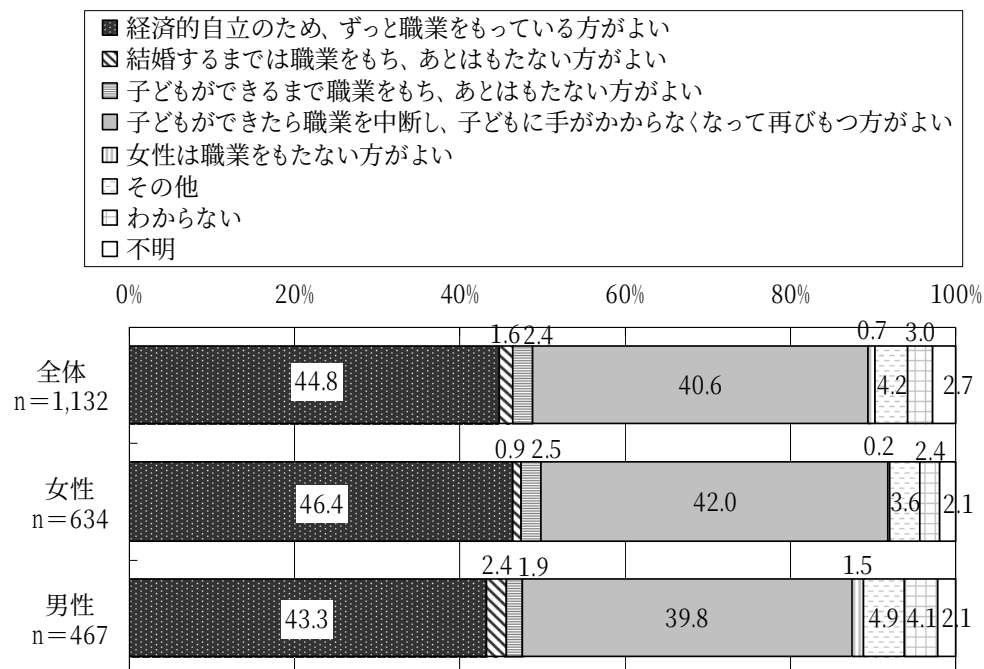
○男の子も女の子も、生まれもった個性・才能を可能な限りいかして育てた方がよい



5. 女性の社会参画について

(1) 女性が仕事を持つことについて

問9 あなたは、女性が職業を持つことについて、どう思いますか。(○は1つ)



全体では、「経済的自立のため、ずっと職業をもっていた方がよい」(44.8%)との回答が最も多く、次いで「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」(40.6%)がこれに続いている。

【性別】

性別にみても、ほぼ同様の傾向がみられる

【性・年代別】

性・年代別にみると、男女いずれも20歳代から50歳代までは「経済的自立のため、ずっと職業をもっている方がよい」との回答が多く、60歳代以上では、「子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」との回答が多くなっている。

【本人の職業別】

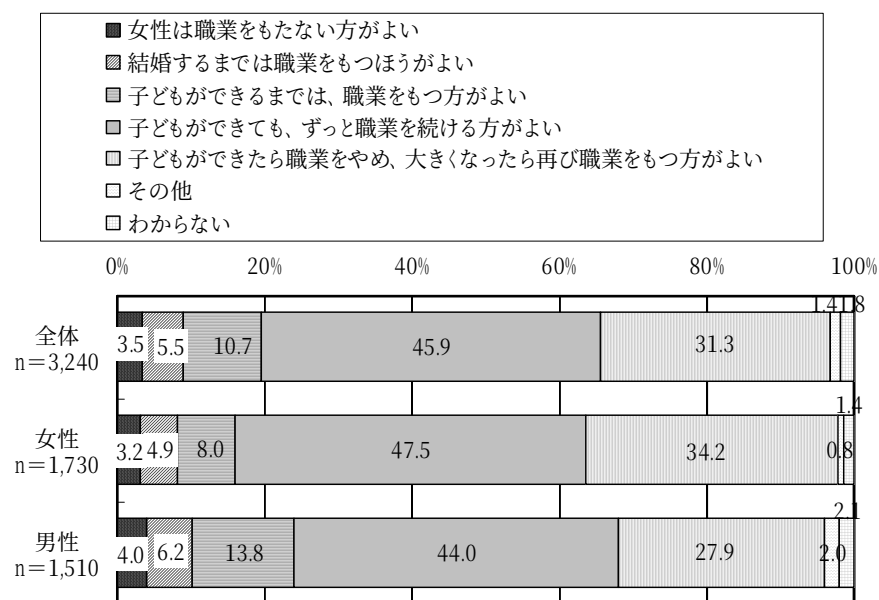
本人の職業別にみると、自営業主では「経済的自立のため、ずっと職業をもっている方がよい」「子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」が同率になっており、正規雇用者・非正規雇用者では、「経済的自立のため、ずっと職業をもっている方がよい」、このほかでは「子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」との回答が最も多くなっている。

(%)

		合計	問9 女性が職業を持つことについて							
			経済的自立のため、ずっと職業をもっている方がよい	結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい	子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい	子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい	女性は職業をもたない方がよい	その他	わからない	不明
性・年代別	全体	1,132	44.8	1.6	2.4	40.6	0.7	4.2	3.0	2.7
	女性	634	46.4	0.9	2.5	42.0	0.2	3.6	2.4	2.1
	女性-20歳代	63	52.4	1.6	0.0	41.3	0.0	4.8	0.0	0.0
	女性-30歳代	90	44.4	2.2	2.2	37.8	0.0	11.1	2.2	0.0
	女性-40歳代	95	53.7	0.0	2.1	36.8	0.0	5.3	1.1	1.1
	女性-50歳代	137	54.0	0.7	0.7	40.9	0.0	0.7	1.5	1.5
	女性-60歳代	148	43.2	0.7	3.4	46.6	0.0	1.4	1.4	3.4
	女性-70歳代以上	98	32.7	1.0	6.1	43.9	1.0	2.0	8.2	5.1
	男性	467	43.3	2.4	1.9	39.8	1.5	4.9	4.1	2.1
	男性-20歳代	40	45.0	0.0	0.0	35.0	0.0	10.0	10.0	0.0
	男性-30歳代	63	50.8	1.6	0.0	31.7	1.6	7.9	6.3	0.0
	男性-40歳代	69	47.8	0.0	0.0	36.2	0.0	10.1	5.8	0.0
	男性-50歳代	95	51.6	3.2	2.1	40.0	0.0	1.1	1.1	1.1
	男性-60歳代	116	37.1	2.6	3.4	45.7	2.6	3.4	1.7	3.4
	男性-70歳代以上	83	32.5	4.8	2.4	43.4	3.6	2.4	4.8	6.0
職業別 (本人)	自営業主	100	43.0	3.0	3.0	43.0	2.0	1.0	2.0	3.0
	家族従事者	56	42.9	0.0	3.6	53.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	正規雇用者	349	58.5	0.9	0.9	30.1	0.3	6.3	2.0	1.1
	非正規雇用者	161	46.6	0.6	1.9	42.9	0.6	3.7	2.5	1.2
	主婦・主夫	176	32.4	1.7	6.3	50.0	0.6	3.4	2.3	3.4
	学生	17	35.3	0.0	0.0	41.2	0.0	11.8	11.8	0.0
	無職	196	38.3	3.6	1.0	41.3	1.0	3.6	6.6	4.6
その他		10	50.0	0.0	0.0	20.0	0.0	30.0	0.0	0.0

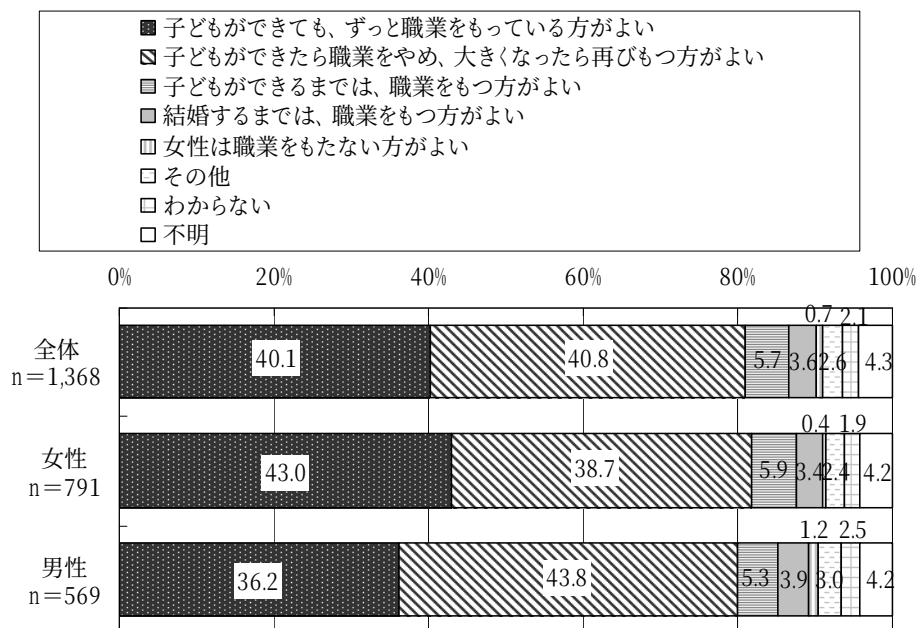
【国・県調査との比較】

○内閣府男女共同参画に関する世論調査（平成 21 年度）



本市の結果では、男女ともに継続して仕事をもつ方がよいという意見と、子どもができたら一旦中断し、子どもに手がかからなくなってから再びもつ方がよいという意見が拮抗していたのに対し、国の結果では継続して仕事をもつことへの支持が、大きく上回っている。

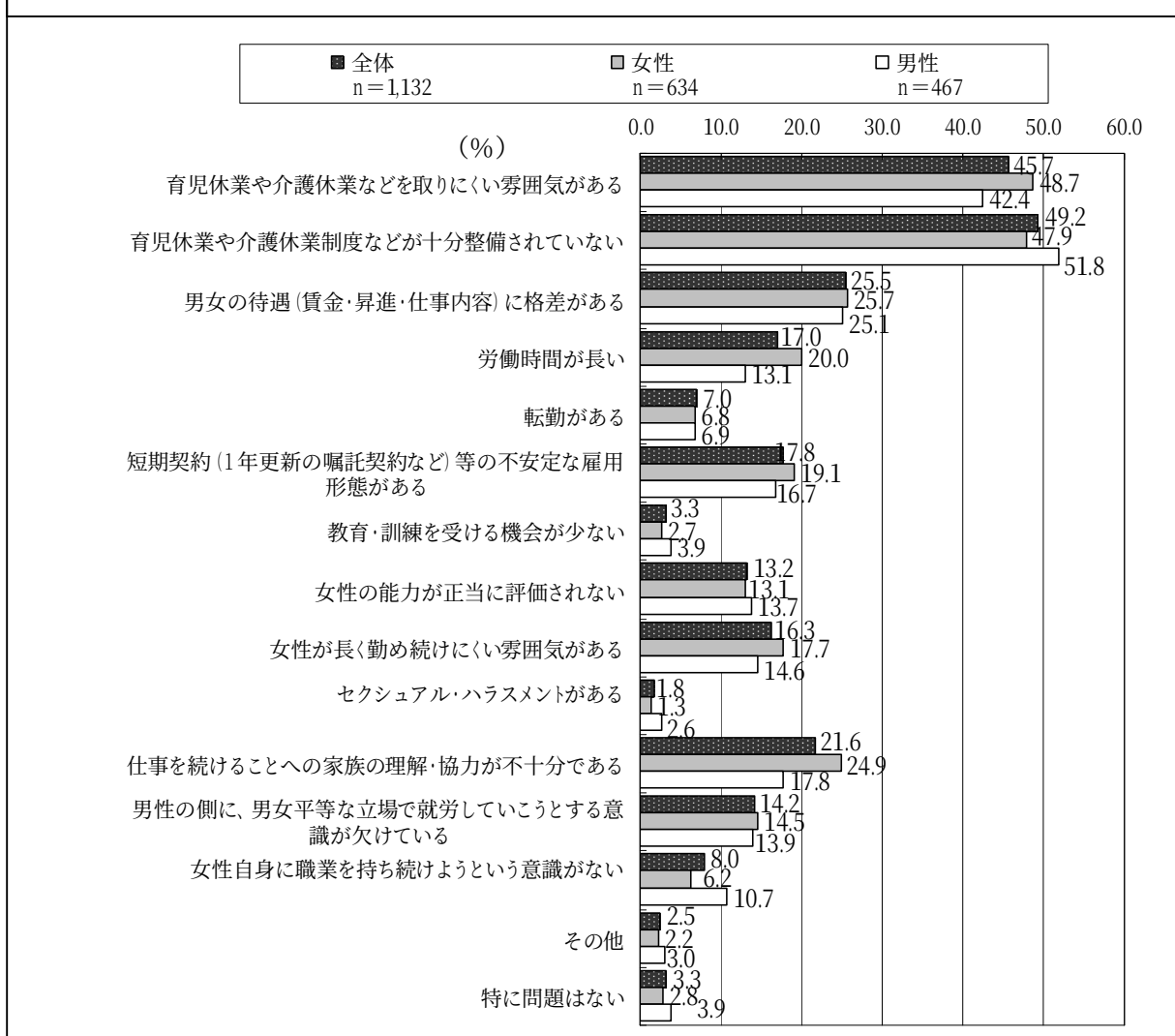
○平成 21 年度 男女共同参画に関する県民意識調査（熊本県）



県の結果では、女性は継続して仕事をもつことへの支持が多く、男性では子どもができた際に一旦中断することを支持する意見が多くなっている。

(2) 女性が仕事をもち続けるうえでの問題

問 10 女性が職業をもち続けるうえでの問題はどのようなことだと思いますか。
(○は3つまで)



全体では「各種育児・介護支援制度などが十分整備されていない」(49.2%)、次いで「育児休業や介護休業制度を取りにくい雰囲気がある」(45.7%)と、育児・介護支援制度に関する問題が上位を占めており、これに「男女の待遇(賃金・昇進・仕事内容)に格差がある」(25.5%)、「仕事を続けることへの家族の理解・協力が不十分である」(21.6%)など、就労条件や家族の理解に関する回答が続いている。

【性別】

性別にみると、男女ともに育児・介護支援制度に関する問題が上位に挙げられているが、「育児休業や介護休業制度を取りにくい雰囲気がある」の割合は、男性に比べ女性で高くなっている。このほか「仕事を続けることへの家族の理解・協力が不十分である」でも女性の割合が高く、男性の割合が高くなっている回答としては、「各種育児・介護支援制度などが十分整備されていない」、「女性自身に職業をもち続けようという意識がない」などでわずかに差がみられた。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では20歳代から40歳代まで「育児休業や介護休業制度を取りにくい雰囲気がある」との回答が最も多く、50歳代以上の年齢層では「各種育児・介護支援制度などが十分整備されていない」での回答が最も多い。一方男性では、40歳代で「育児休業や介護休業制度を取りにくい雰囲気がある」が最も多くなっているほかは、「各種育児・介護支援制度などが十分整備されていない」との回答が最も多くなっている。

本人の職業別にみると、家族従事者と主夫・主婦では「育児休業や介護休業制度を取りにくい雰囲気がある」、このほかでは、「各種育児・介護支援制度などが十分整備されていない」との回答が最も多くなっている。

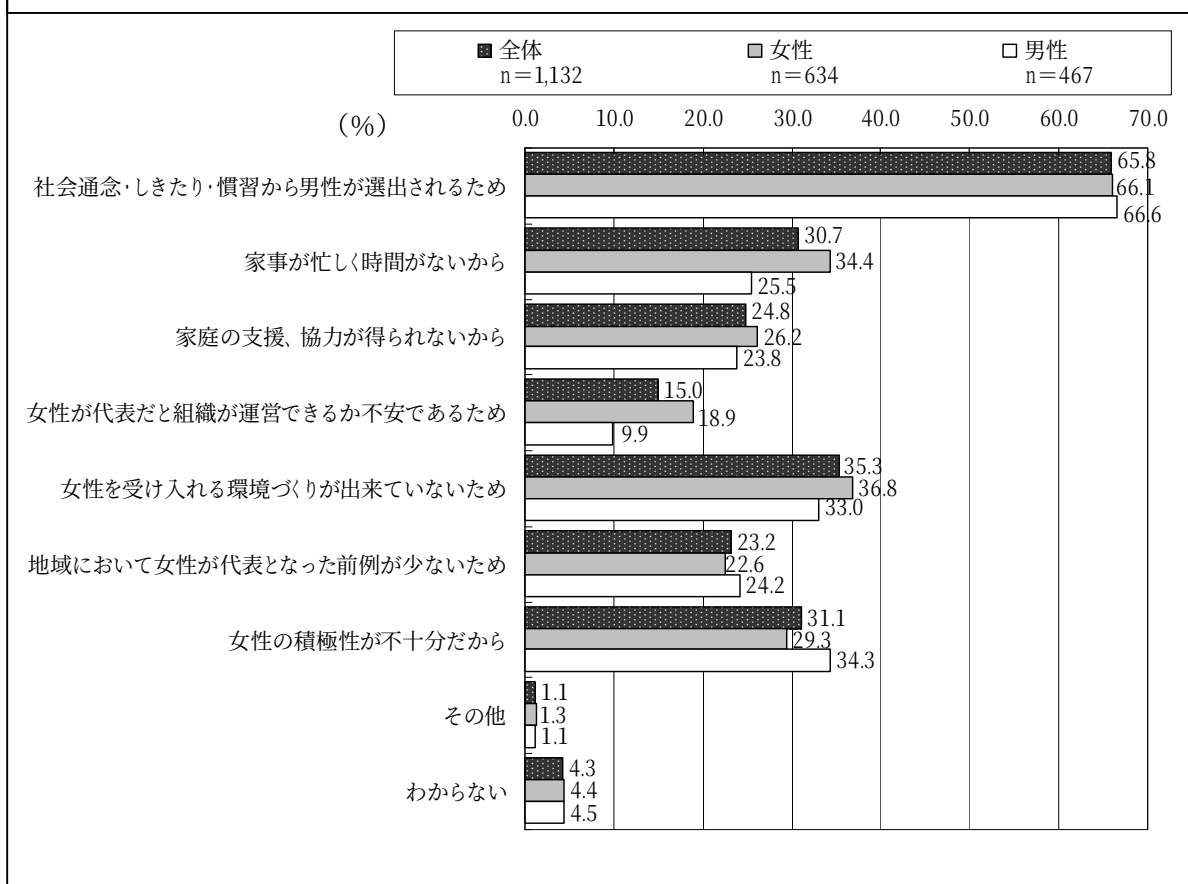
(%)

		合計	問10 女性が仕事をもち続けるうえでの問題								
			育児休業 や介護休 業などに 取りにく い雰囲気 がある	育児休業 や介護休 業制度な どが十分 整備され ていない	男女の待 遇（賃 金・昇 進・仕事 内容）に 格差があ る	労働時間 が長い	転勤があ る	短期契約 （1年更 新の嘱託 契約など） 等の不安 定な雇用 形態があ る	教育・訓 練を受け る機会が 少ない	女性の能 力が正当 に評価さ れない	
性別	全体	1,132	45.7	49.2	25.5	17.0	7.0	17.8	3.3	13.2	
	女性	634	48.7	47.9	25.7	20.0	6.8	19.1	2.7	13.1	
	男性	467	42.4	51.8	25.1	13.1	6.9	16.7	3.9	13.7	
	女性	634	48.7	47.9	25.7	20.0	6.8	19.1	2.7	13.1	
性・年代別	女性-20歳代	63	58.7	42.9	31.7	28.6	1.6	15.9	1.6	9.5	
	女性-30歳代	90	58.9	47.8	27.8	14.4	3.3	26.7	1.1	11.1	
	女性-40歳代	95	52.6	46.3	27.4	22.1	5.3	18.9	2.1	11.6	
	女性-50歳代	137	48.9	59.9	25.5	16.1	6.6	22.6	2.9	12.4	
	女性-60歳代	148	42.6	45.9	27.7	21.6	7.4	14.2	2.7	14.9	
	女性-70歳代以上	98	38.8	40.8	16.3	20.4	14.3	17.3	5.1	17.3	
	男性	467	42.4	51.8	25.1	13.1	6.9	16.7	3.9	13.7	
	男性-20歳代	40	60.0	62.5	32.5	17.5	2.5	15.0	2.5	7.5	
	男性-30歳代	63	46.0	50.8	20.6	14.3	4.8	14.3	0.0	14.3	
	男性-40歳代	69	53.6	50.7	23.2	10.1	5.8	10.1	2.9	14.5	
	男性-50歳代	95	40.0	50.5	20.0	9.5	8.4	23.2	4.2	13.7	
	男性-60歳代	116	44.8	53.4	31.0	14.7	6.9	19.8	3.4	12.1	
	男性-70歳代以上	83	21.7	47.0	24.1	14.5	9.6	13.3	8.4	18.1	
	職業別 （本人）	自営業主	100	41.0	51.0	19.0	15.0	10.0	17.0	3.0	10.0
家族従事者		56	58.9	42.9	23.2	14.3	8.9	19.6	3.6	17.9	
正規雇用者		349	47.0	50.4	24.4	18.1	5.4	18.6	2.6	12.9	
非正規雇用者		161	48.4	54.0	28.6	14.9	3.7	26.1	3.1	11.2	
主婦・主夫		176	57.4	51.7	22.7	20.5	5.1	15.9	2.3	11.4	
学生		17	47.1	70.6	47.1	17.6	0.0	5.9	0.0	5.9	
無職		196	31.6	46.9	26.5	16.8	10.2	16.3	5.6	17.3	
その他		10	50.0	40.0	30.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	

		合計	女性が長く勤め続けにくい雰囲気がある	セクシュアル・ハラスメントがある	仕事を続けることへの家族の理解・協力が不十分である	男性の側に、男女平等な立場で就労しようとする意識が欠けている	女性自身に職業を持ち続けようという意識がない	その他	特に問題はない	不明
性別	全体	1,132	16.3	1.8	21.6	14.2	8.0	2.5	3.3	4.2
	女性	634	17.7	1.3	24.9	14.5	6.2	2.2	2.8	3.3
	男性	467	14.6	2.6	17.8	13.9	10.7	3.0	3.9	3.9
性・年代別	女性	634	17.7	1.3	24.9	14.5	6.2	2.2	2.8	3.3
	女性-20歳代	63	12.7	3.2	12.7	12.7	6.3	3.2	6.3	0.0
	女性-30歳代	90	21.1	1.1	26.7	10.0	4.4	5.6	1.1	1.1
	女性-40歳代	95	11.6	1.1	40.0	21.1	5.3	3.2	0.0	2.1
	女性-50歳代	137	19.7	0.7	22.6	19.7	8.0	2.2	1.5	0.0
	女性-60歳代	148	17.6	1.4	23.0	15.5	7.4	0.0	4.1	4.7
	女性-70歳代以上	98	21.4	1.0	22.4	5.1	4.1	1.0	4.1	11.2
	男性	467	14.6	2.6	17.8	13.9	10.7	3.0	3.9	3.9
	男性-20歳代	40	10.0	7.5	12.5	17.5	7.5	2.5	2.5	0.0
	男性-30歳代	63	7.9	4.8	12.7	11.1	9.5	1.6	6.3	1.6
	男性-40歳代	69	8.7	2.9	20.3	8.7	13.0	7.2	2.9	2.9
	男性-50歳代	95	18.9	1.1	23.2	14.7	10.5	1.1	4.2	1.1
	男性-60歳代	116	15.5	0.9	18.1	14.7	10.3	3.4	2.6	6.0
	男性-70歳代以上	83	19.3	2.4	15.7	16.9	10.8	2.4	4.8	8.4
職業別（本人）	自営業主	100	11.0	3.0	22.0	17.0	10.0	3.0	2.0	5.0
	家族従事者	56	17.9	1.8	26.8	14.3	5.4	5.4	1.8	1.8
	正規雇用者	349	13.2	1.4	20.3	14.3	10.0	2.6	4.0	2.0
	非正規雇用者	161	18.6	1.9	24.8	13.0	5.6	2.5	2.5	1.9
	主婦・主夫	176	18.2	0.6	21.6	14.8	6.3	0.0	1.1	6.3
	学生	17	5.9	11.8	23.5	5.9	5.9	5.9	5.9	0.0
	無職	196	21.4	2.6	19.4	12.2	7.7	3.6	5.6	5.1
	その他	10	30.0	0.0	40.0	40.0	10.0	0.0	0.0	0.0

(3) 企画立案、決定の場に女性が少ない原因

問 11 自治会・PTAの会長など、地域の団体の代表や政治・行政・職場等の企画立案、決定の場に女性が少ない原因は何だと思いますか。(〇はいくつでも)



企画立案・政策決定の場に女性が少ない原因としては、「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」(65.8%)との回答が最も多く、次いで「女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため」(35.3%)、「女性の積極性が不十分だから」(31.1%)、「家事が忙しく時間がないから」(30.7%)、「家庭の支援、協力が得られないから」(24.8%)、「地域において女性が代表となった前例が少ないため」(23.2%)が続いている。

【性別】

性別にみると、「家事が忙しく時間がないから」(女性 34.4%、男性 25.5%)、「女性が代表だと組織が運営できるか不安であるため」(女性 18.9%、男性 9.9%)、「女性の積極性が不十分だから」(女性 29.3%、男性 34.3%)などで男女間の差がみられる。

【性・年代別】

性・年代別にみると、いずれも「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」との回答が最も多くなっており、これに次いで女性では30歳代、40歳代及び70歳代以上で「家事が忙しく時間が無いから」、20歳代及び50歳代、60歳代では「女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため」が回答されている。男性では、20歳代から30歳代で「女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため」、40歳代以上の年齢層では、いずれも「女性の積極性が不十分だから」が続いている。

(%)

		合計	問11 企画立案・決定の場に女性が少ない原因									
			社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため	家事が忙しく時間が無いから	家庭の支援、協力が得られないから	女性が代表だと組織が運営できるか不安であるため	女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため	地域において女性が代表となった前例が少ないため	女性の積極性が不十分だから	その他	わからない	不明
性・年代別	全体	1,132	65.8	30.7	24.8	15.0	35.3	23.2	31.1	1.1	4.3	3.3
	女性	634	66.1	34.4	26.2	18.9	36.8	22.6	29.3	1.3	4.4	2.5
	女性-20歳代	63	58.7	44.4	14.3	14.3	46.0	23.8	19.0	0.0	6.3	0.0
	女性-30歳代	90	71.1	48.9	31.1	20.0	32.2	23.3	32.2	4.4	2.2	0.0
	女性-40歳代	95	65.3	46.3	34.7	14.7	37.9	24.2	25.3	0.0	2.1	0.0
	女性-50歳代	137	75.9	27.7	30.7	19.7	40.9	20.4	40.1	1.5	2.9	1.5
	女性-60歳代	148	68.2	22.3	23.0	20.9	36.5	25.0	30.4	0.7	2.0	4.1
	女性-70歳代以上	98	52.0	30.6	20.4	20.4	29.6	19.4	21.4	1.0	12.2	8.2
	男性	467	66.6	25.5	23.8	9.9	33.0	24.2	34.3	1.1	4.5	2.8
	男性-20歳代	40	75.0	22.5	22.5	2.5	45.0	22.5	20.0	0.0	5.0	0.0
	男性-30歳代	63	55.6	30.2	15.9	3.2	31.7	25.4	30.2	3.2	4.8	1.6
	男性-40歳代	69	66.7	17.4	21.7	8.7	24.6	21.7	30.4	0.0	5.8	0.0
	男性-50歳代	95	67.4	21.1	30.5	7.4	38.9	30.5	40.0	0.0	3.2	1.1
	男性-60歳代	116	72.4	31.0	25.9	14.7	33.6	24.1	38.8	0.9	2.6	4.3
	男性-70歳代以上	83	61.4	27.7	21.7	15.7	27.7	19.3	34.9	2.4	7.2	7.7

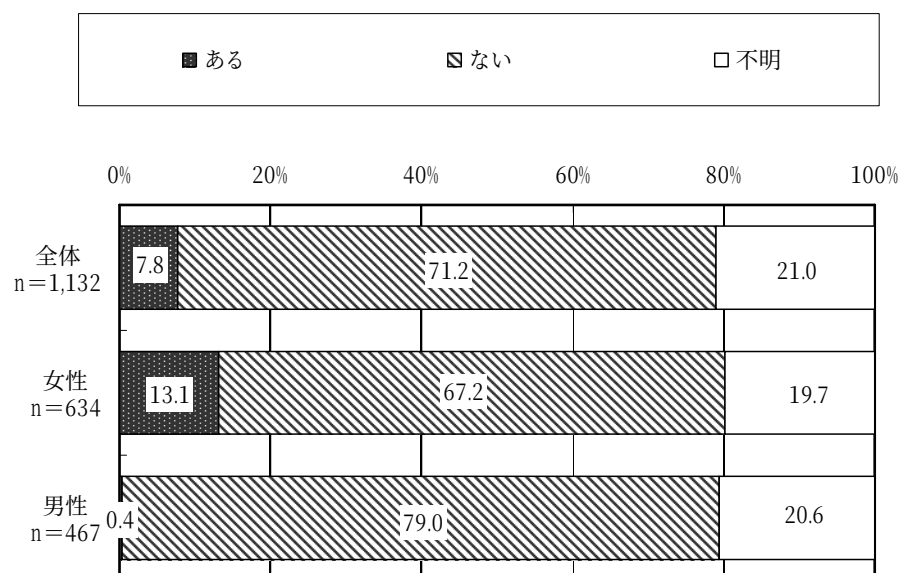
6. 仕事、家庭、地域活動等の両立について

(1) 育児休業・介護休業の取得経験

①取得経験の有無

※問 12 は、現在職業をもっている人、以前職業を持っていた人におたずねします。それ以外の方は、問 13 にお進みください。

問 12 男女が働きやすい職場をつくるため、「育児休業」や「介護休業」という制度があります。あなたは、育児休業や介護休業を取得したことがありますか。



育児休業や介護休業の取得についてみると、全体では取得経験が「ない」が 71.2%を占め、「ある」は 7.8%にとどまっている。

【性別】

性別にみると、いずれも「ない」の割合が高いが、女性では取得経験が「ある」が 13.1%であるのに対し男性では 0.4%と、取得の割合が低くなっている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、いずれも「ない」との回答が多いが、女性の30歳代から50歳代では、他の年齢層に比べ、「ある」の割合が高くなっている。

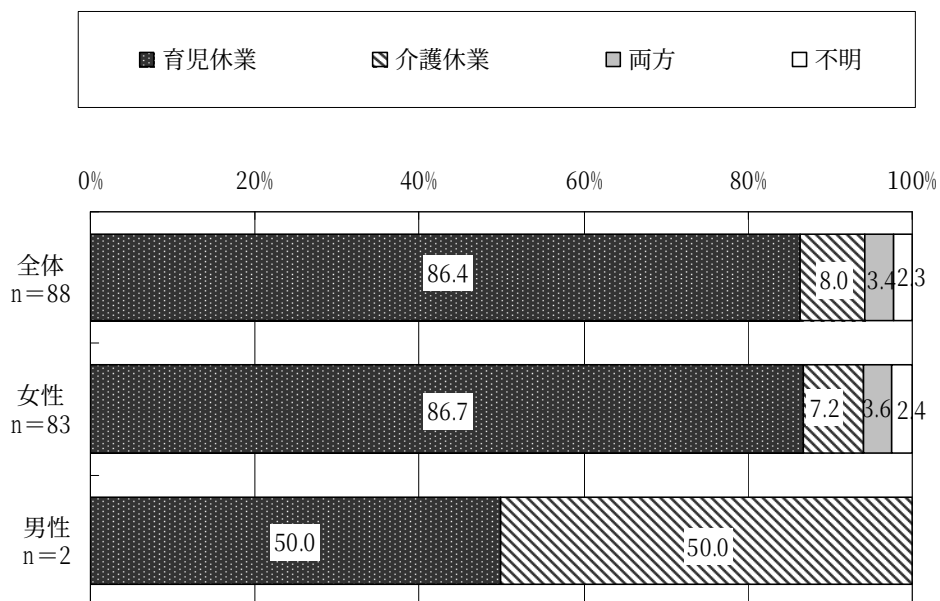
(%)

	合計	問12 育児休業や介護休業の 取得経験		
		ある	ない	不明
全体	1,132	7.8	71.2	21.0
性・年代別 女性	634	13.1	67.2	19.7
女性-20歳代	63	9.5	82.5	7.9
女性-30歳代	90	18.9	71.1	10.0
女性-40歳代	95	21.1	73.7	5.3
女性-50歳代	137	15.3	74.5	10.2
女性-60歳代	148	6.1	63.5	30.4
女性-70歳代以上	98	9.2	44.9	45.9
男性	467	0.4	79.0	20.6
男性-20歳代	40	0.0	65.0	35.0
男性-30歳代	63	0.0	92.1	7.9
男性-40歳代	69	0.0	97.1	2.9
男性-50歳代	95	1.1	81.1	17.9
男性-60歳代	116	0.9	74.1	25.0
男性-70歳代以上	83	0.0	65.1	34.9

②取得した制度

※問12で、「1. ある」と答えた方におたずねします。

問12-1 どの制度を取られましたか。(○は1つだけ)



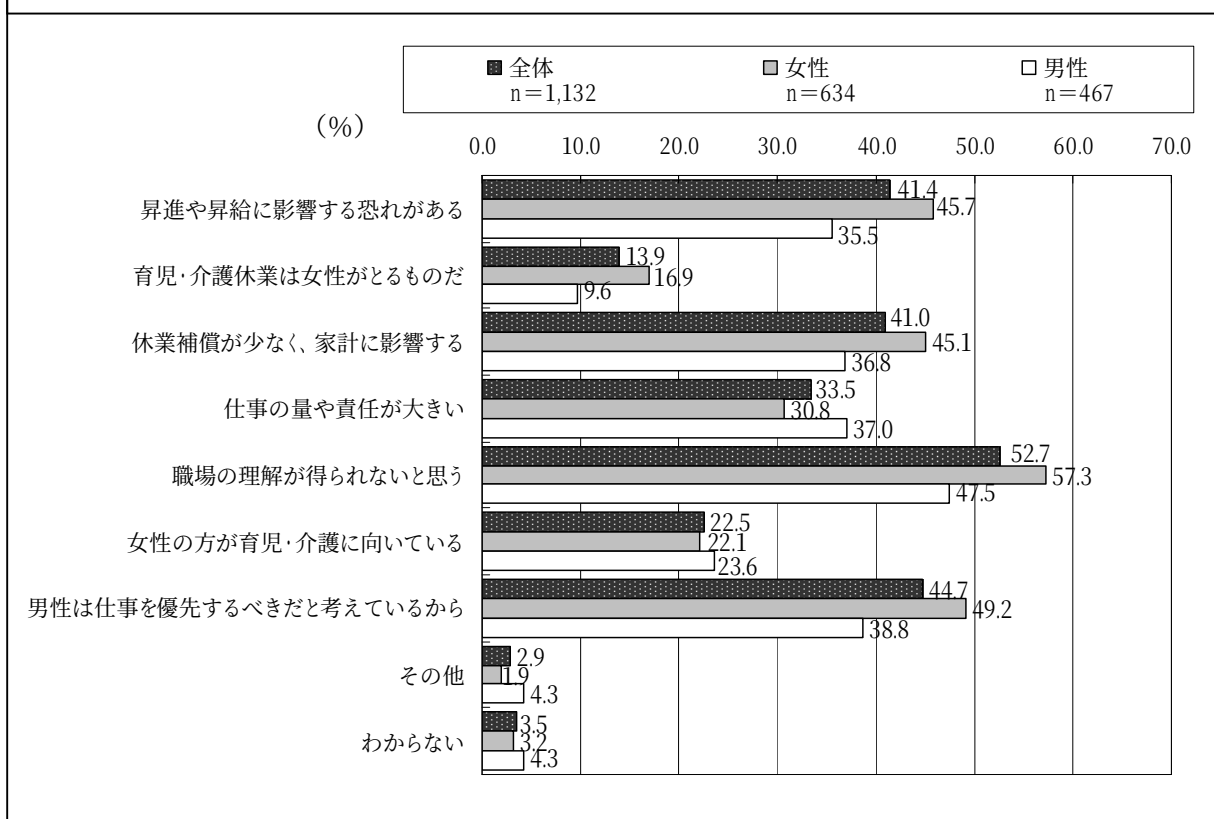
取得した制度の内訳をみると、全体では「育児休業」が86.4%、「介護休業」が8.0%、「両方」は3.4%を占める。

【性別】

性別にみた場合、取得者はほとんどが女性であり、ほぼ全体の傾向に近くなっている。男性では、育児休業と介護休業の取得者が、それぞれ1名ずつであった。

(2) 育児休業や介護休業をとる男性が少ない理由

問 13 育児休業や介護休業をとる男性が少ない理由は、何だと思いますか。(〇はいくつでも)



「育児休業」「介護休業」を取る男性が少ない理由としては、全体で「職場の理解が得られないと思う」(52.7%)との回答が最も多く、次いで「男性は仕事を優先するべきだと考えているから」(44.7%)、「昇進や昇給に影響する恐れがある」(41.4%)、「休業補償が少なく、家計に影響する」(41.0%)、「仕事の量や責任が大きい」(33.5%)、「女性の方が育児・介護に向いている」(22.5%)などが比較的高い割合を占めている。

【性別】

性別にみると、「仕事の量や責任が大きい」(女性 30.8%、男性 37.0%)、「女性の方が育児・介護に向いている」(女性 22.1%、男性 23.6%)を除き、いずれの回答でも女性の割合が男性を上回っている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、男女とも70歳代以上では、「男性は仕事を優先するべきだと考えているから」との回答が最も多く、このほかではいずれも「職場の理解が得られないと思う」との回答が最も多くなっている。また、これに続く回答として、女性では20歳代では「昇進や昇給に影響する恐れがある」、30歳代から40歳代では「休業補償が少なく、家計に影響する」、50歳代から60歳代では「男性は仕事を優先するべきだと考えているから」が続いている。一方男性では、20歳代と70歳代以上で「昇進や昇給に影響する恐れがある」、30歳代で「仕事の量や責任が大きい」、40歳代では「休業補償が少なく、家計に影響する」、50歳代から60歳代では、女性と同じく「男性は仕事を優先するべきだと考えているから」との回答が続いている。

(%)

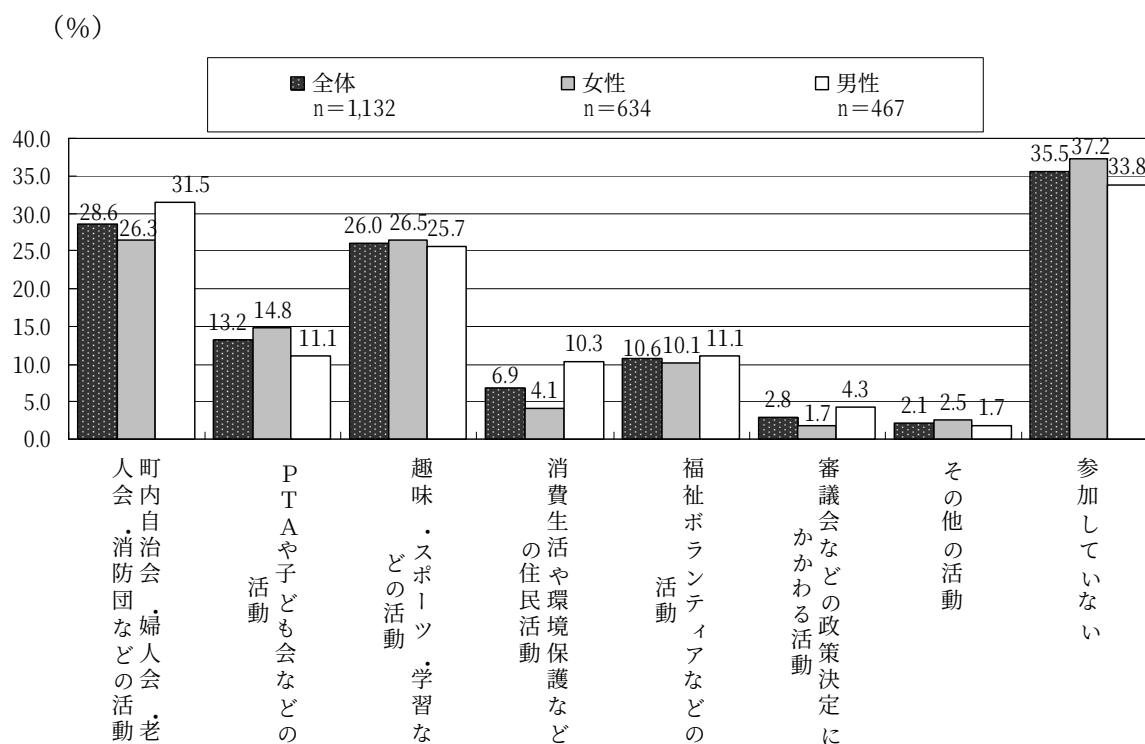
	合計	問13 育児・介護休業を取得する男性が少ない原因					
		昇進や昇給に影響する恐れがある	育児・介護休業は女性がとるものだ	休業補償が少なく、家計に影響する	仕事の量や責任が大きい	職場の理解が得られないと思う	女性の方が育児・介護に向いている
全体	1,132	41.4	13.9	41.0	33.5	52.7	22.5
性・年代別 女性	634	45.7	16.9	45.1	30.8	57.3	22.1
女性-20歳代	63	58.7	25.4	42.9	42.9	63.5	15.9
女性-30歳代	90	51.1	13.3	60.0	30.0	71.1	13.3
女性-40歳代	95	52.6	17.9	55.8	41.1	63.2	8.4
女性-50歳代	137	47.4	13.1	47.4	33.6	66.4	22.6
女性-60歳代	148	41.2	16.2	37.2	27.0	49.3	29.1
女性-70歳代以上	98	30.6	20.4	32.7	16.3	33.7	36.7
男性	467	35.5	9.6	36.8	37.0	47.5	23.6
男性-20歳代	40	55.0	10.0	42.5	32.5	65.0	12.5
男性-30歳代	63	33.3	7.9	38.1	47.6	49.2	14.3
男性-40歳代	69	36.2	7.2	42.0	37.7	44.9	17.4
男性-50歳代	95	28.4	8.4	33.7	38.9	43.2	21.1
男性-60歳代	116	33.6	13.8	34.5	39.7	55.2	31.0
男性-70歳代以上	83	38.6	8.4	34.9	25.3	33.7	33.7

	合計	男性は仕事を優先するべきだと考えているから			
		昇進や昇給に影響する恐れがある	育児・介護休業は女性がとるものだ	休業補償が少なく、家計に影響する	仕事の量や責任が大きい
全体	1,132	44.7	2.9	3.5	5.4
性・年代別 女性	634	49.2	1.9	3.2	4.9
女性-20歳代	63	46.0	1.6	3.2	1.6
女性-30歳代	90	43.3	3.3	2.2	1.1
女性-40歳代	95	52.6	3.2	2.1	2.1
女性-50歳代	137	56.9	1.5	0.7	2.9
女性-60歳代	148	45.9	1.4	3.4	7.4
女性-70歳代以上	98	48.0	1.0	8.2	12.2
男性	467	38.8	4.3	4.3	4.7
男性-20歳代	40	32.5	2.5	5.0	0.0
男性-30歳代	63	28.6	1.6	4.8	4.8
男性-40歳代	69	29.0	10.1	5.8	0.0
男性-50歳代	95	43.2	4.2	4.2	3.2
男性-60歳代	116	43.1	5.2	1.7	6.9
男性-70歳代以上	83	45.8	1.2	6.0	9.6

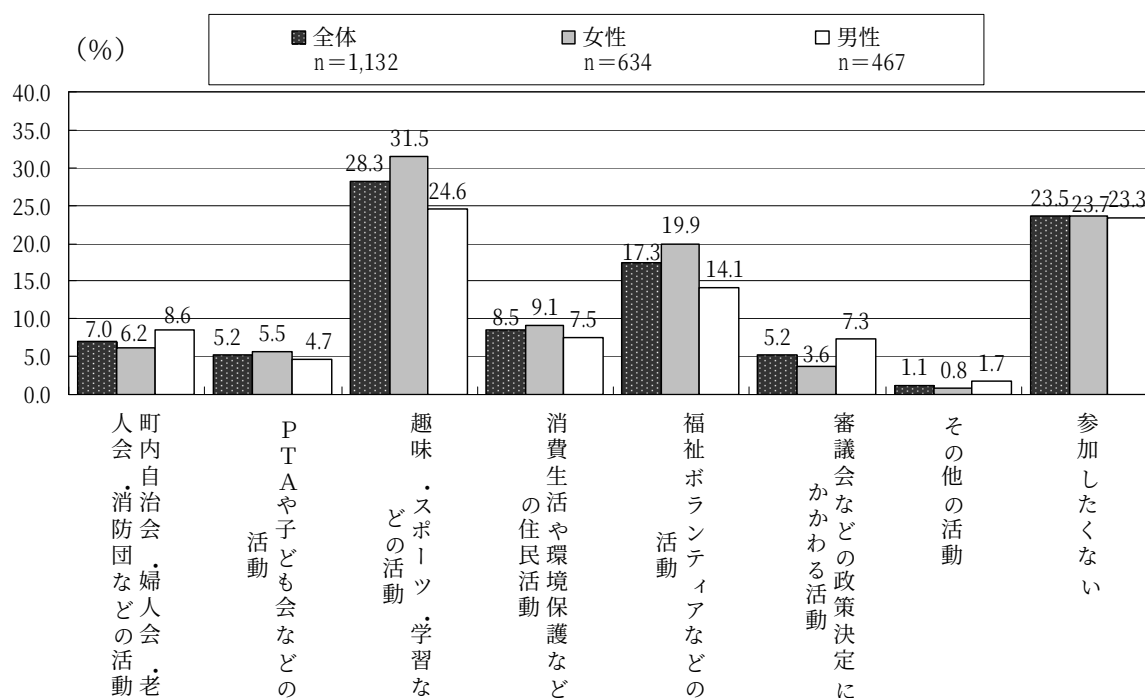
(3) 地域活動への参加状況・参加意向

問 14 あなたは現在、地域でどのような活動に参加していますか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。(〇はいくつでも)

【現在の参加状況】



【今後の参加意向】



現在参加している活動をみると、「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」(28.6%)が最も多く、次いで「趣味・スポーツ・学習などの活動」(26.0%)、「PTAや子ども会などの活動」(13.2%)、「福祉ボランティアなどの活動」(10.6%)が続いている。

【性・年代別】

現在参加している活動を性・年代別にみると、女性では20歳代30歳代及び50歳代で「参加していない」との回答が最も多く、40歳代では「PTAや子ども会などの活動」、60歳代以上では「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」との回答が最も多い。男性では、20歳代と50歳代で「参加していない」との回答が最も多く、40歳代では「PTAや子ども会などの活動」、このほかでは「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」との回答が最も多くなっている。

(%)

		合計	問14 現在参加している地域活動								
			町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動	PTAや子ども会などの活動	趣味・スポーツ・学習などの活動	消費生活や環境保護などの住民活動	福祉ボランティアなどの活動	審議会などの政策決定にかかわる活動	その他の活動	参加していない	不明
性・年代別	全体	1,132	28.6	13.2	26.0	6.9	10.6	2.8	2.1	35.5	9.5
	女性	634	26.3	14.8	26.5	4.1	10.1	1.7	2.5	37.2	9.8
	女性-20歳代	63	1.6	9.5	14.3	3.2	4.8	0.0	3.2	68.3	6.3
	女性-30歳代	90	11.1	32.2	16.7	1.1	2.2	0.0	1.1	50.0	4.4
	女性-40歳代	95	27.4	51.6	27.4	3.2	4.2	2.1	0.0	24.2	6.3
	女性-50歳代	137	19.0	2.9	24.1	3.6	7.3	0.7	3.6	43.8	10.9
	女性-60歳代	148	35.8	3.4	33.8	6.8	16.9	4.1	2.7	27.7	13.5
	女性-70歳代以上	98	51.0	1.0	35.7	5.1	20.4	2.0	4.1	23.5	12.2
	男性	467	31.5	11.1	25.7	10.3	11.1	4.3	1.7	33.8	8.4
	男性-20歳代	40	10.0	0.0	17.5	2.5	7.5	0.0	0.0	62.5	5.0
	男性-30歳代	63	47.6	23.8	36.5	7.9	7.9	1.6	1.6	31.7	6.3
	男性-40歳代	69	33.3	39.1	31.9	11.6	10.1	0.0	0.0	29.0	1.4
	男性-50歳代	95	21.1	6.3	16.8	9.5	8.4	10.5	0.0	40.0	7.4
	男性-60歳代	116	34.5	1.7	24.1	12.1	16.4	5.2	2.6	26.7	12.9
	男性-70歳代以上	83	36.1	2.4	28.9	13.3	12.0	3.6	4.8	27.7	12.0

今後参加したい活動では、「趣味・スポーツ・学習などの活動」(28.3%)が最も多く、次いで「福祉ボランティアなどの活動」(17.3%)が続いている。

【性別】

性別でみると、今後の参加意向として「趣味・スポーツ・学習などの活動」、「福祉ボランティアなどの活動」の割合は全体的に高くなっているが、特に女性の割合が高い傾向にある。

【性・年代別】

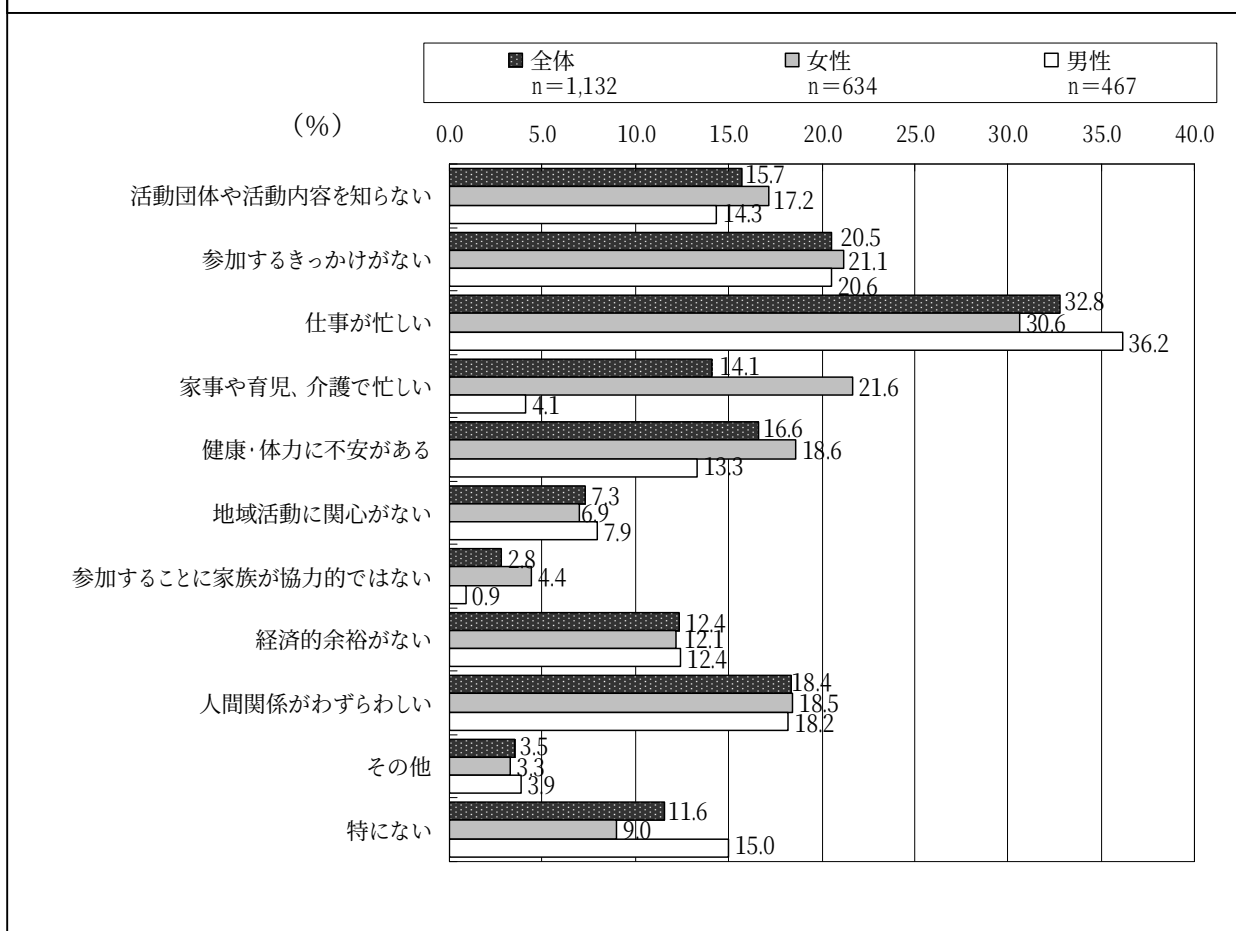
性・年代別では、女性は70歳代以上で「参加したくない」での回答が最も多くなっているほかは、いずれも「趣味・スポーツ・学習などの活動」が最も多くなっている。男性では、50歳代、60歳代で「趣味・スポーツ・学習などの活動」が最も多く、このほかでは、いずれも「参加したくない」との回答が多くなっている。

(%)

		合計	問14 今後参加してみたい地域活動								
			町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動	P.T.Aや子ども会などの活動	趣味・スポーツ・学習などの活動	消費生活や環境保護などの住民活動	福祉ボランティアなどの活動	審議会などの政策決定にかかわる活動	その他の活動	参加したくない	不明
性・年代別	全体	1,132	7.0	5.2	28.3	8.5	17.3	5.2	1.1	23.5	27.7
	女性	634	6.2	5.5	31.5	9.1	19.9	3.6	0.8	23.7	25.7
	女性-20歳代	63	4.8	11.1	36.5	6.3	17.5	0.0	0.0	34.9	9.5
	女性-30歳代	90	6.7	22.2	37.8	6.7	15.6	3.3	0.0	30.0	16.7
	女性-40歳代	95	2.1	4.2	35.8	10.5	22.1	5.3	1.1	16.8	31.6
	女性-50歳代	137	5.1	0.7	35.0	9.5	27.7	6.6	2.2	25.5	17.5
	女性-60歳代	148	7.4	1.4	30.4	9.5	22.3	2.0	0.7	20.9	25.7
	女性-70歳代以上	98	10.2	1.0	16.3	11.2	9.2	3.1	0.0	17.3	50.0
	男性	467	8.6	4.7	24.6	7.5	14.1	7.3	1.7	23.3	29.3
	男性-20歳代	40	2.5	10.0	35.0	5.0	7.5	5.0	0.0	37.5	15.0
	男性-30歳代	63	7.9	14.3	17.5	0.0	9.5	4.8	3.2	30.2	30.2
	男性-40歳代	69	8.7	7.2	26.1	2.9	8.7	10.1	0.0	27.5	29.0
	男性-50歳代	95	6.3	0.0	36.8	11.6	20.0	8.4	1.1	18.9	20.0
	男性-60歳代	116	10.3	1.7	21.6	11.2	16.4	8.6	1.7	17.2	38.8
	男性-70歳代以上	83	12.0	2.4	14.5	8.4	15.7	4.8	3.6	20.5	33.7

(4) 地域活動へ参加する際に支障となること、または参加しない理由

問 15 あなたが地域活動へ参加する際に支障となること、または参加しない理由は何ですか。
(○はいくつでも)



地域活動に参加する際に支障となること、または参加しない理由では「仕事が忙しい」(32.8%)が最も多く、次いで「参加するきっかけがない」(20.5%)、「人間関係がわずらわしい」(18.4%)、「健康・体力に不安がある」(16.6%)、「活動団体や活動内容を知らない」(15.7%)が続いている。

【性別】

性別にみると、男女間で差がみられる回答として、「仕事が忙しい」(女性 30.6%、男性 36.2%)では男性の割合が高く、「家事や育児、介護で忙しい」(女性 21.6%、男性 4.1%)、「健康・体力に不安がある」(女性 18.6%、男性 13.3%)では女性の割合が高くなっている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では20歳代で「参加するきっかけがない」、30歳代では「家事や育児・介護で忙しい」40歳代から60歳代にかけては「仕事が忙しい」、70歳代以上では「健康・体力に不安がある」との回答が最も多くなっている。男性では70歳代以上で「健康・体力に不安がある」が多くなっているほかは、いずれも「仕事が忙しい」との回答が最も多い。

(%)

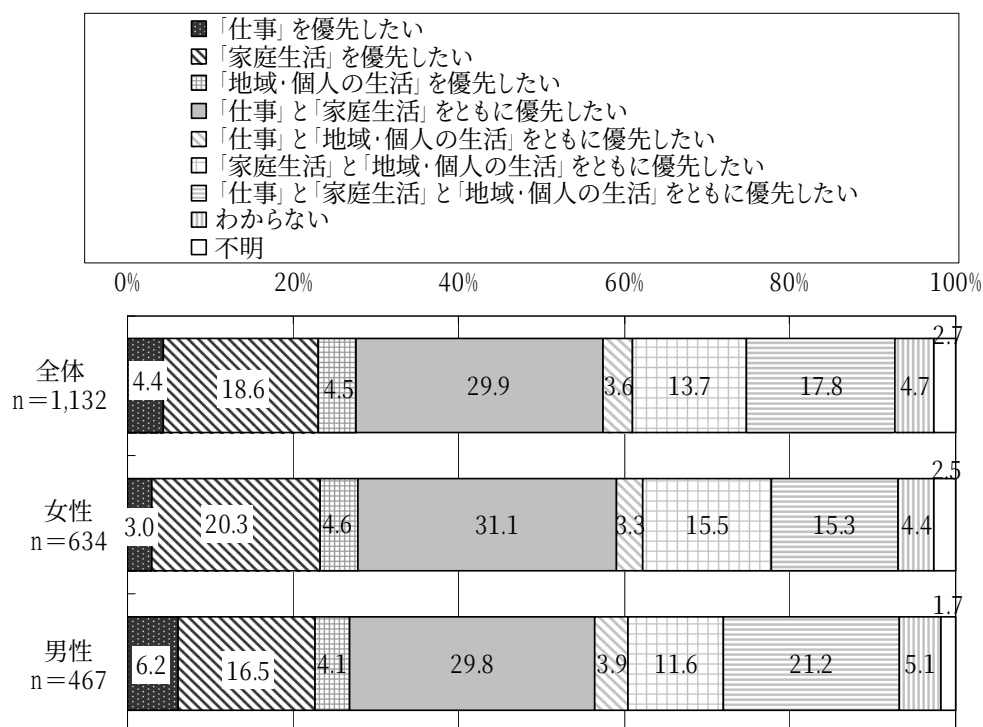
		合計	問15 地域活動へ参加する際の支障・参加しない理由						
			活動団体 や活動内 容を知ら ない	参加する きっかけ がない	仕事が忙 しい	家事や育 児、介護 で忙しい	健康・体 力に不安 がある	地域活動 に関心が ない	参加する ことに家 族が協力 的でない
性・年代別	全体	1,132	15.7	20.5	32.8	14.1	16.6	7.3	2.8
	女性	634	17.2	21.1	30.6	21.6	18.6	6.9	4.4
	女性-20歳代	63	42.9	49.2	25.4	27.0	3.2	12.7	4.8
	女性-30歳代	90	24.4	24.4	38.9	40.0	5.6	12.2	4.4
	女性-40歳代	95	15.8	18.9	47.4	34.7	10.5	7.4	9.5
	女性-50歳代	137	16.8	22.6	34.3	19.0	19.7	7.3	3.6
	女性-60歳代	148	12.2	17.6	26.4	12.8	25.7	2.0	3.4
	女性-70歳代以上	98	4.1	6.1	11.2	5.1	36.7	5.1	2.0
	男性	467	14.3	20.6	36.2	4.1	13.3	7.9	0.9
	男性-20歳代	40	30.0	32.5	50.0	7.5	5.0	17.5	2.5
	男性-30歳代	63	15.9	28.6	50.8	7.9	1.6	12.7	1.6
	男性-40歳代	69	8.7	11.6	42.0	5.8	8.7	8.7	0.0
	男性-50歳代	95	10.5	21.1	44.2	3.2	6.3	7.4	2.1
	男性-60歳代	116	18.1	22.4	30.2	1.7	16.4	6.9	0.0
	男性-70歳代以上	83	8.4	13.3	12.0	2.4	33.7	1.2	0.0

		合計	理由				
			経済的余 裕がない	人間関係 がわずら わしい	その他	特にな い	不明
性・年代別	全体	1,132	12.4	18.4	3.5	11.6	7.8
	女性	634	12.1	18.5	3.3	9.0	7.1
	女性-20歳代	63	14.3	19.0	6.3	3.2	0.0
	女性-30歳代	90	16.7	22.2	5.6	8.9	2.2
	女性-40歳代	95	13.7	18.9	2.1	7.4	4.2
	女性-50歳代	137	13.1	21.2	5.1	5.1	1.5
	女性-60歳代	148	10.8	16.9	0.7	10.1	10.8
	女性-70歳代以上	98	6.1	13.3	2.0	18.4	20.4
	男性	467	12.4	18.2	3.9	15.0	7.7
	男性-20歳代	40	12.5	15.0	7.5	2.5	2.5
	男性-30歳代	63	9.5	23.8	0.0	19.0	0.0
	男性-40歳代	69	14.5	23.2	5.8	21.7	2.9
	男性-50歳代	95	12.6	17.9	2.1	12.6	5.3
	男性-60歳代	116	11.2	16.4	3.4	13.8	12.9
	男性-70歳代以上	83	13.3	14.5	6.0	16.9	15.7

(5) 仕事、家庭生活、地域・個人生活の両立に関する希望と実態

①希望

問16-① あなたが生活を送るうえで、希望に最も近いものを選んで○を付けてください。
(○は1つだけ)



全体では、「仕事と家庭生活をともに優先したい」(29.9%)が最も多く、次いで「家庭生活を優先したい」(18.6%)、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」(17.8%)、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」(13.7%)が続いている。

【性別】

性別にみると、男女いずれも「仕事と家庭生活をともに優先したい」との回答が最も多いが、女性では、これに「家庭生活を優先したい」(20.3%)が続き、男性ではこれに「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」(21.2%)との回答が続いている。

【性・年代別】

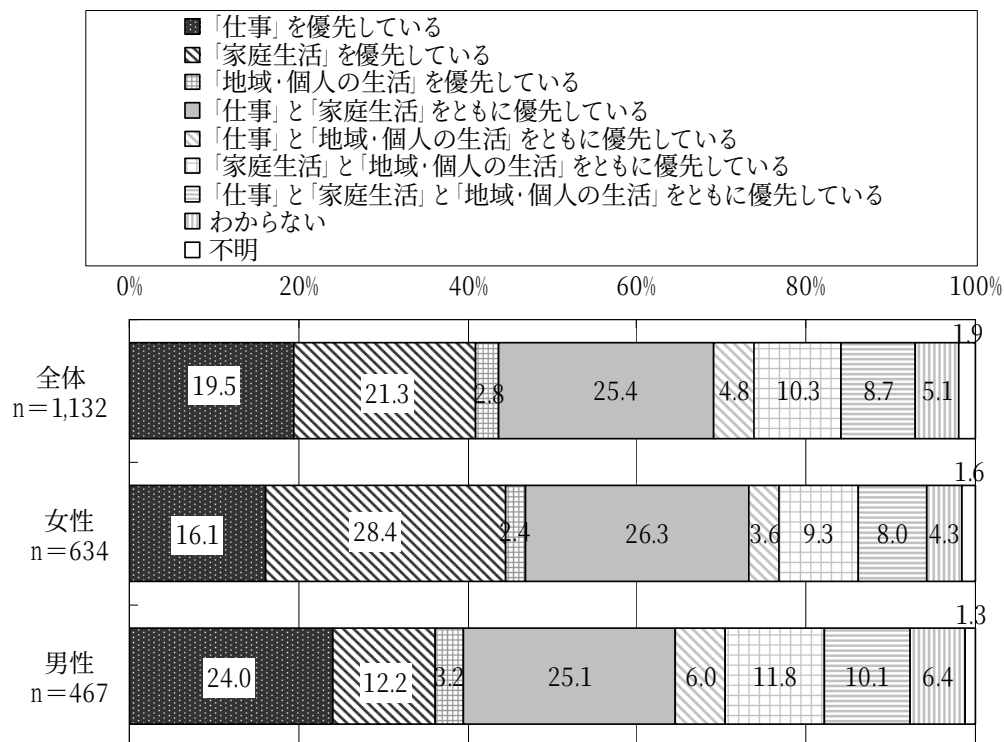
性・年代別にみると、女性では20歳代から50歳代にかけて、「仕事と家庭生活をともに優先したい」との回答が多く、60歳代以上では「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」との回答が最も多くなっている。男性では、20歳代から50歳代にかけて「仕事と家庭生活をともに優先したい」との回答が多く、60歳代では「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」、70歳代以上では、「家庭生活を優先したい」との回答が最も多くなっている。

(%)

		合計	問16.1 生活を送るうえで、希望に最も近いもの								
			「仕事」 を優先し たい	「家庭生 活」を優 先したい	「地域・ 個人の生 活」を優 先したい	「仕事」 と「家庭 生活」を ともに優 先したい	「仕事」 と「地 域・個人 の生活」 をともに 優先した い	「家庭生 活」と 「地域・ 個人の生 活」をと もに優先 したい	「仕事」 と「家庭 生活」と 「地域・ 個人の生 活」をと もに優先 したい	わからな い	不明
性・年代別	全体	1,132	4.4	18.6	4.5	29.9	3.6	13.7	17.8	4.7	2.7
	女性	634	3.0	20.3	4.6	31.1	3.3	15.5	15.3	4.4	2.5
	女性-20歳代	63	0.0	12.7	3.2	50.8	1.6	6.3	23.8	1.6	0.0
	女性-30歳代	90	0.0	28.9	1.1	45.6	1.1	12.2	8.9	2.2	0.0
	女性-40歳代	95	4.2	18.9	0.0	41.1	5.3	5.3	18.9	6.3	0.0
	女性-50歳代	137	3.6	14.6	1.5	32.8	5.8	12.4	24.1	4.4	0.7
	女性-60歳代	148	4.1	25.0	8.8	15.5	3.4	25.7	11.5	2.0	4.1
	女性-70歳代以上	98	3.1	19.4	11.2	17.3	1.0	23.5	6.1	9.2	9.2
	男性	467	6.2	16.5	4.1	29.8	3.9	11.6	21.2	5.1	1.7
	男性-20歳代	40	5.0	15.0	5.0	42.5	5.0	2.5	22.5	2.5	0.0
	男性-30歳代	63	9.5	9.5	4.8	46.0	4.8	4.8	12.7	7.9	0.0
	男性-40歳代	69	2.9	23.2	2.9	31.9	0.0	7.2	29.0	2.9	0.0
	男性-50歳代	95	8.4	12.6	0.0	31.6	8.4	5.3	27.4	5.3	1.1
	男性-60歳代	116	6.9	12.9	3.4	22.4	2.6	22.4	24.1	5.2	0.0
	男性-70歳代以上	83	3.6	26.5	9.6	16.9	2.4	16.9	9.6	6.0	8.4

②現実（現状）

問 16－② あなたの生活で、現実（現状）に最も近いものを1つだけ選んで○を付けてください。
（○は1つだけ）



全体では、「仕事と家庭生活をともに優先している」（25.4%）が最も多く、次いで「家庭生活を優先している」（21.3%）、「仕事を優先している」（19.5%）が続いている。

【性別】

性別にみると、女性では「家庭生活を優先している」（28.4%）との回答が最も多く、これに「仕事と家庭生活をともに優先している」（26.3%）が続いているが、男性では「仕事と家庭生活をともに優先している」（25.1%）との回答が最も多く、これに「仕事を優先している」（24.0%）が続いている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では20歳代で「仕事を優先している」、30歳代から50歳代にかけては「仕事と家庭生活をともに優先している」、60歳代以上では「家庭生活を優先している」との回答が最も多くなっている。男性では20歳代から40歳代にかけては「仕事を優先している」、50歳代から60歳代では「仕事と家庭生活をともに優先している」、70歳代以上では、「家庭生活を優先している」「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」との回答が最も多くなっている。

【世帯最年少者の年齢別】

希望については大きな差はみられなかったが、現実（現状）に近いものでは、乳幼児のいる世帯で「家庭生活を優先している」の割合が、他に比べ高くなっている。

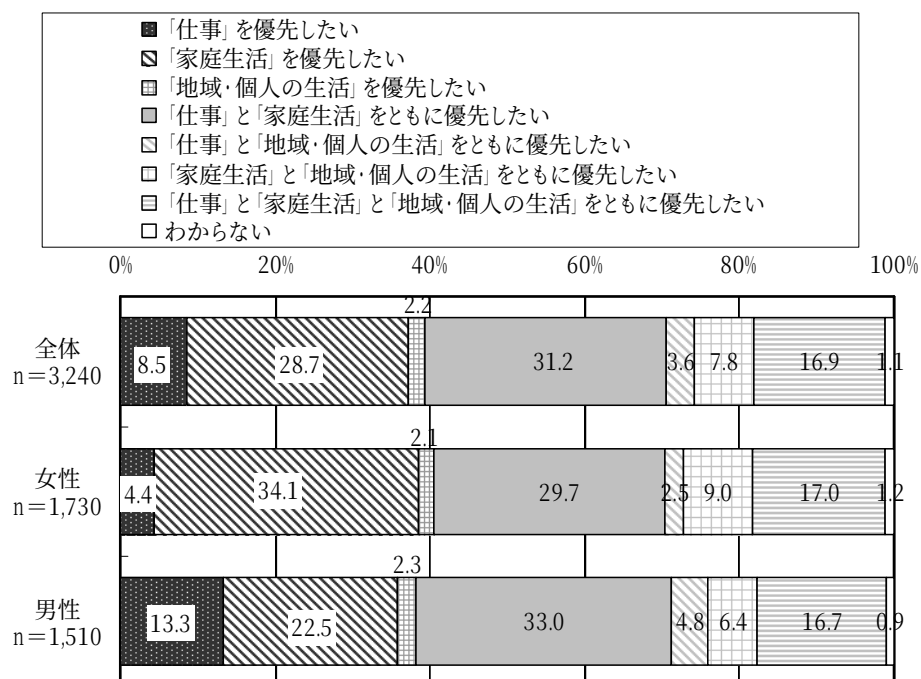
(%)

		合計	問16.2 生活で、現実（現状）に最も近いもの								
			「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	わからない	不明
性・年代別	全体	1,132	19.5	21.3	2.8	25.4	4.8	10.3	8.7	5.1	1.9
	女性	634	16.1	28.4	2.4	26.3	3.6	9.3	8.0	4.3	1.6
	女性-20歳代	63	31.7	20.6	0.0	23.8	9.5	1.6	4.8	7.9	0.0
	女性-30歳代	90	24.4	30.0	0.0	27.8	8.9	1.1	4.4	3.3	0.0
	女性-40歳代	95	20.0	22.1	1.1	34.7	2.1	5.3	8.4	5.3	1.1
	女性-50歳代	137	21.9	25.5	0.7	35.0	0.7	2.2	10.2	3.6	0.0
	女性-60歳代	148	5.4	35.8	4.7	19.6	1.4	19.6	10.8	0.7	2.0
	女性-70歳代以上	98	3.1	29.6	6.1	16.3	4.1	20.4	6.1	8.2	6.1
	男性	467	24.0	12.2	3.2	25.1	6.0	11.8	10.1	6.4	1.3
	男性-20歳代	40	40.0	5.0	2.5	22.5	10.0	0.0	5.0	15.0	0.0
	男性-30歳代	63	42.9	7.9	3.2	23.8	7.9	4.8	4.8	4.8	0.0
	男性-40歳代	69	30.4	10.1	1.4	27.5	2.9	5.8	17.4	4.3	0.0
	男性-50歳代	95	30.5	5.3	0.0	37.9	7.4	3.2	10.5	5.3	0.0
	男性-60歳代	116	12.1	14.7	3.4	24.1	6.9	20.7	11.2	6.0	0.9
	男性-70歳代以上	83	6.0	25.3	8.4	12.0	2.4	25.3	8.4	6.0	6.0
世帯最年少者の年齢	乳幼児	141	17.0	31.9	0.0	30.5	2.8	7.1	7.1	2.1	1.4
	小学生	97	25.8	15.5	1.0	30.9	6.2	6.2	12.4	1.0	1.0
	中学生	55	25.5	20.0	0.0	25.5	1.8	7.3	16.4	3.6	0.0
	高校生以上	422	21.8	16.8	2.6	27.7	5.5	8.1	10.2	6.6	0.7

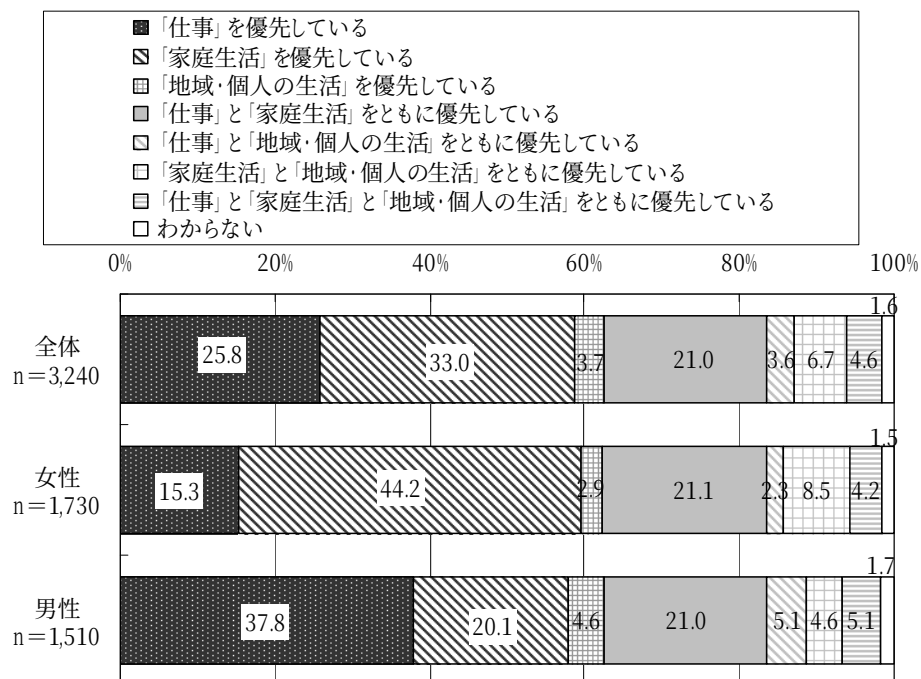
【国・県調査との比較】

○内閣府男女共同参画に関する世論調査（平成21年度）

■理想



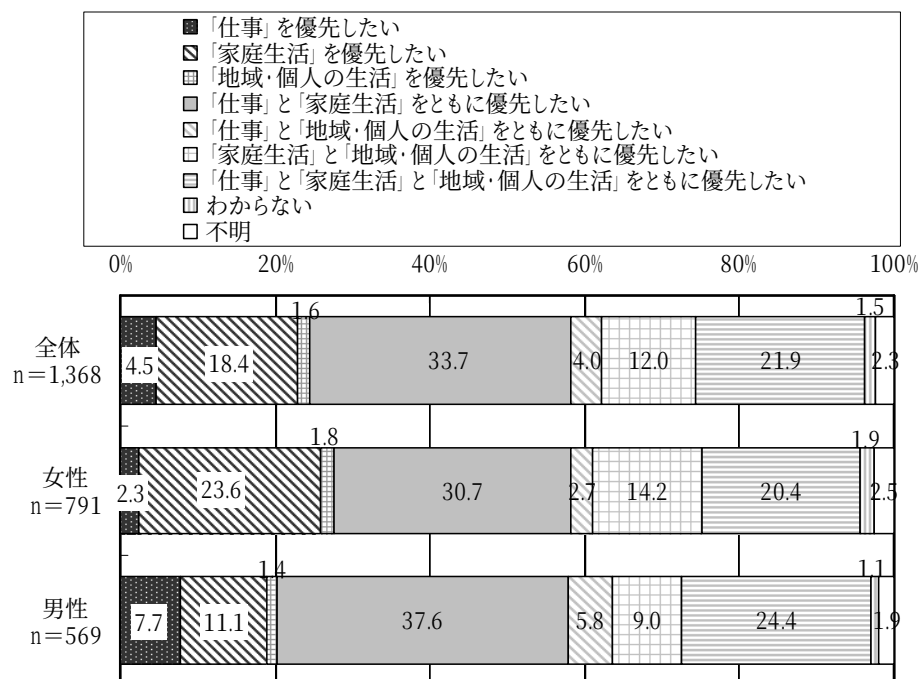
■現実



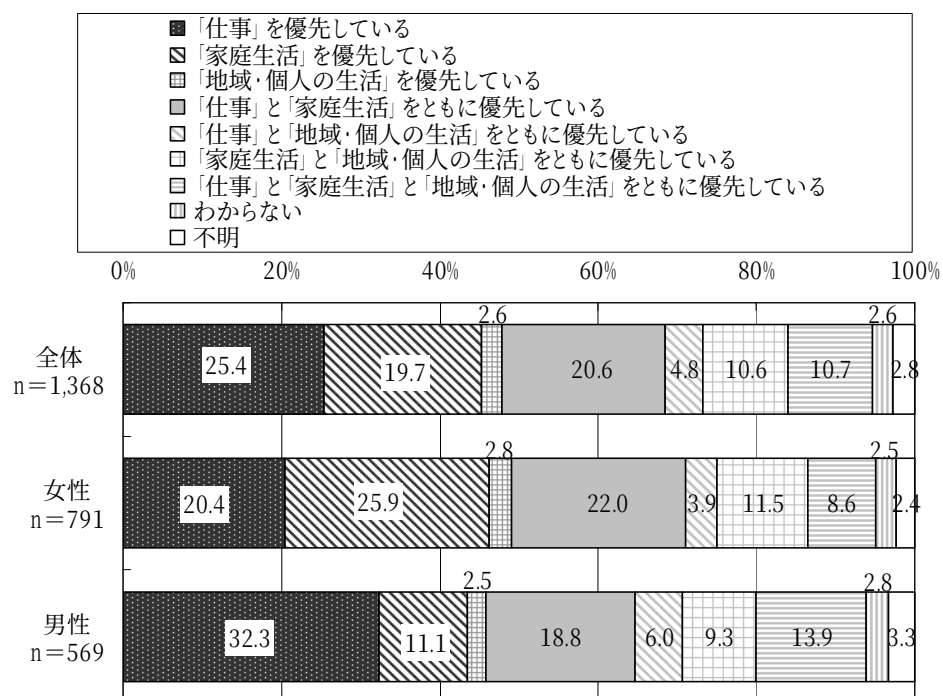
本市の結果と同じく、理想では仕事と家庭の両立に対する希望が多いものの、現実には、特に男性で仕事を優先している実態がうかがえる。

○平成21年度 男女共同参画に関する県民意識調査（熊本県）

■理想



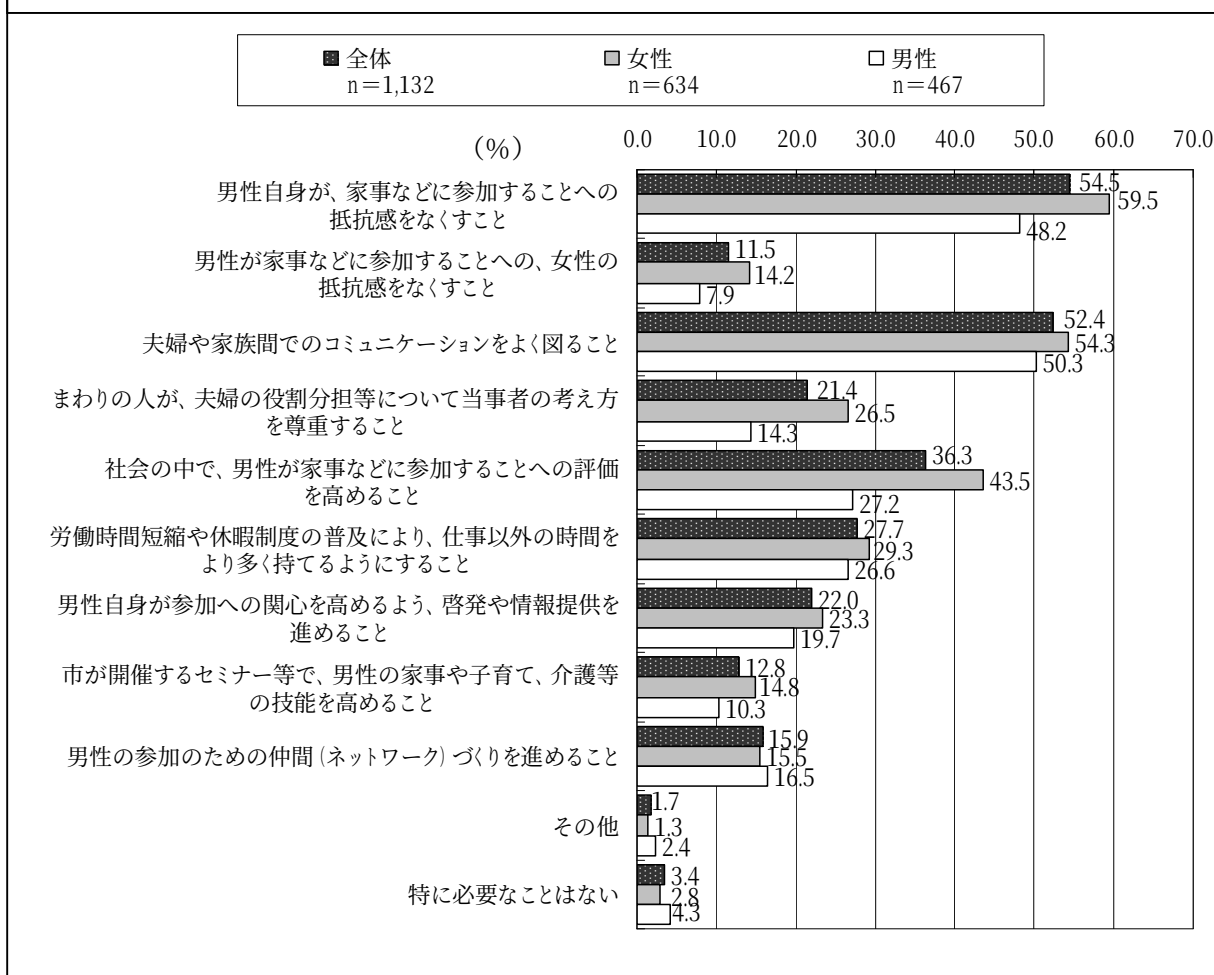
■現実



本市の結果と同じく、理想では仕事と家庭の両立に対する希望が多いものの、現実には、特に男性で仕事を優先している実態がうかがえる。

(6) 男性が女性と共に家事、子育て、介護、地域活動に参加していくために必要なこと

問 17 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



全体では「男性自身が、家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと」(54.5%)との回答が最も多く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」(52.4%)が続いており、いずれも半数以上の回答を得ている。以下に「社会の中で、男性が家事などに参加することへの評価を高めること」(36.3%)、「労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(27.7%)、「男性自身が参加への関心を高めるよう、啓発や情報提供を進めること」(22.0%)、「まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること」(21.4%)が続いている。

【性別】

性別にみると、回答順位に大きな差はみられないが、全体的に男性に比べ女性の回答割合が高くなっている。また、「男性自身が家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと」(女性 59.5%、男性 48.2%)、「社会の中で、男性が家事などに参加することへの評価を高めること」(女性 43.5%、男性 27.2%)、「まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること」(女性 26.5%、男性 14.3%) などでは男女間での差が大きくなっている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の40歳代、60歳代では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」、これ以外の年代では、いずれも「男性自身が家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと」との回答が最も多くなっている。男性では、20歳代で「社会の中で、男性が家事などに参加することへの評価を高めること」、50歳代及び70歳代以上では「男性自身が家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと」、このほかでは「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」との回答が最も多くなっている。

(%)

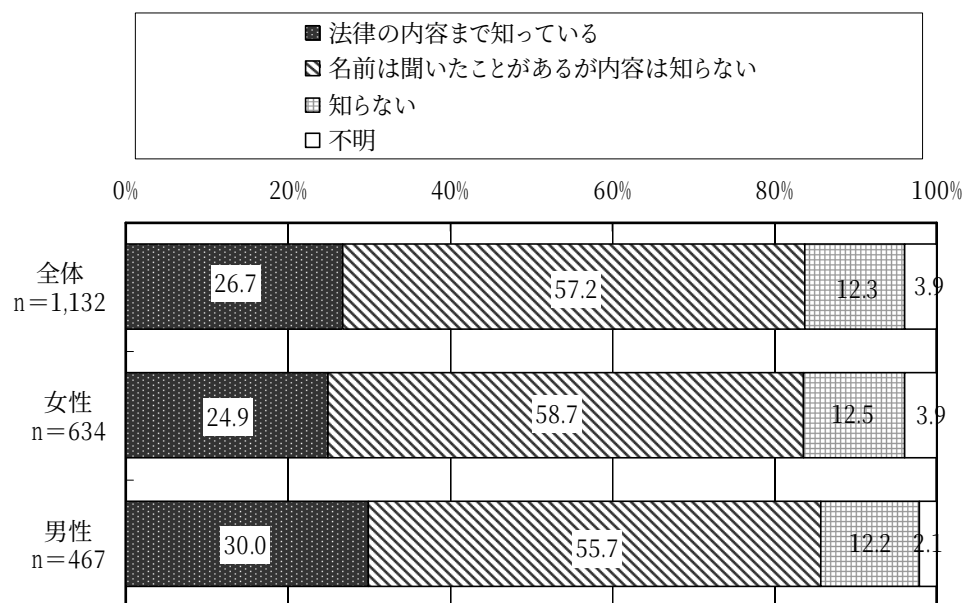
		合計	問17 男性の参加のために必要なこと							
			男性自身が、家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性が家事などに参加することへの評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性自身が参加への関心を高めるよう、啓発や情報提供を進めること	市が開催するセミナー等で、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
性・年代別	全体	1,132	54.5	11.5	52.4	21.4	36.3	27.7	22.0	12.8
	女性	634	59.5	14.2	54.3	26.5	43.5	29.3	23.3	14.8
	女性-20歳代	63	60.3	7.9	57.1	34.9	58.7	47.6	25.4	22.2
	女性-30歳代	90	66.7	18.9	51.1	28.9	58.9	35.6	18.9	14.4
	女性-40歳代	95	56.8	14.7	58.9	32.6	37.9	33.7	16.8	9.5
	女性-50歳代	137	70.1	15.3	54.7	23.4	48.9	27.7	24.8	13.1
	女性-60歳代	148	55.4	14.2	58.1	25.0	33.1	22.3	29.7	14.9
	女性-70歳代以上	98	46.9	12.2	45.9	20.4	33.7	21.4	21.4	18.4
	男性	467	48.2	7.9	50.3	14.3	27.2	26.6	19.7	10.3
	男性-20歳代	40	45.0	2.5	45.0	15.0	47.5	42.5	10.0	5.0
	男性-30歳代	63	39.7	11.1	49.2	20.6	28.6	31.7	9.5	11.1
	男性-40歳代	69	44.9	11.6	46.4	14.5	27.5	29.0	11.6	4.3
	男性-50歳代	95	55.8	7.4	46.3	15.8	26.3	29.5	22.1	9.5
	男性-60歳代	116	50.9	5.2	62.1	7.8	19.8	22.4	31.0	12.9
	男性-70歳代以上	83	47.0	9.6	45.8	16.9	26.5	15.7	20.5	13.3

		合計	男性の参加のための仲間（ネットワーク）づくりを進めること	その他	特に必要なことはない	不明
性・年代別	全体	1,132	15.9	1.7	3.4	3.6
	女性	634	15.5	1.3	2.8	3.0
	女性-20歳代	63	17.5	0.0	0.0	1.6
	女性-30歳代	90	12.2	3.3	1.1	1.1
	女性-40歳代	95	15.8	2.1	3.2	0.0
	女性-50歳代	137	15.3	0.0	0.7	0.0
	女性-60歳代	148	14.2	1.4	4.1	4.1
	女性-70歳代以上	98	19.4	1.0	7.1	9.2
	男性	467	16.5	2.4	4.3	3.2
	男性-20歳代	40	22.5	5.0	2.5	0.0
	男性-30歳代	63	7.9	3.2	6.3	3.2
	男性-40歳代	69	7.2	5.8	2.9	1.4
	男性-50歳代	95	20.0	2.1	3.2	1.1
	男性-60歳代	116	19.0	0.0	3.4	4.3
	男性-70歳代以上	83	19.3	1.2	7.2	7.2

7. 配偶者などからの暴力について

(1) DV防止法の認知度

問 18 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(通称：※DV防止法)が平成13(2001)年10月に施行されましたが、あなたはこの法律を知っていますか。(○は1つだけ)



「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV防止法)については、全体で「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」(57.2%)との回答が過半数を占めており、次いで「法律の内容まで知っている」(26.7%)、「知らない」(12.3%)が続いている。

【性別】

性別でみると、いずれも「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」との回答が過半数を占めているが(女性 58.7%、男性 55.7%)、男性では「法律の内容まで知っている」の割合が、女性に比べ高くなっている(女性 24.9%、男性 30.0%)。

【性・年代別】

性・年代別にみても「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」との回答が最も多くなっているが、女性の40歳代、50歳代及び男性の40歳代では「法律の内容まで知っている」と「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」の合計が9割を超えている。

(%)

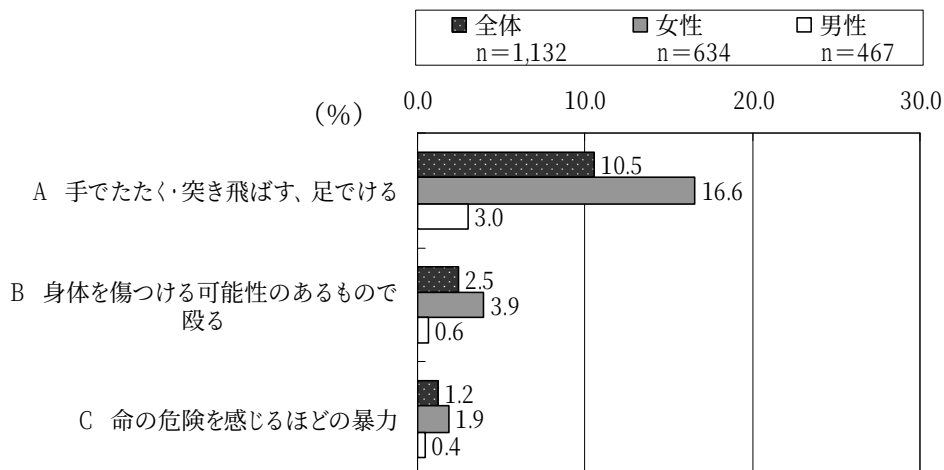
		合計	問18 DV防止法の認知度			
			法律の内容まで知っている	名前は聞いたことがあるが内容は知らない	知らない	不明
性・年代別	全体	1,132	26.7	57.2	12.3	3.9
	女性	634	24.9	58.7	12.5	3.9
	女性-20歳代	63	25.4	54.0	20.6	0.0
	女性-30歳代	90	18.9	65.6	10.0	5.6
	女性-40歳代	95	25.3	69.5	5.3	0.0
	女性-50歳代	137	32.1	59.9	5.8	2.2
	女性-60歳代	148	29.7	51.4	13.5	5.4
	女性-70歳代以上	98	12.2	55.1	23.5	9.2
	男性	467	30.0	55.7	12.2	2.1
	男性-20歳代	40	22.5	62.5	15.0	0.0
	男性-30歳代	63	28.6	55.6	14.3	1.6
	男性-40歳代	69	33.3	60.9	4.3	1.4
	男性-50歳代	95	35.8	52.6	9.5	2.1
	男性-60歳代	116	27.6	58.6	10.3	3.4
男性-70歳代以上	83	27.7	48.2	21.7	2.4	

(2) DVに関する被害・加害経験

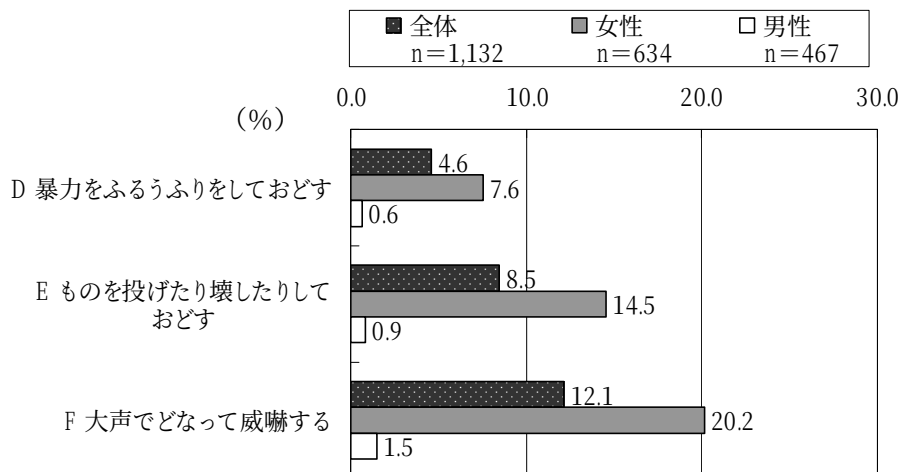
問 19 あなたは、これまでに恋人や配偶者（事実婚や別居中、離婚後を含む）などの親しい間で、次のA～Nについてあてはまるようなことをされたことがありますか。あてはまるものを1つずつ選び、その番号（1～4）に○を付けてください。

【被害経験】

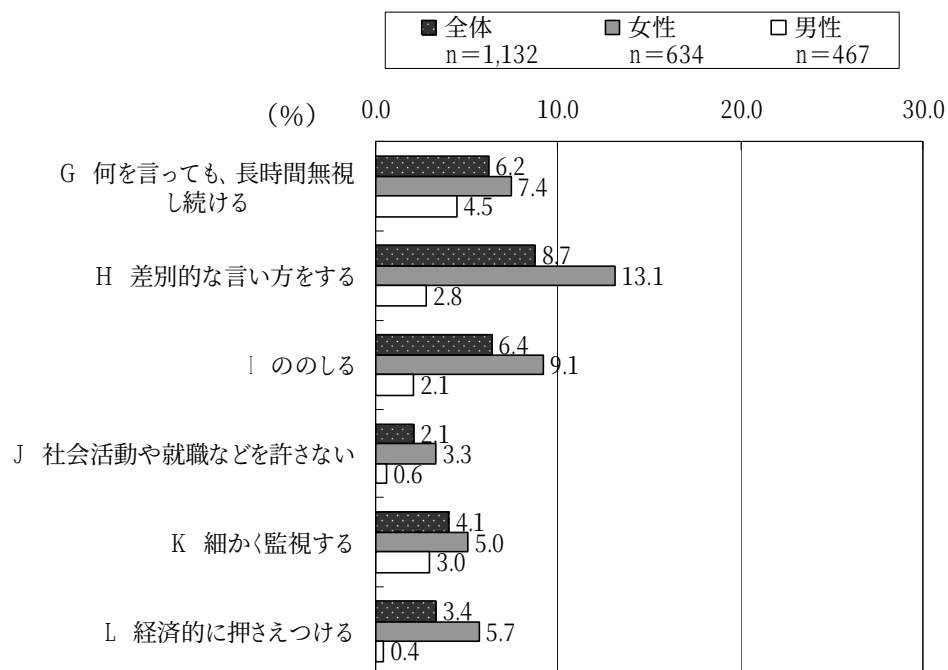
①身体への攻撃



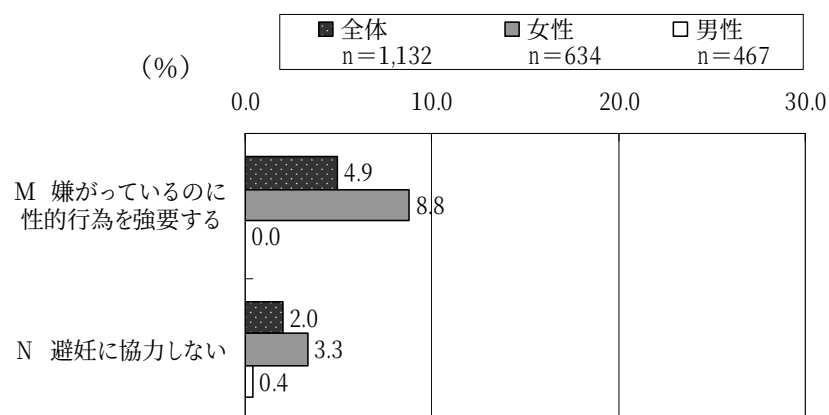
②威嚇・おどし



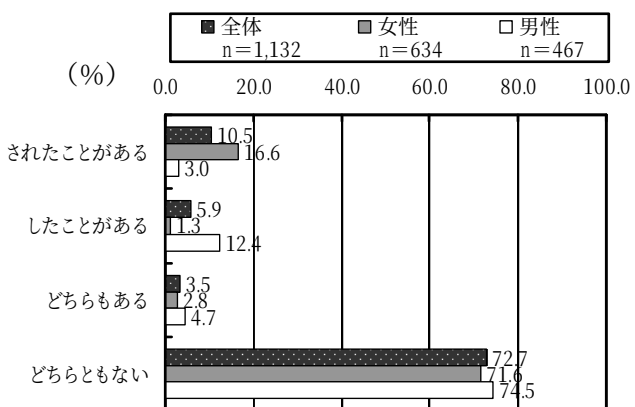
③精神的・経済的暴力



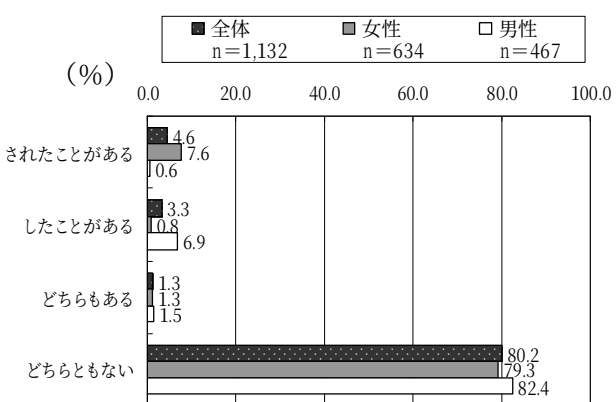
④性的暴力



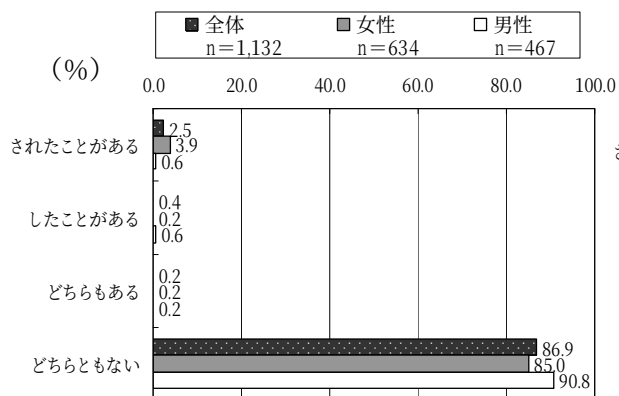
○手でたたく・突き飛ばす、足でける



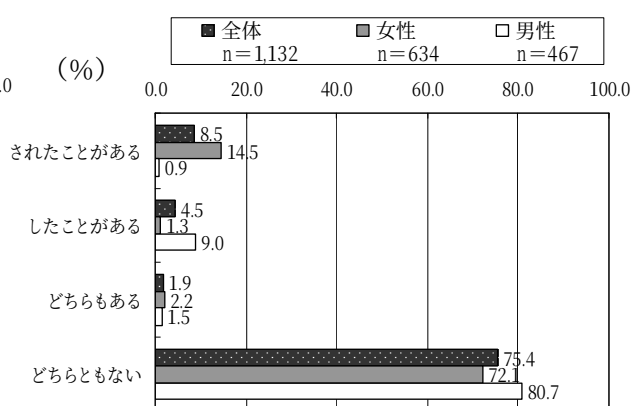
○暴力をふるうふりをしておどす



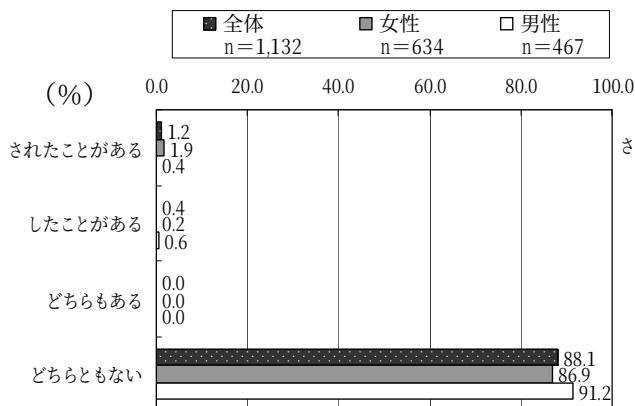
○身体を傷つける可能性のあるもので殴る



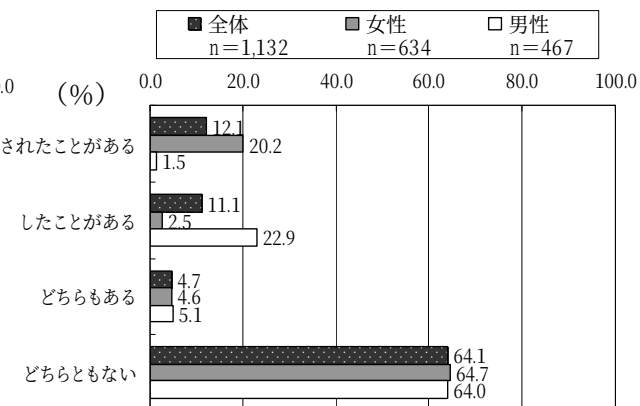
○ものを投げたり壊したりしておどす



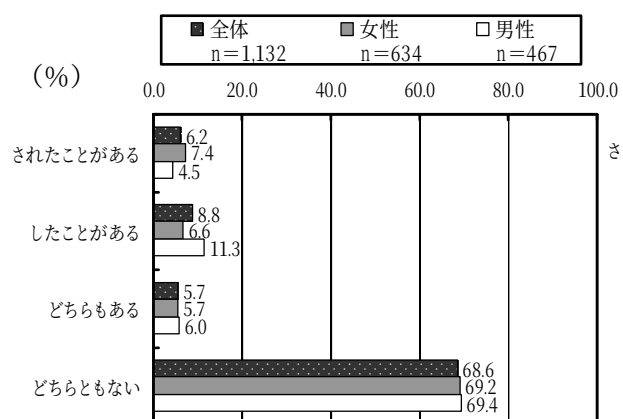
○命の危険を感じるほどの暴力



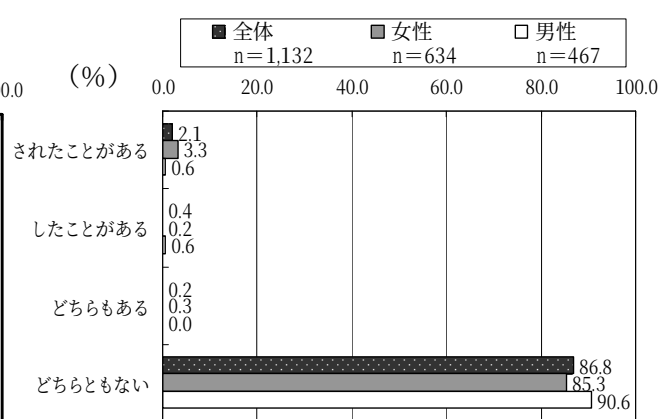
○大声でどなって威嚇する



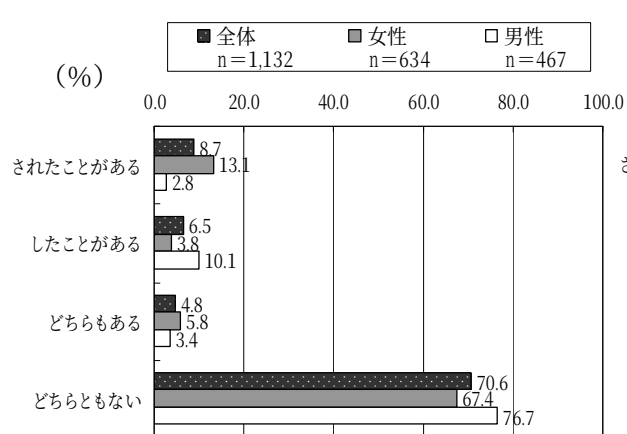
○何を言っても、長時間無視し続ける



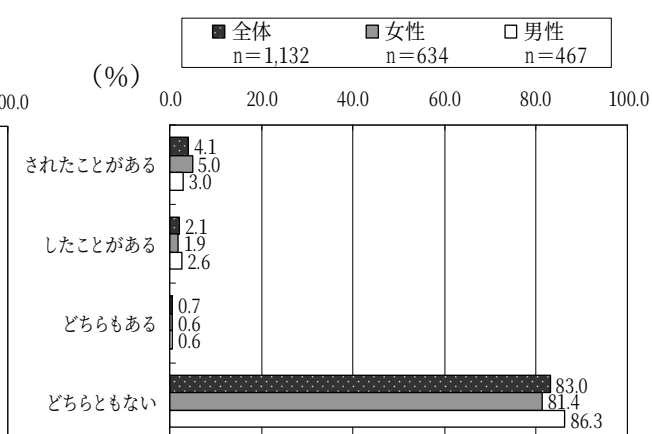
○社会活動や就職などをゆるさない



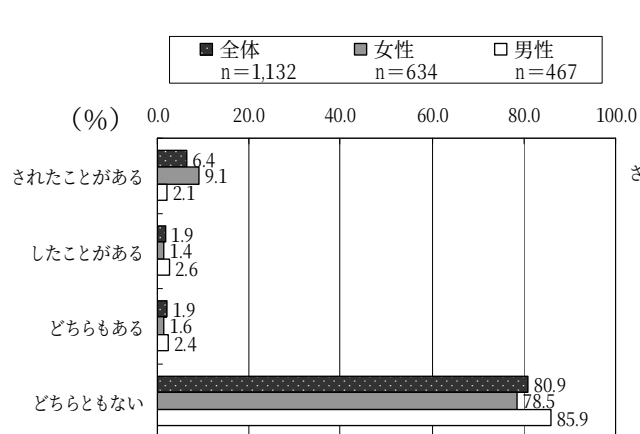
○差別的な言い方をする



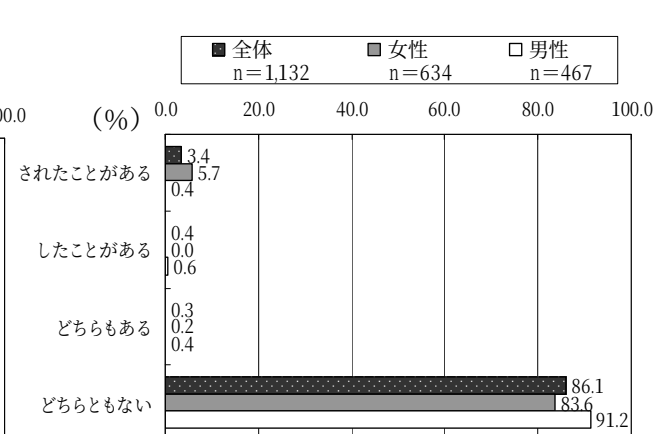
○細かく監視する



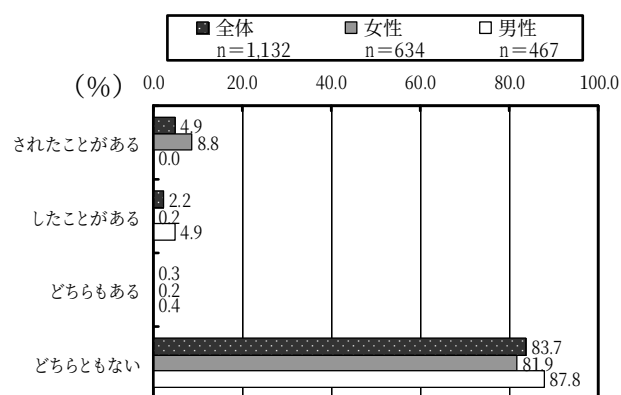
○誰のおかげで生活できるんだなどののしる



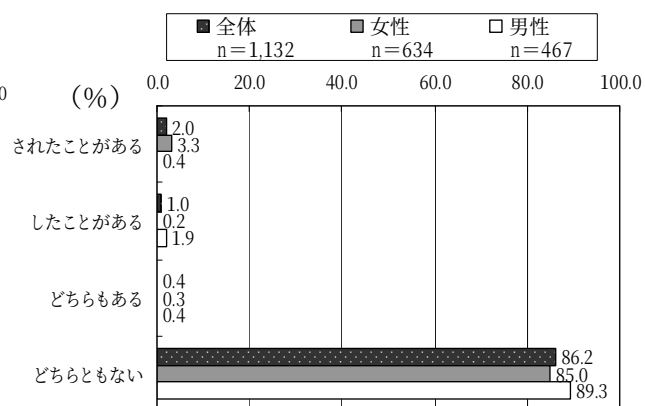
○経済的に押さえつける



○嫌がっているのに性的行為を強要する



○避妊に協力しない

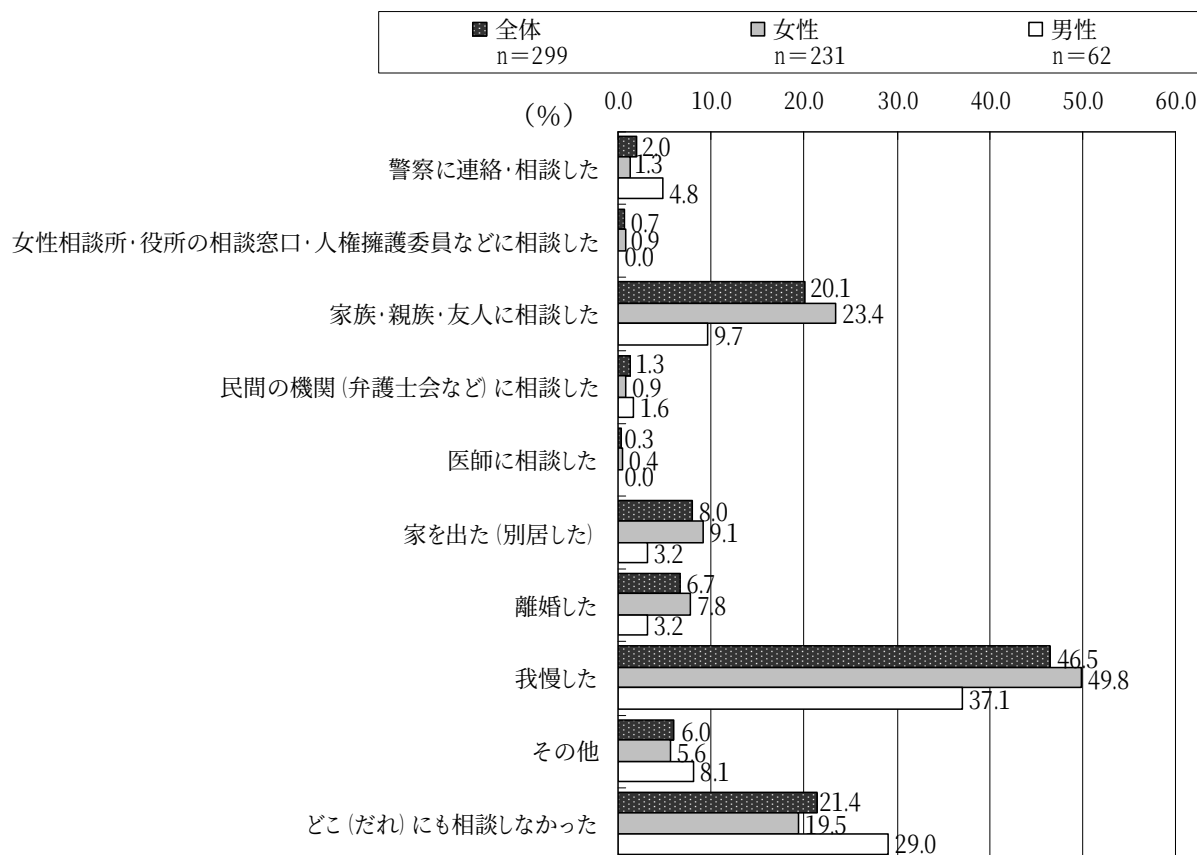


全体では被害、加害経験の「どちらともない」の割合が高くなっているが、『手でたたく、突き飛ばす』（被害 10.5%、加害 5.9%）、『大声でどなって威嚇する』（被害 12.1%、加害 11.1%）などでは被害経験で1割以上の回答があった。また、いずれも男性で加害、女性では被害経験の割合が高くなっている。

(3) DVを受けた際の対応

※問19で1つでも「されたことがある」とお答えの方にお聞きします。該当しない方は問20へお進みください。

問19-1 あなたはそのような行為を受けた時、どうしましたか。次の中で、当てはまる番号すべてに○を付けてください。(○はいくつでも)



1つでも被害経験のあった人(299人)に相談の状況を質問した結果では、「我慢した」(46.5%)が最も多く、次いで「どこ(だれ)にも相談しなかった」(21.4%)、「家族、親族、友人に相談した」(20.1%)が続いている。

【性別】

性別にみると、いずれも「我慢した」との回答が最も多いが、男性に比べ女性の割合が高く、女性ではこれに次いで「家族、親族、友人に相談した」が続いているが、男性では「どこ(だれ)にも相談しなかった」が続いている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では30歳代で「家族、親族、友人に相談した」（46.4%）との回答が最も多く、このほかでは「我慢した」との回答が最も多くなっている。男性では、20歳代と50歳代で「どこ（だれ）にも相談しなかった」との回答が多く、このほかでは「我慢した」との回答が多くなっている。

(%)

		合計	問19-1 DVを受けた際の対応						
			警察に連絡・相談した	女性相談所・役所の相談窓口・人権擁護委員などに相談した	家族・親族・友人に相談した	民間の機関（弁護士会などに相談した	医師に相談した	家を出た（別居した）	離婚した
性・年代別	全体	299	2.0	0.7	20.1	1.3	0.3	8.0	6.7
	女性	231	1.3	0.9	23.4	0.9	0.4	9.1	7.8
	女性-20歳代	12	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性-30歳代	28	0.0	3.6	46.4	3.6	0.0	17.9	10.7
	女性-40歳代	44	0.0	0.0	25.0	2.3	0.0	11.4	11.4
	女性-50歳代	56	3.6	1.8	17.9	0.0	0.0	10.7	7.1
	女性-60歳代	67	1.5	0.0	17.9	0.0	1.5	7.5	7.5
	女性-70歳代以上	24	0.0	0.0	20.8	0.0	0.0	0.0	4.2
	男性	62	4.8	0.0	9.7	1.6	0.0	3.2	3.2
	男性-20歳代	7	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性-30歳代	11	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性-40歳代	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1
	男性-50歳代	13	7.7	0.0	15.4	7.7	0.0	0.0	7.7
	男性-60歳代	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
男性-70歳代以上	7	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	

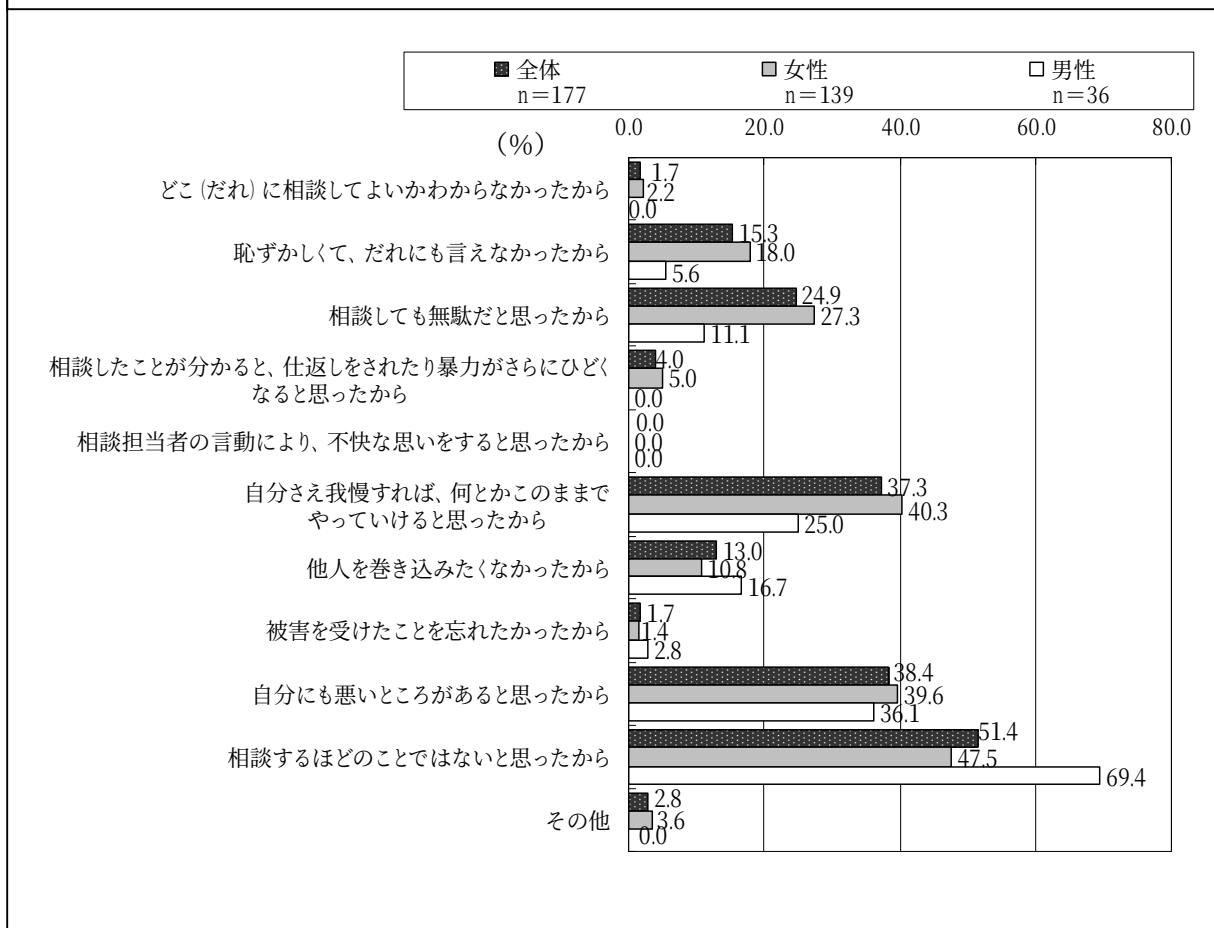
		合計	我慢した	その他	どこ（だれ）にも相談しなかった	不明
性・年代別	全体	299	46.5	6.0	21.4	13.7
	女性	231	49.8	5.6	19.5	12.1
	女性-20歳代	12	41.7	8.3	33.3	8.3
	女性-30歳代	28	39.3	0.0	10.7	7.1
	女性-40歳代	44	47.7	9.1	15.9	4.5
	女性-50歳代	56	60.7	7.1	16.1	5.4
	女性-60歳代	67	47.8	6.0	23.9	19.4
	女性-70歳代以上	24	50.0	0.0	25.0	29.2
	男性	62	37.1	8.1	29.0	16.1
	男性-20歳代	7	28.6	0.0	42.9	14.3
	男性-30歳代	11	45.5	0.0	36.4	0.0
	男性-40歳代	14	35.7	14.3	21.4	14.3
	男性-50歳代	13	38.5	7.7	46.2	7.7
	男性-60歳代	10	40.0	20.0	20.0	30.0
	男性-70歳代以上	7	28.6	0.0	0.0	42.9

(4) 我慢した、相談しなかった理由

※問 19-1 で「8. 我慢した」や「10. どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。該当しない方は問 20 へお進みください。

問 19-2 それはなぜですか。次の中から当てはまる番号すべてに○を付けてください。

(○はいくつでも)



どこ（だれ）にも相談しなかった人（177人）にその理由を質問した結果、「相談するほどのことではないと思ったから」（51.4%）との回答が最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」（38.4%）、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（37.3%）、「相談しても無駄だと思ったから」（24.9%）などが高い割合を占めている。

【性別】

性別にみると、「相談するほどのことではないと思った」（女性 47.5%、男性 69.4%）では男性の割合が高くなっており、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」（女性 40.3%、男性 25.0%）、「相談しても無駄だと思った」（女性 27.3%、男性 11.1%）、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」（女性 18.0%、男性 5.6%）などでは、女性の割合が高くなっている。

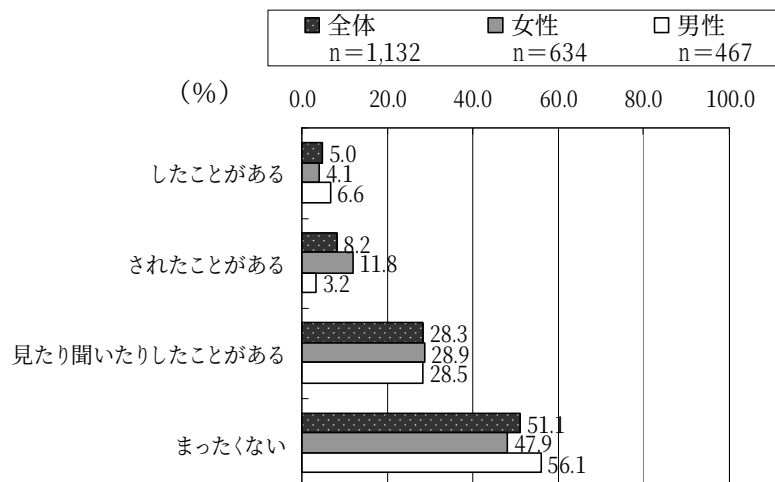
8. 男女間でのセクハラについて

(1) セクハラ被害・加害経験

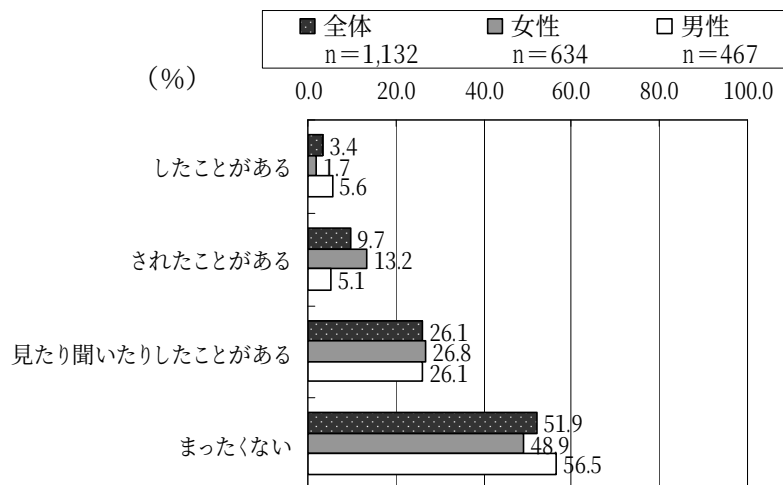
問 20 次のような行為はセクハラ（性的嫌がらせ）ですが、あなたは職場の上司や同僚・学校・地域などで、したりされたりしたことがありますか。

次のA～Jについて、当てはまる番号（1～4）すべてに○を付けてください。

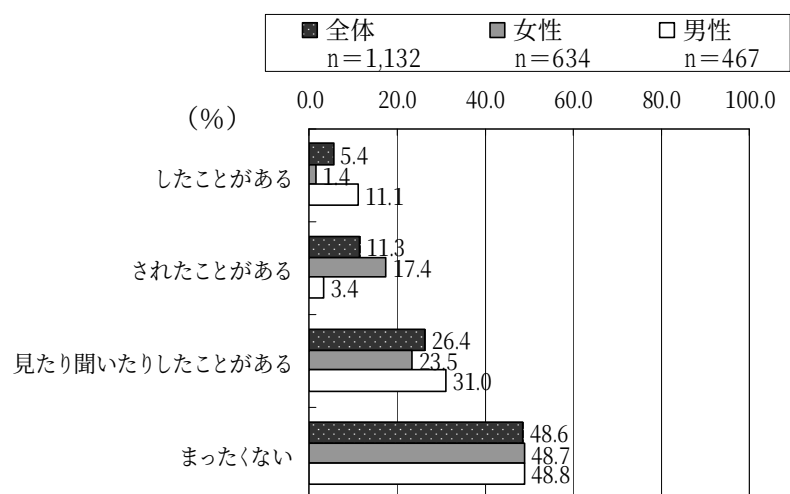
○男のくせに、女のくせになど差別的な言葉を使う



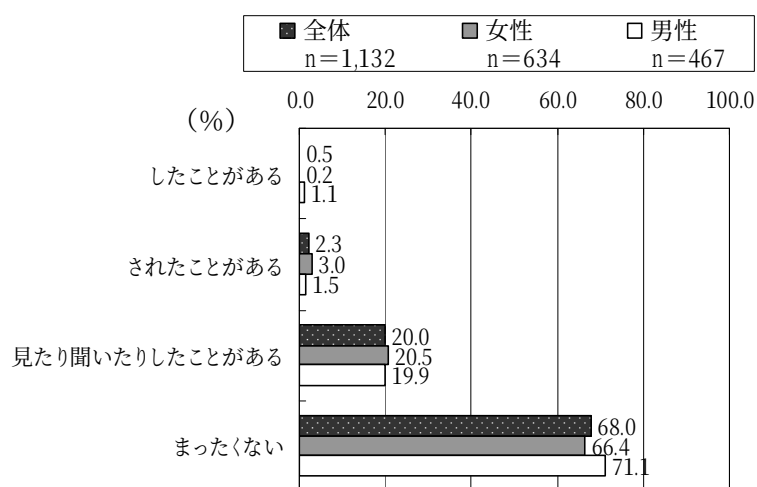
○結婚はまだ、子どもはまだ、としつこく言う



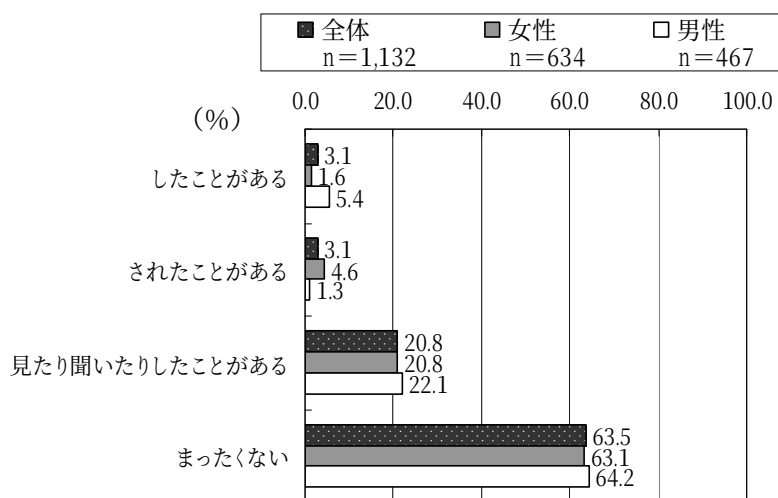
○性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う



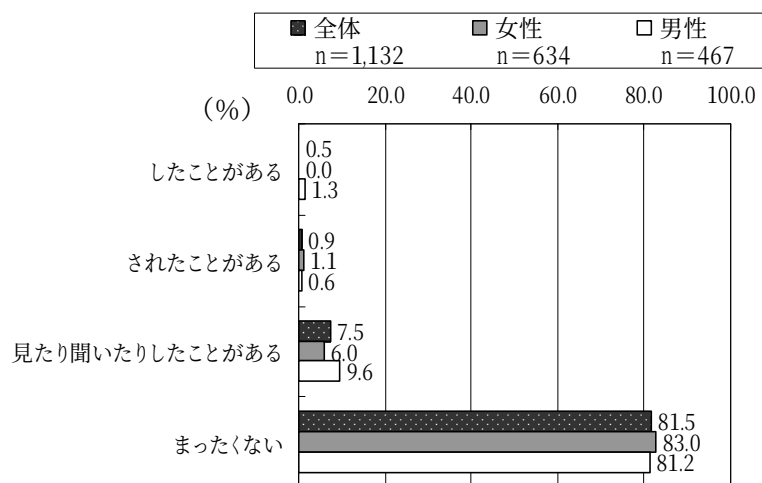
○性的な噂（うわさ）をながす



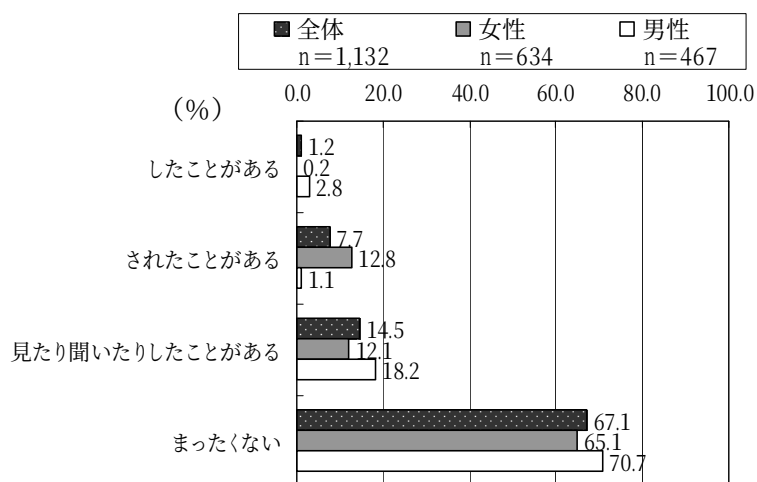
○異性の同僚をじろじろ眺めたり、容姿を話題にしたりする



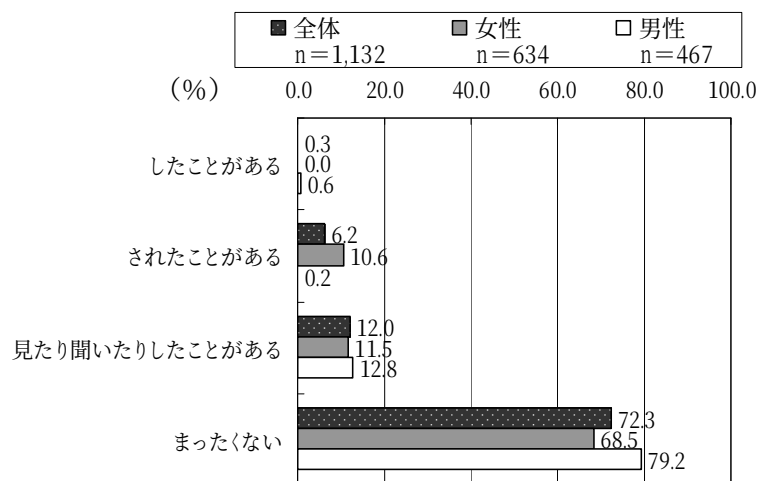
○わいせつな本を飾ったり見せびらかしたりする



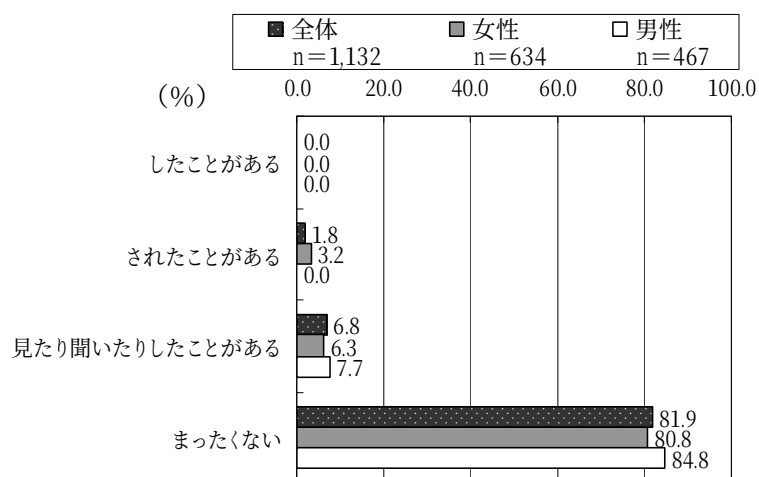
○酌やデュエット、ダンスを強要する



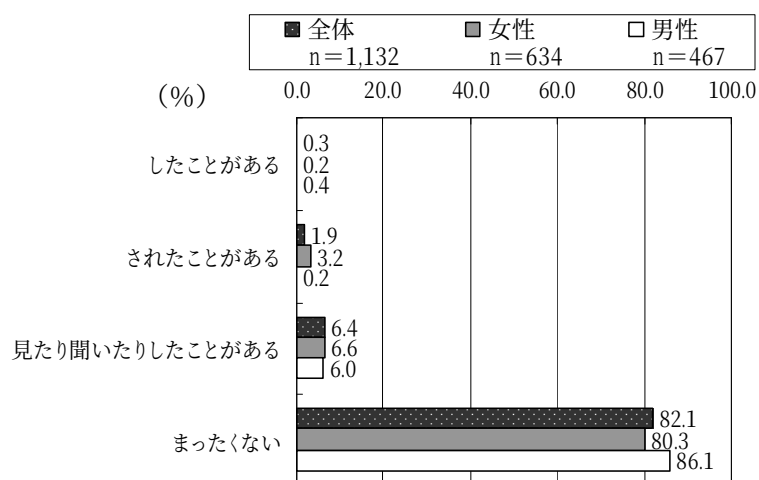
○触る、抱きつく、しっこくつきまとう



○地位や権限を利用して、性的関係を迫る



○携帯電話やパソコンのメールでしつこく誘う

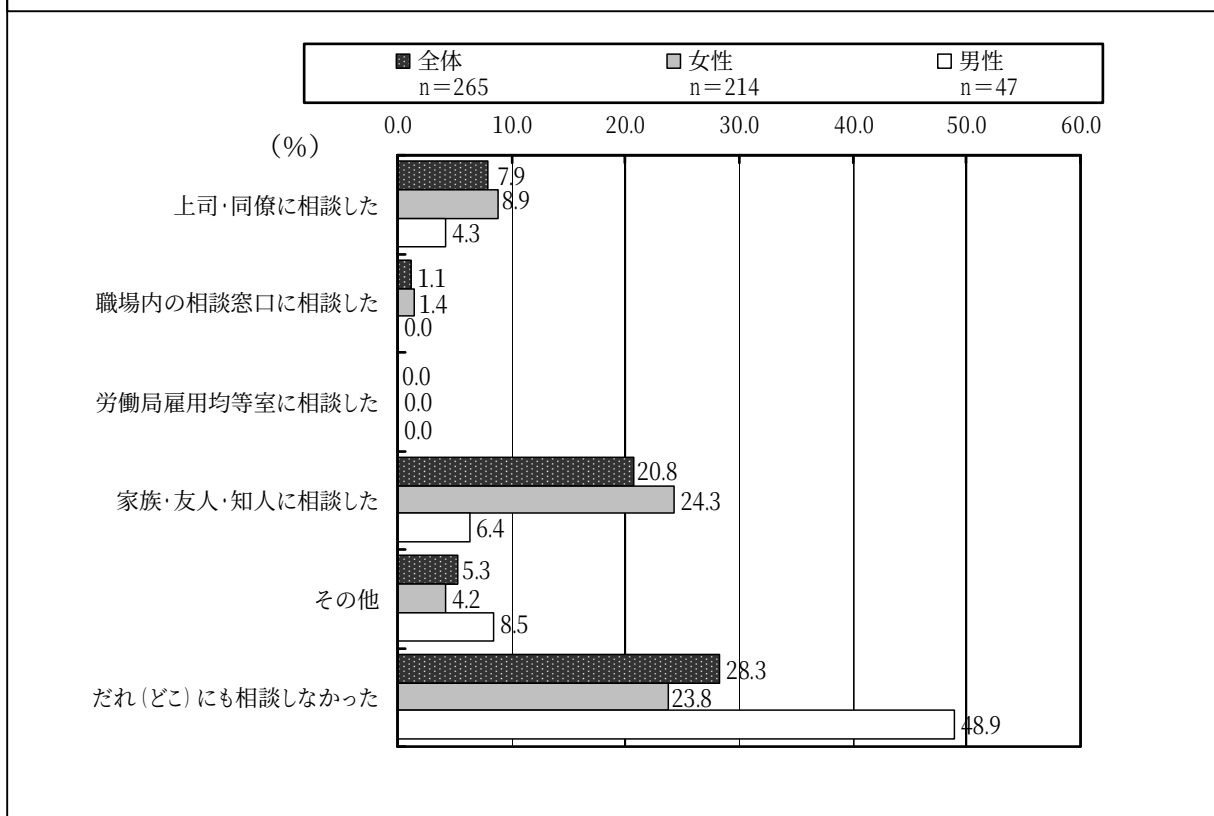


全体では「まったくない」との回答が最も多くなっているが、「男のくせに、女のくせになど差別的な言葉を使う」「結婚はまだ、子どもはまだ、としつこく言う」「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を使う」「性的な噂（うわさ）を流す」「異性の同僚をじろじろ眺めたり、容姿を話題にしたる」などでは、2割以上「見たり聞いたりしたことがある」と回答されており、「男のくせに、女のくせになど差別的な言葉を使う」「結婚はまだ、子どもはまだ、としつこく言う」「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を使う」「酌やデュエット、ダンスを強要する」「触る、抱きつく、しつこくつきまとう」では、女性の被害経験でも1割超の回答があった。

(2) セクハラを受けた際の対応

※問 20 で 1 つでも「されたことがある」と答えた方にお尋ねします。該当しない方は問 21 へ進んでください。

問 20-1 そのことについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中から当てはまる番号すべてに○を付けてください。(○はいくつでも)



1 つでも被害経験のあった人 (265 人) に相談の状況を質問した結果では、「だれ(どこ)にも相談しなかった」(28.3%) との回答が最も多く、次いで「家族、友人、知人に相談した」(20.8%)、「上司、同僚に相談した」(7.9%) が続いている。

【性別】

性別にみると、「だれ(どこ)にも相談しなかった」とする対応は男性の割合が高く(女性 23.8%、男性 48.9%)、「家族、友人、知人に相談した」(女性 24.3%、男性 6.4%) とする身近な人への相談については、女性の割合が高くなっている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の20歳代から50歳代にかけては「家族、友人、知人に相談した」との回答が多く、これ以上の年代では「だれ（どこ）にも相談しなかった」との回答が最も多くなっており、比較的若い年代で人に相談した割合が高くなっている。一方男性では、いずれの年代でも「だれ（どこ）にも相談しなかった」が最も多くなっている。

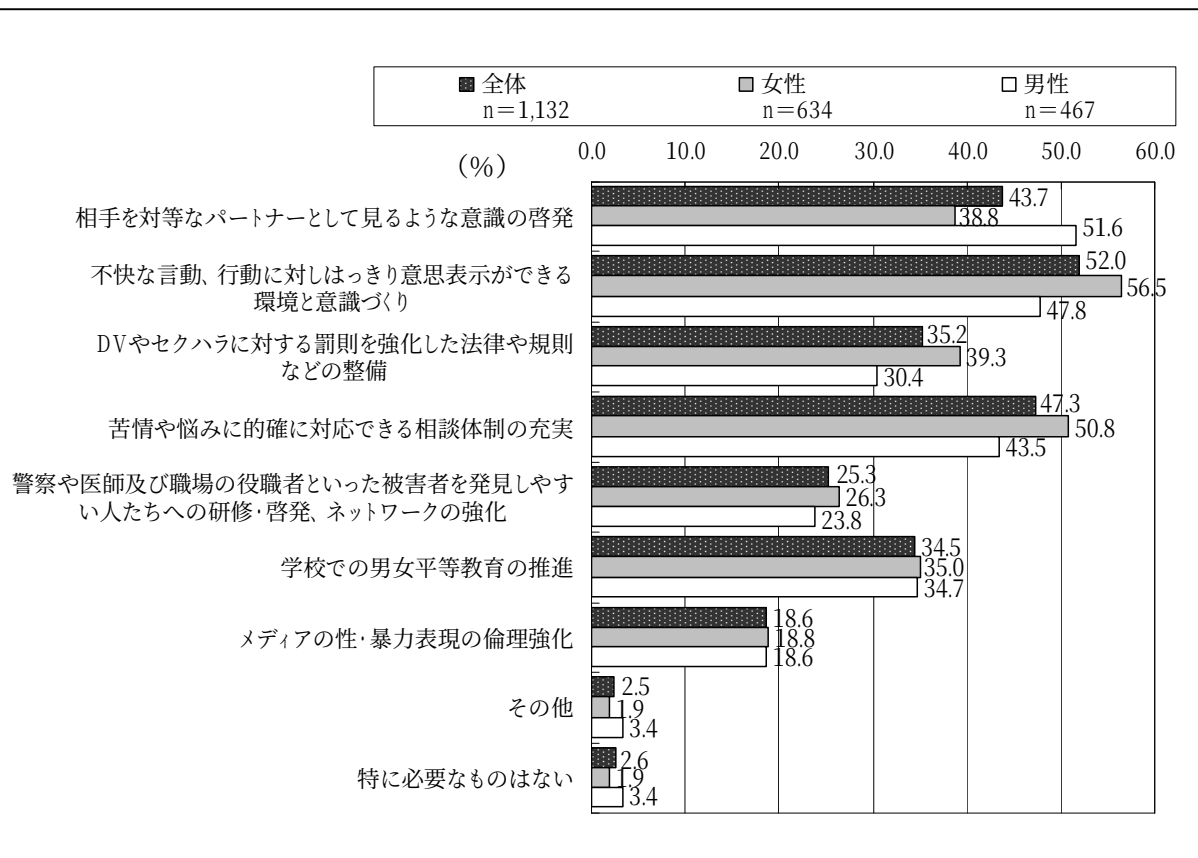
(%)

		合計	問20-1 相談の有無						
			上司・同僚に相談した	職場内の相談窓口 に相談した	労働局雇用均等室 に相談した	家族・友人・知人に相談した	その他	だれ（どこ）にも相談しなかった	不明
性・年代別	全体	265	7.9	1.1	0.0	20.8	5.3	28.3	42.3
	女性	214	8.9	1.4	0.0	24.3	4.2	23.8	43.5
	女性-20歳代	29	17.2	0.0	0.0	34.5	0.0	20.7	37.9
	女性-30歳代	48	8.3	6.3	0.0	29.2	4.2	20.8	41.7
	女性-40歳代	41	17.1	0.0	0.0	26.8	9.8	22.0	34.1
	女性-50歳代	49	2.0	0.0	0.0	26.5	0.0	16.3	57.1
	女性-60歳代	33	6.1	0.0	0.0	9.1	9.1	39.4	36.4
	女性-70歳代以上	14	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	35.7	57.1
	男性	47	4.3	0.0	0.0	6.4	8.5	48.9	34.0
	男性-20歳代	6	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	66.7	0.0
	男性-30歳代	14	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	50.0	42.9
	男性-40歳代	9	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	33.3	44.4
	男性-50歳代	8	25.0	0.0	0.0	12.5	0.0	37.5	37.5
	男性-60歳代	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	男性-70歳代以上	6	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	50.0

9. 人権の尊重について

(1) 人権侵害をあらゆる分野からなくすために必要なこと

問 21 DV やセクハラなどの人権侵害をあらゆる分野からなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



ドメスティックバイオレンス（DV）やセクシャル・ハラスメントをなくすための方策をたずねたところ、「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」（52.0%）との回答が最も多く、次いで「苦情や悩みに的確に対応できる組織体制の充実」（47.3%）、「相手を対等なパートナーとしてみるような意識の啓発」（43.7%）、「DVやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」（35.2%）、「学校での男女平等教育の推進」（34.5%）が続いている。

【性別】

性別にみると、「相手を対等なパートナーとしてみるような意識の啓発」では男性の割合が高く、「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」、「DVやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」、「苦情や悩みに的確に対応できる組織体制の充実」などでは、女性の割合が高くなっている。

【性・年代別】

性・年代別では、女性では20歳代から40歳代の比較的若い年代で「苦情や悩みに的確に対応できる組織体制の充実」との回答が多く、50歳代以上では「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」との回答が多くなっている。男性では、20歳代、50歳代で「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」、40歳代及び60歳代以上では「相手を対等なパートナーとしてみるような意識の啓発」との回答が多くなっている。

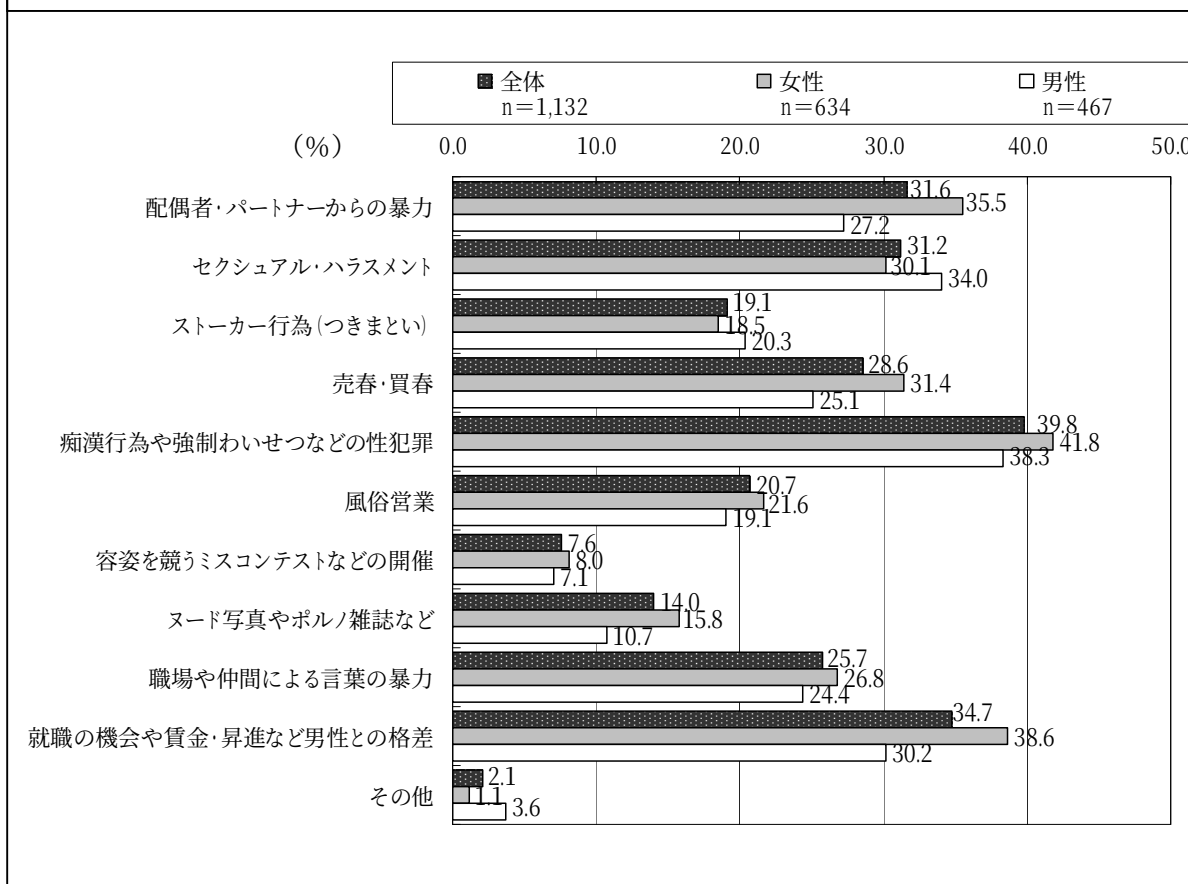
(%)

	合計	問21 DVやセクハラをなくするために必要なこと					
		相手に対等なパートナーとして見るような意識の啓発	不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり	DVやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備	苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実	警察や医師及び職場の役職者といった被害者を発見しやすい人々たちへの研修・啓発、ネットワークの強化	学校での男女平等教育の推進
性・年代別	全体	1,132	43.7	52.0	35.2	47.3	25.3
	女性	634	38.8	56.5	39.3	50.8	26.3
	女性-20歳代	63	38.1	55.6	49.2	63.5	42.9
	女性-30歳代	90	37.8	51.1	43.3	53.3	25.6
	女性-40歳代	95	33.7	54.7	47.4	56.8	28.4
	女性-50歳代	137	49.6	62.8	39.4	53.3	31.4
	女性-60歳代	148	43.9	62.2	33.1	46.6	19.6
	女性-70歳代以上	98	22.4	46.9	30.6	37.8	18.4
	男性	467	51.6	47.8	30.4	43.5	23.8
	男性-20歳代	40	47.5	60.0	42.5	50.0	22.5
	男性-30歳代	63	41.3	41.3	33.3	36.5	15.9
	男性-40歳代	69	58.0	44.9	29.0	50.7	27.5
	男性-50歳代	95	48.4	51.6	29.5	43.2	16.8
	男性-60歳代	116	58.6	50.9	32.8	48.3	28.4
	男性-70歳代以上	83	50.6	41.0	20.5	32.5	28.9

		合計	メディア の性・暴力表現 の倫理強化	その他	特に必要 なもの はない	不明
全体		1,132	18.6	2.5	2.6	6.6
性・年代別	女性	634	18.8	1.9	1.9	5.5
	女性-20歳代	63	20.6	4.8	0.0	3.2
	女性-30歳代	90	16.7	2.2	1.1	1.1
	女性-40歳代	95	15.8	3.2	1.1	2.1
	女性-50歳代	137	25.5	1.5	1.5	0.0
	女性-60歳代	148	19.6	1.4	2.0	5.4
	女性-70歳代以上	98	11.2	0.0	5.1	21.4
	男性	467	18.6	3.4	3.4	6.2
	男性-20歳代	40	12.5	2.5	2.5	0.0
	男性-30歳代	63	12.7	4.8	3.2	4.8
	男性-40歳代	69	23.2	8.7	4.3	1.4
	男性-50歳代	95	17.9	4.2	4.2	5.3
	男性-60歳代	116	26.7	0.9	2.6	3.4
	男性-70歳代以上	83	12.0	1.2	3.6	19.3

(2) 人権が尊重されていないと感じること

問 22 あなたが、男性および女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。(〇はいくつでも)



男性及び女性の人権が尊重されていないと感じることでは、「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」(39.8%)との回答が最も多く、次いで「就職の機会や賃金、昇進など男性との格差」(34.7%)、「配偶者、パートナーからの暴力」(31.6%)、「セクシュアル・ハラスメント」(31.2%)、「売春、買春」(28.6%)、「職場や仲間による言葉の暴力」(25.7%)が続いている。

【性別】

性別にみると、「配偶者、パートナーからの暴力」「売春、買春」「就職の機会や賃金、昇進など男性との格差」などでは女性の割合が高く、「セクシュアル・ハラスメント」では、男性の割合が高くなっている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では20歳代で「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」と「就職の機会や賃金、昇進など男性との格差」が同率。30歳代、40歳代では「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」、50歳代では「就職の機会や賃金、昇進など男性との格差」、60歳代以上では「配偶者、パートナーからの暴力」との回答が最も多くなっている。男性では、20歳代では「セクシュアル・ハラスメント」、30歳代では「セクシュアル・ハラスメント」と「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」が同率。これ以上の年代では「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」との回答が最も多くなっている（70歳代以上では「風俗営業」も同率）。

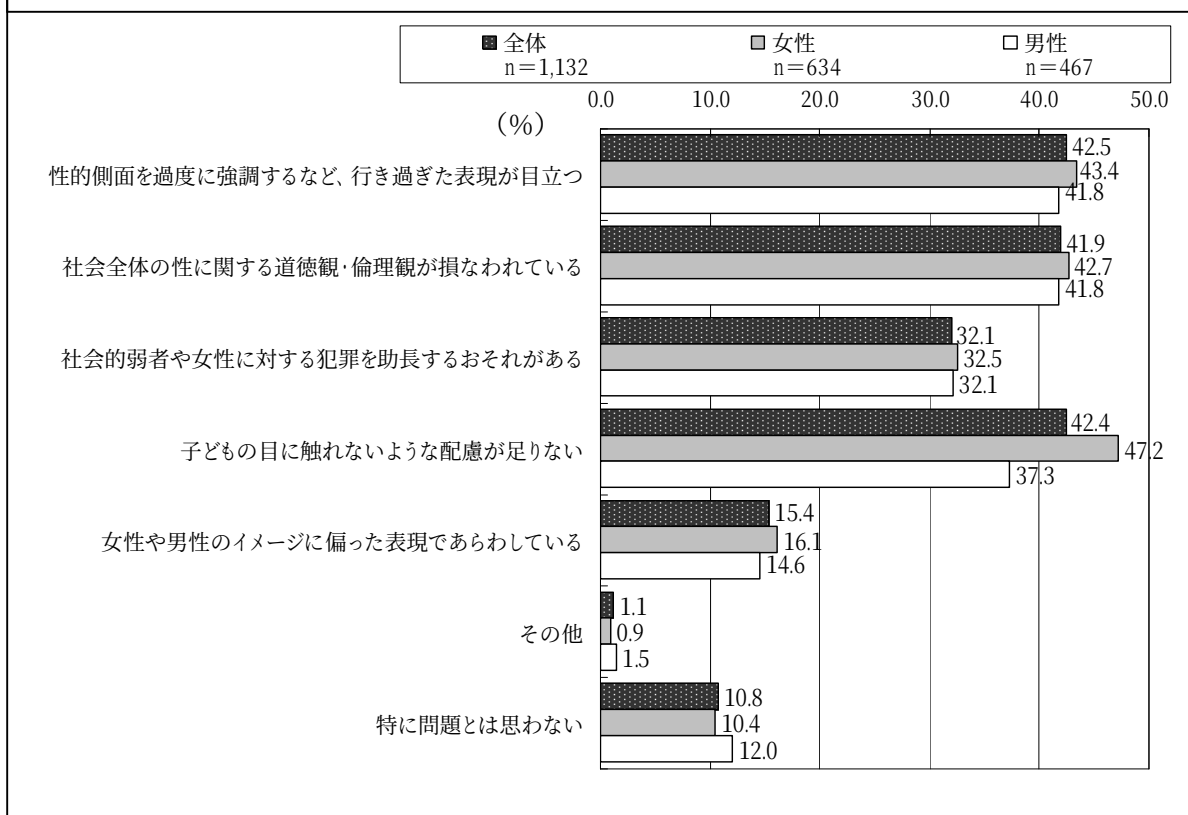
(%)

		合計	問22 人権が尊重されていないと感じること							
			配偶者・パート ナーからの暴力	セクシュアル・ハラスメント	ストーカー行為 (つきまとい)	売春・買春	痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪	風俗営業	容姿を競うミスコンテストなどの開催	ヌード写真やポルノ雑誌など
性・年代別	全体	1,132	31.6	31.2	19.1	28.6	39.8	20.7	7.6	14.0
	女性	634	35.5	30.1	18.5	31.4	41.8	21.6	8.0	15.8
	女性-20歳代	63	38.1	49.2	23.8	31.7	52.4	19.0	7.9	14.3
	女性-30歳代	90	27.8	35.6	21.1	33.3	58.9	13.3	8.9	15.6
	女性-40歳代	95	38.9	32.6	16.8	32.6	50.5	18.9	5.3	3.2
	女性-50歳代	137	39.4	37.2	19.0	39.4	45.3	27.7	13.1	23.4
	女性-60歳代	148	36.5	20.9	15.5	29.1	33.1	23.0	8.1	15.5
	女性-70歳代以上	98	31.6	15.3	18.4	20.4	19.4	23.5	3.1	19.4
	男性	467	27.2	34.0	20.3	25.1	38.3	19.1	7.1	10.7
	男性-20歳代	40	25.0	52.5	20.0	32.5	50.0	17.5	5.0	10.0
	男性-30歳代	63	22.2	30.2	14.3	19.0	30.2	9.5	7.9	6.3
	男性-40歳代	69	24.6	31.9	20.3	27.5	43.5	13.0	10.1	7.2
	男性-50歳代	95	30.5	36.8	22.1	24.2	38.9	16.8	3.2	6.3
	男性-60歳代	116	31.9	36.2	25.9	25.0	42.2	23.3	8.6	11.2
	男性-70歳代以上	83	24.1	24.1	15.7	24.1	28.9	28.9	7.2	21.7

		合計	職場や仲間による 言葉の暴力	就職の機会や賃金・昇進など男性との格差	その他	不明
性・年代別	全体	1,132	25.7	34.7	2.1	14.3
	女性	634	26.8	38.6	1.1	13.2
	女性-20歳代	63	25.4	52.4	0.0	4.8
	女性-30歳代	90	23.3	42.2	4.4	10.0
	女性-40歳代	95	24.2	47.4	0.0	6.3
	女性-50歳代	137	30.7	46.0	0.7	10.2
	女性-60歳代	148	31.8	29.7	0.7	14.9
	女性-70歳代以上	98	21.4	22.4	1.0	29.6
	男性	467	24.4	30.2	3.6	14.1
	男性-20歳代	40	25.0	27.5	5.0	5.0
	男性-30歳代	63	15.9	25.4	7.9	15.9
	男性-40歳代	69	27.5	29.0	7.2	8.7
	男性-50歳代	95	25.3	37.9	1.1	8.4
	男性-60歳代	116	24.1	30.2	2.6	14.7
	男性-70歳代以上	83	27.7	27.7	1.2	27.7

10. メディアにおける性・暴力表現に関する意識について

問 23 メディア（テレビや映画、出版物）における性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。（○はいくつでも）



メディアにおける性・暴力表現に対する意識をみると、「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」（42.5％）が最も多く、次いで「子どもの目に触れないような配慮が足りない」（42.4％）、「社会全体の性に関する道德観、倫理観が損なわれている」（41.9％）、「社会的弱者や女性に対する犯罪を助長する恐れがある」（32.1％）が続いている。

【性別】

性別にみると、「子どもの目に触れないような配慮が足りない」については男性に比べ女性の割合が高くなっている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では50歳代で「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」、60歳代で「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」、これ以外の年代では、いずれも「子どもの目に触れないような配慮が足りない」との回答が最も多くなっている。一方男性では、20歳代で「特に問題とは思わない」との回答が最も多く、30歳代では「子どもの目に触れないような配慮が足りない」、40歳代では「社会的弱者や女性に対する犯罪を助長する恐れがある」、50歳代、70歳代以上では「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」、60歳代では「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」が最も多く、年代でばらつきがみられる。

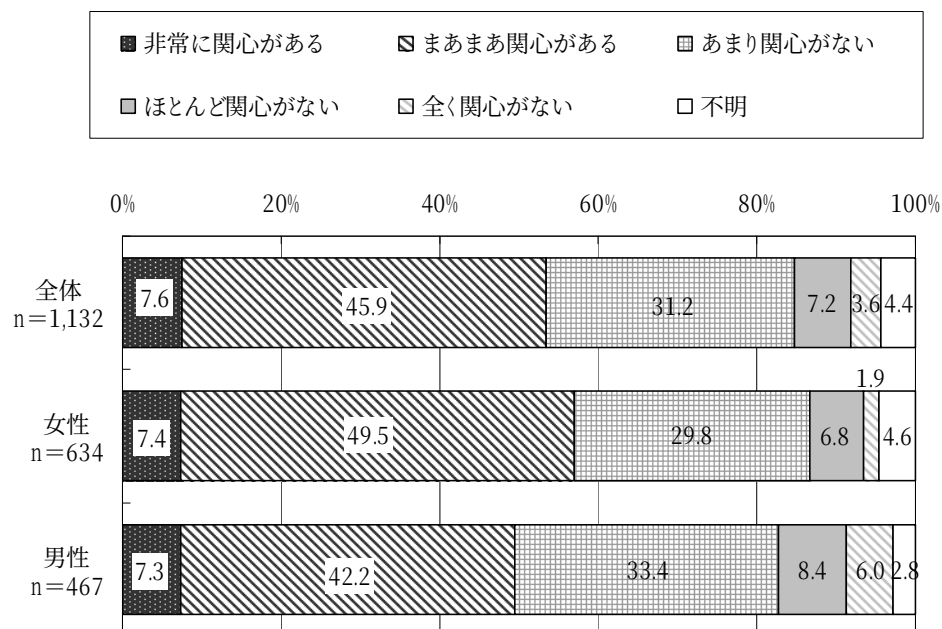
(%)

	合計	問23 メディアにおける性・暴力表現について							
		性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	社会的弱者や女性に対する犯罪を助長する恐れがある	子どもの目に触れないような配慮が足りない	女性や男性のイメージに偏った表現であらわしている	その他	特に問題とは思わない	不明
全体	1,132	42.5	41.9	32.1	42.4	15.4	1.1	10.8	7.6
性・年代別 女性	634	43.4	42.7	32.5	47.2	16.1	0.9	10.4	6.6
女性-20歳代	63	31.7	25.4	22.2	44.4	28.6	1.6	19.0	1.6
女性-30歳代	90	32.2	30.0	28.9	50.0	13.3	0.0	18.9	2.2
女性-40歳代	95	41.1	37.9	32.6	49.5	22.1	2.1	10.5	2.1
女性-50歳代	137	52.6	51.8	40.1	44.5	19.7	0.0	5.8	4.4
女性-60歳代	148	50.0	56.1	37.2	48.0	11.5	0.7	5.4	6.8
女性-70歳代以上	98	41.8	37.8	25.5	48.0	7.1	2.0	10.2	20.4
男性	467	41.8	41.8	32.1	37.3	14.6	1.5	12.0	6.6
男性-20歳代	40	22.5	22.5	25.0	32.5	7.5	5.0	37.5	0.0
男性-30歳代	63	28.6	20.6	20.6	36.5	14.3	3.2	14.3	4.8
男性-40歳代	69	39.1	39.1	42.0	31.9	20.3	0.0	14.5	1.4
男性-50歳代	95	43.2	50.5	35.8	36.8	14.7	2.1	7.4	4.2
男性-60歳代	116	54.3	50.9	37.1	40.5	17.2	0.9	8.6	7.8
男性-70歳代以上	83	43.4	47.0	25.3	41.0	9.6	0.0	6.0	16.9

11. 男女共同参画に関するご意見やご要望

(1) 男女共同参画をテーマにする話題への関心

問 24 あなたは、男女平等や男女共同参画をテーマにする話題にどの程度関心がありますか。
(○は1つだけ)



男女平等や男女共同参画をテーマにする話題への関心については、全体で「まあまあ関心がある」が45.9%で最も多く、次いで「あまり関心が無い」(31.2%)、「非常に関心がある」(7.6%)、「ほとんど関心が無い」(7.2%)、「まったく関心がない」(3.6%)となっており、『関心がある』(「非常に関心がある」+「まあまあ関心がある」)の割合は、全体の53.5%を占めている。

【性別】

性別でみると、女性の『関心がある』は56.9%、男性では49.5%と、女性の割合が高くなっている。

【性・年代別】

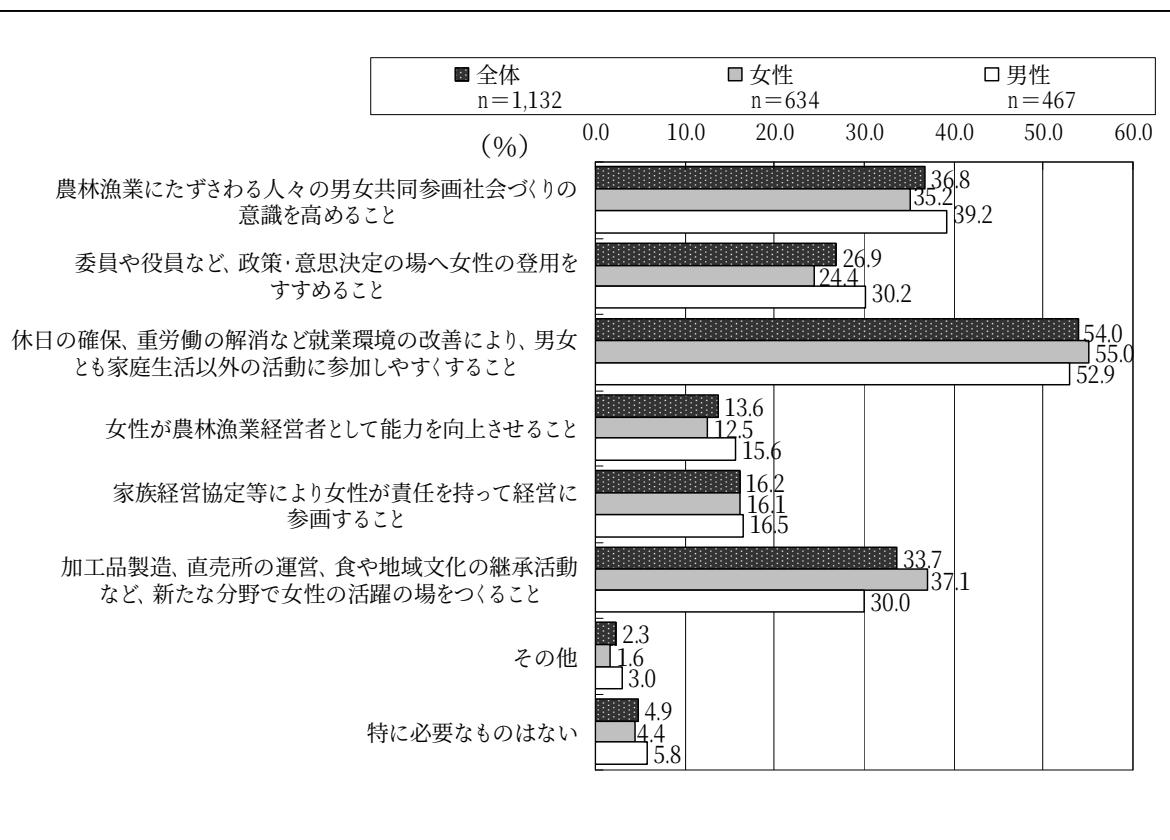
性・年代別にみると、女性ではいずれも「まあまあ関心がある」との回答が多く、『関心がある』の割合は若い年齢層で高い傾向にある。一方男性では、30歳代で「あまり関心がない」との回答が最も多くなっており、『関心がない』(「あまり関心がない」+「ほとんど関心がない」)の割合が58.7%と過半数を占めている。このほかの年代では、いずれも「まあまあ関心がある」との回答が多く、『関心がある』の割合は、70歳代以上で45.7%と半数を下回っているほかは、いずれも5割以上を占めている。

(%)

		合計	問24 男女共同をテーマにする話題への関心					
			非常に 関心がある	まあまあ 関心がある	あまり関 心がない	ほとんど 関心がない	全く関心 がない	不明
性・年代別	全体	1,132	7.6	45.9	31.2	7.2	3.6	4.4
	女性	634	7.4	49.5	29.8	6.8	1.9	4.6
	女性-20歳代	63	4.8	57.1	30.2	6.3	0.0	1.6
	女性-30歳代	90	1.1	57.8	30.0	7.8	3.3	0.0
	女性-40歳代	95	6.3	56.8	23.2	8.4	3.2	2.1
	女性-50歳代	137	8.0	50.4	32.1	5.8	0.7	2.9
	女性-60歳代	148	11.5	47.3	31.8	3.4	1.4	4.7
	女性-70歳代以上	98	9.2	32.7	29.6	10.2	3.1	15.3
	男性	467	7.3	42.2	33.4	8.4	6.0	2.8
	男性-20歳代	40	5.0	45.0	22.5	15.0	12.5	0.0
	男性-30歳代	63	3.2	25.4	46.0	12.7	12.7	0.0
	男性-40歳代	69	8.7	42.0	33.3	8.7	7.2	0.0
	男性-50歳代	95	6.3	46.3	33.7	11.6	1.1	1.1
	男性-60歳代	116	9.5	50.0	29.3	2.6	5.2	3.4
	男性-70歳代以上	83	8.4	37.3	34.9	6.0	3.6	9.6

(2) 農林漁業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なこと

問 25 農林漁業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なことは何だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んで○をつけてください。(○は3つまで)



農林漁業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なこととしては、「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」(54.0%)との回答が最も多く、次いで「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」(36.8%)、「委員や役員など、政策・意思決定の場へ女性の登用をすすめること」(26.9%)が続いている。

【性別】

性別にみると、「委員や役員など、政策・意思決定の場へ女性の登用をすすめること」では男性の割合が高く、一方「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくる」では女性の割合が高くなっている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、いずれも「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」との回答が最も多くなっている。これに次ぐ回答として、女性では30歳代、50歳代、70歳代以上で「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」、20歳代、40歳代、60歳代では「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくる」が続いている。一方男性では、20歳代で「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくる」が続いているほかは、いずれも「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」が続いている。

【居住地区別】

上位の回答順位に大きな差はみられないが、不知火町では「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」、豊野町では、「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」、「委員や役員など、政策・意思決定の場へ女性の登用をすすめること」の割合が、他に比べやや低くなっている。

【本人の職業別】

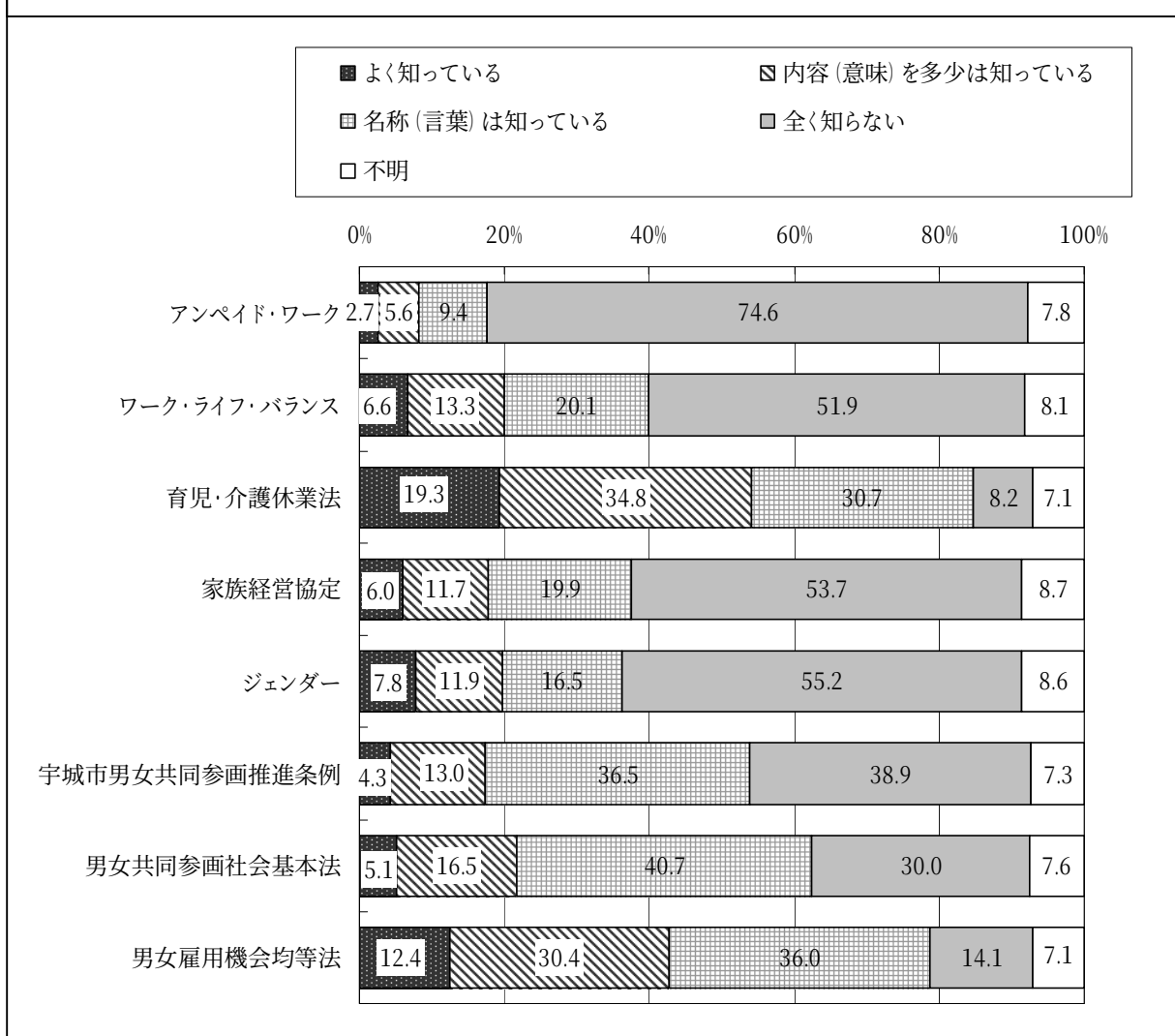
本人の職業別では、家族従事者で「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」、非正規雇用者で「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくる」の割合が高くなっている。

(%)

		合計	農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること	委員や役員など、政策・意思決定の場へ女性の登用をすすめること	休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること	女性が農林漁業経営者として能力を向上させること	家族経営協定等により女性が責任を持って経営に参画すること	加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくること	その他	特に必要はない	不明
性・年代別	全体	1,132	36.8	26.9	54.0	13.6	16.2	33.7	2.3	4.9	9.0
	女性	634	35.2	24.4	55.0	12.5	16.1	37.1	1.6	4.4	9.3
	女性-20歳代	63	28.6	27.0	65.1	19.0	7.9	38.1	1.6	3.2	1.6
	女性-30歳代	90	42.2	25.6	51.1	14.4	11.1	40.0	4.4	5.6	2.2
	女性-40歳代	95	30.5	24.2	64.2	12.6	15.8	38.9	2.1	2.1	4.2
	女性-50歳代	137	40.9	25.5	56.2	10.9	19.7	40.1	0.7	2.9	9.5
	女性-60歳代	148	33.8	26.4	56.8	12.8	18.2	37.2	1.4	4.1	10.8
	女性-70歳代以上	98	31.6	18.4	40.8	8.2	18.4	28.6	0.0	8.2	22.4
	男性	467	39.2	30.2	52.9	15.6	16.5	30.0	3.0	5.8	7.3
	男性-20歳代	40	30.0	27.5	52.5	10.0	12.5	35.0	5.0	2.5	2.5
	男性-30歳代	63	38.1	23.8	41.3	17.5	9.5	33.3	1.6	6.3	7.9
	男性-40歳代	69	36.2	29.0	53.6	17.4	14.5	20.3	5.8	8.7	1.4
	男性-50歳代	95	42.1	32.6	57.9	16.8	20.0	25.3	3.2	5.3	5.3
	男性-60歳代	116	43.1	32.8	59.5	18.1	15.5	39.7	2.6	3.4	6.9
	男性-70歳代以上	83	38.6	30.1	45.8	10.8	21.7	25.3	1.2	8.4	16.9
問1.3 居住地区	三角町	134	41.0	25.4	54.5	14.9	14.9	36.6	1.5	4.5	9.0
	不知火町	177	36.7	29.9	46.9	14.7	13.0	31.6	3.4	7.9	7.9
	松橋町	471	36.3	29.7	55.2	13.8	17.0	34.2	2.3	3.6	8.9
	小川町	228	40.4	24.6	57.0	13.2	17.1	33.8	1.3	5.3	7.5
	豊野町	99	28.3	18.2	55.6	9.1	19.2	34.3	3.0	4.0	10.1
問1.5.1 職業 (本人)	自営業主	100	31.0	28.0	50.0	18.0	20.0	25.0	1.0	8.0	11.0
	家族従事者	56	39.3	17.9	67.9	14.3	14.3	35.7	3.6	1.8	3.6
	正規雇用者	349	36.1	30.1	56.2	15.8	17.2	32.4	2.3	4.3	3.4
	非正規雇用者	161	42.2	23.0	52.2	8.7	10.6	42.9	2.5	3.7	8.1
	主婦・主夫	176	30.7	23.3	56.8	9.7	16.5	33.5	1.1	3.4	13.1
	学生	17	29.4	41.2	35.3	17.6	11.8	23.5	5.9	5.9	0.0
	無職	196	40.3	32.1	51.0	12.8	14.8	35.2	3.1	8.2	11.2
	その他	10	40.0	20.0	60.0	30.0	20.0	20.0	10.0	0.0	10.0

(3) 男女共同参画に関する用語の認知度

問 26 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを選んでください。
(○はそれぞれ1つずつ)



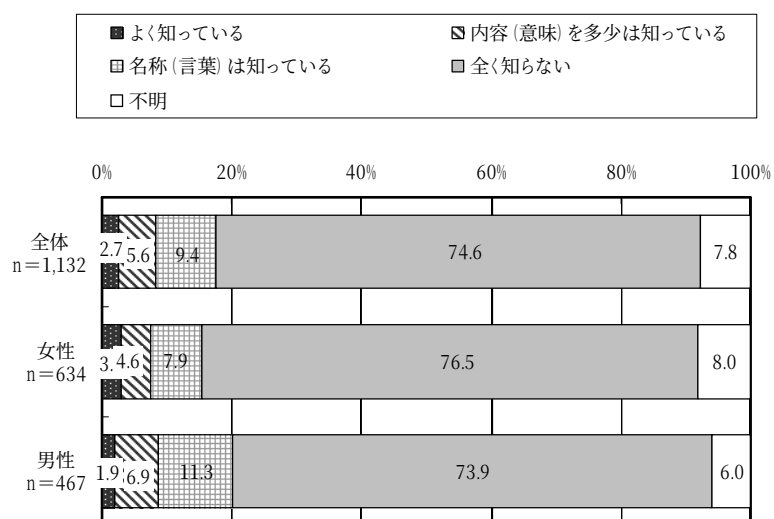
男女共同参画に関する用語について8項目の認知度をたずねた。

『認知度』(「よく知っている」+「内容(意味)を多少は知っている」+「名称(言葉)は知っている」)が高いものでは、「育児・介護休業法」が84.8%で最も高く、これに次ぐ「男女雇用機会均等法」(78.8%)、「男女共同参画社会基本法」(62.3%)、「宇城市男女共同参画推進条例」(53.8%)では、いずれも過半数の回答を得ている。一方、認知度が低いもの(「全く知らない」)では、「アンペイド・ワーク」(74.6%)、「ジェンダー」(55.2%)、「家族経営協定」(53.7%)、「ワーク・ライフ・バランス」(51.9%)などがあげられる。

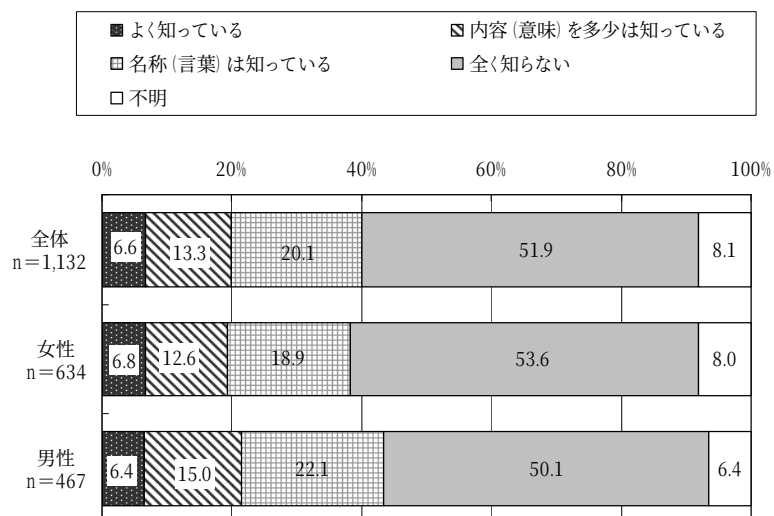
【性別】

性別にみると、全体に男性の方で認知度がやや高くなっているが、「育児・介護休業法」については、女性の認知度が高くなっている。

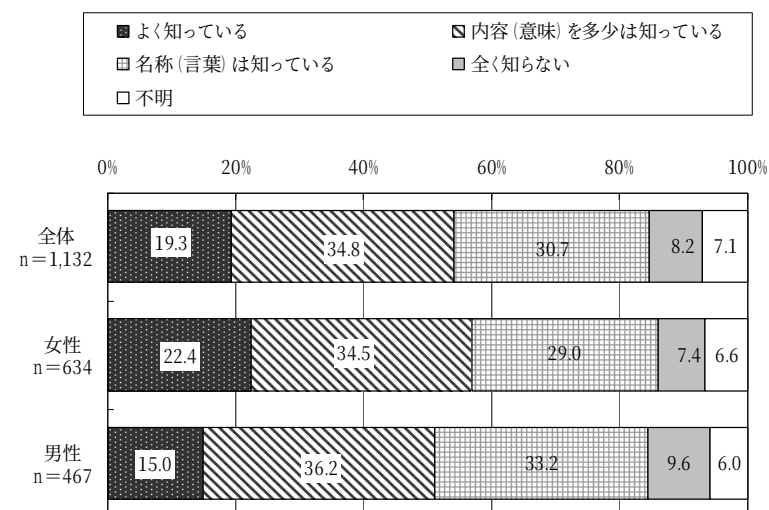
○アンペイド・ワーク



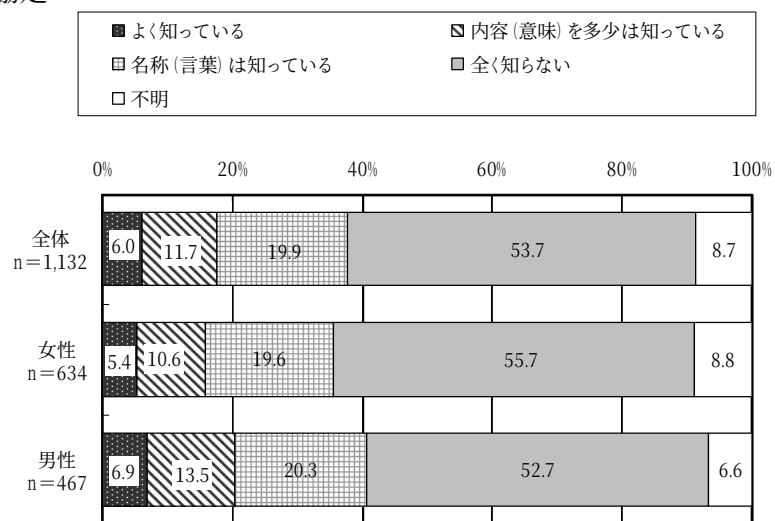
○ワーク・ライフ・バランス



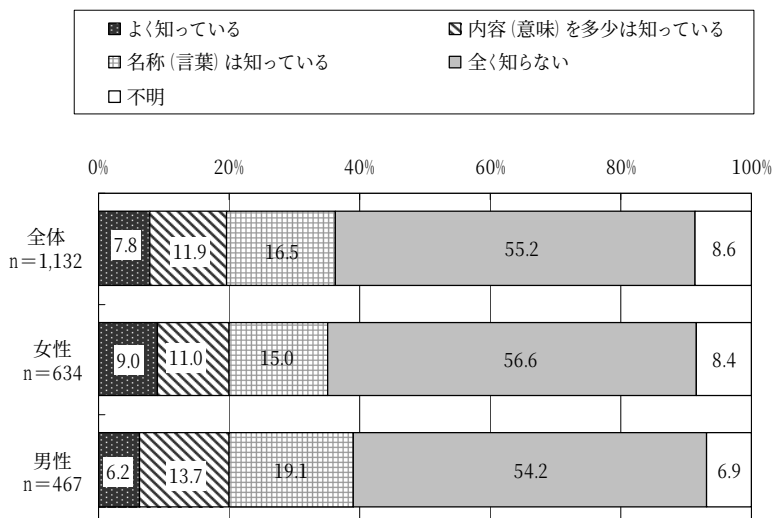
○育児・介護休業法



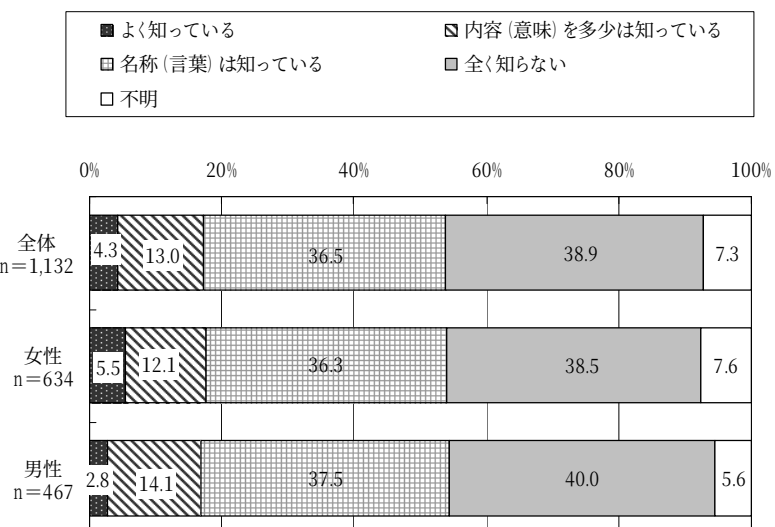
○家族経営協定



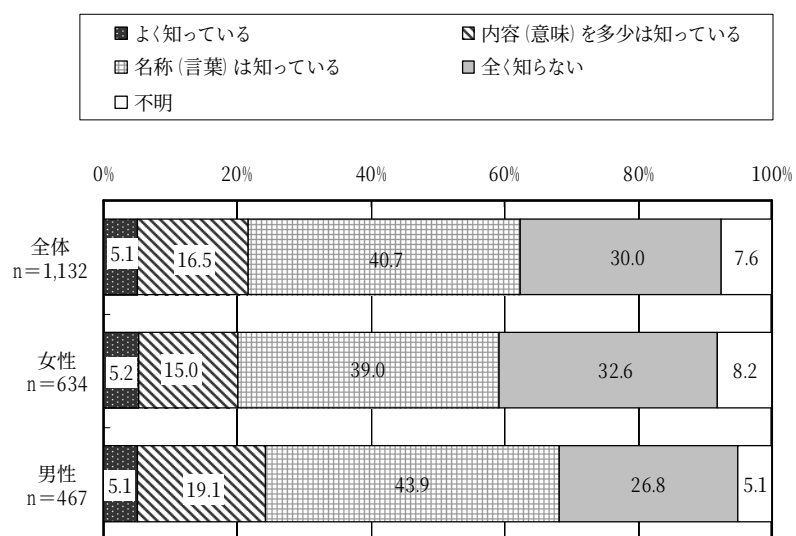
○ジェンダー



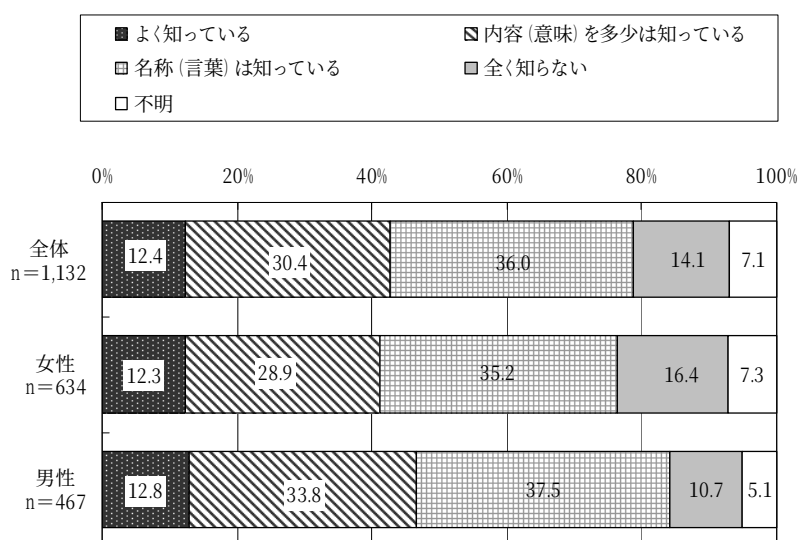
○宇城市男女共同参画推進条例



○男女共同参画社会基本法

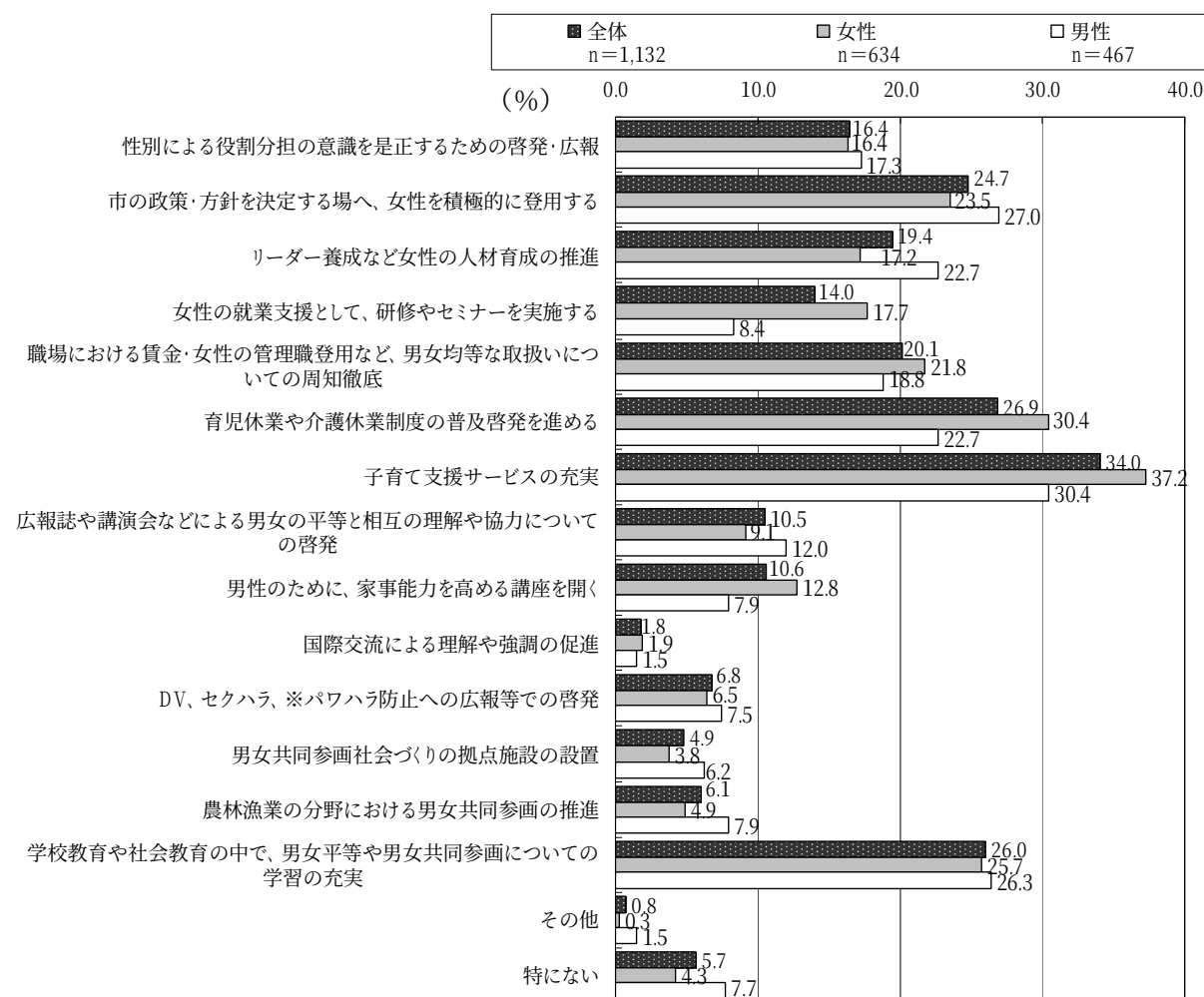


○男女雇用機会均等法



(4) 宇城市の施策に望むもの

問 27 「男女共同参画社会」を実現していくために、宇城市の施策に望むものは何ですか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は3つまで)



男女共同参画社会を実現していくために、宇城市の施策に望むものとしては、「子育て支援サービスの充実」(34.0%)、次いで「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」(26.9%)、「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習の充実」(26.0%)、「市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する」(24.7%)、「職場における賃金・女性の管理職登用など、男女均等な扱いについての周知徹底」(20.1%)、「リーダー養成など女性の人員育成の推進」(19.4%)が続いている。

【性別】

性別にみると、女性では「子育て支援サービスの充実」、「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」、「女性の就業支援として、研修やセミナーを実施する」の割合が高く、一方男性では「リーダー養成など女性の人員育成の推進」での割合が高くなっている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性では20歳代から50歳代にかけて「子育て支援サービスの充実」との回答が最も多く、特に20歳代から30歳代では高い割合を占めている。このほか60歳代では「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」、70歳代以上では「市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する」との回答が多くなっている。

男性でも20歳代から40歳代にかけては「子育て支援サービスの充実」との回答が最も多く、50歳代、60歳代では、これと「市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する」が同率。70歳代以上では「リーダー養成など女性の人員育成の推進」で最も多く回答されている。

【居住地区別】

不知火町、豊野町では、他に比べ「子育て支援サービスの充実」の割合が高くなっている。

(%)

		合計	問27 宇城市の施策に望むもの								
			性別による役割分担の意識を是正するための啓発・広報	市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する	リーダー養成など女性の人材育成の推進	女性の就業支援として、研修やセミナーを実施する	職場における賃金・女性の管理職の登用など、男女均等な取扱いについての周知徹底	育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める	子育て支援サービスの充実	広報誌や講演会などによる男女の平等と相互の理解や協力についての啓発	男性のために、家事能力を高める講座を開く
性・年代別	全体	1,132	16.4	24.7	19.4	14.0	20.1	26.9	34.0	10.5	10.6
	女性	634	16.4	23.5	17.2	17.7	21.8	30.4	37.2	9.1	12.8
	女性-20歳代	63	12.7	15.9	15.9	22.2	33.3	25.4	58.7	4.8	15.9
	女性-30歳代	90	15.6	13.3	10.0	22.2	30.0	41.1	57.8	4.4	15.6
	女性-40歳代	95	16.8	25.3	13.7	24.2	24.2	34.7	37.9	10.5	12.6
	女性-50歳代	137	19.7	26.3	21.2	13.1	22.6	30.7	35.0	12.4	7.3
	女性-60歳代	148	16.9	27.7	22.3	17.6	15.5	30.4	26.4	10.8	14.2
	女性-70歳代以上	98	14.3	25.5	15.3	11.2	13.3	19.4	24.5	8.2	14.3
	男性	467	17.3	27.0	22.7	8.4	18.8	22.7	30.4	12.0	7.9
	男性-20歳代	40	12.5	22.5	25.0	5.0	15.0	32.5	37.5	5.0	15.0
	男性-30歳代	63	11.1	25.4	12.7	6.3	14.3	22.2	33.3	4.8	14.3
	男性-40歳代	69	15.9	24.6	18.8	8.7	14.5	30.4	31.9	10.1	7.2
	男性-50歳代	95	18.9	28.4	23.2	10.5	18.9	20.0	28.4	15.8	5.3
	男性-60歳代	116	20.7	29.3	23.3	9.5	25.0	24.1	29.3	15.5	5.2
	男性-70歳代以上	83	19.3	27.7	30.1	7.2	19.3	13.3	26.5	13.3	7.2
問1.3 居住地区	三角町	134	15.7	27.6	17.2	14.9	14.9	31.3	33.6	9.0	9.0
	不知火町	177	16.4	26.6	16.4	11.3	19.2	26.0	39.0	6.2	13.6
	松橋町	471	17.2	24.8	19.5	13.2	21.9	24.6	32.9	12.7	11.7
	小川町	228	17.1	22.4	24.1	13.2	21.1	31.1	31.6	11.8	7.9
	豊野町	99	14.1	23.2	15.2	16.2	20.2	26.3	40.4	7.1	7.1

		合計	国際交流 による理 解や強調 の促進	DV、セ クハラ、 ※パワハ ラ防止へ の広報等 での啓発	男女共同 参画社会 づくりの 拠点施設 の設置	農林漁業 の分野に おける男 女共同参 画の推進	学校教育 や社会教 育の中 で、男女 平等や男 女共同参 画につい ての学習 の充実	その他	特にない	不明
性・年代別	全体	1,132	1.8	6.8	4.9	6.1	26.0	0.8	5.7	7.8
	女性	634	1.9	6.5	3.8	4.9	25.7	0.3	4.3	7.6
	女性-20歳代	63	3.2	9.5	1.6	0.0	27.0	1.6	1.6	6.3
	女性-30歳代	90	1.1	10.0	0.0	3.3	14.4	0.0	3.3	2.2
	女性-40歳代	95	1.1	7.4	5.3	3.2	27.4	0.0	4.2	2.1
	女性-50歳代	137	2.2	8.0	3.6	5.8	32.8	0.0	4.4	5.1
	女性-60歳代	148	2.0	3.4	5.4	6.1	25.7	0.7	3.4	10.1
	女性-70歳代以上	98	2.0	3.1	5.1	8.2	24.5	0.0	7.1	18.4
	男性	467	1.5	7.5	6.2	7.9	26.3	1.5	7.7	6.6
	男性-20歳代	40	2.5	2.5	5.0	5.0	22.5	2.5	10.0	5.0
	男性-30歳代	63	6.3	12.7	1.6	9.5	20.6	3.2	12.7	7.9
	男性-40歳代	69	1.4	10.1	2.9	2.9	18.8	4.3	7.2	4.3
	男性-50歳代	95	0.0	7.4	5.3	13.7	27.4	0.0	7.4	6.3
	男性-60歳代	116	0.0	6.0	6.0	8.6	34.5	0.0	2.6	6.9
	男性-70歳代以上	83	1.2	6.0	13.3	4.8	26.5	1.2	10.8	8.4
問1.3 居住地区	三角町	134	0.0	5.2	5.2	9.0	21.6	1.5	6.0	9.0
	不知火町	177	1.7	3.4	5.1	6.8	28.2	1.1	6.2	8.5
	松橋町	471	1.5	8.5	5.5	6.8	27.0	0.4	5.5	5.5
	小川町	228	2.6	6.6	4.8	3.5	26.3	0.9	4.8	9.2
	豊野町	99	4.0	7.1	1.0	4.0	23.2	1.0	6.1	11.1